

大津市
男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書

令和8年3月
大津市

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書の見方.....	1
II 市民アンケート調査結果.....	2
1 回答者について.....	2
2 男女の平等感について.....	5
3 社会参画について.....	22
4 男性の参画について.....	40
5 夫婦間等における暴力（DV等）について.....	42
6 男女共同参画社会づくりについて.....	46
III 事業所アンケート調査結果.....	71
1 事業所について.....	71
2 育児・介護両立支援、ワーク・ライフ・バランスについて.....	85
3 多様な人材の活躍について.....	89
4 ハラスメントについて.....	92
5 男女共同参画全般について.....	94

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「おおつかがやきプラン5（大津市男女共同参画推進計画・大津市女性活躍推進計画）」の策定に向けて、市民や事業所の皆様に男女共同参画に関するご意見等をおうかがいすることを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	市民アンケート調査	事業所アンケート調査
調査対象者	市内在住の18歳以上の方 (無作為抽出)	市内事業所
調査期間	令和8年1月9日(金)～ 1月23日(金)	令和8年1月16日(金)～ 1月30日(金)
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式、WEB回答方式	
配布数	2,000件	457件
有効回収数	681件	171件
有効回収率	34.1%	37.4%

3 報告書の見方

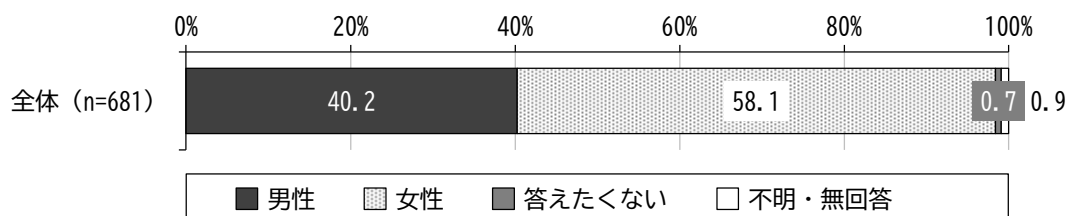
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。
- ◇集計対象者数（n値）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析対象外（分析文中での記載を省略）としています。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者について

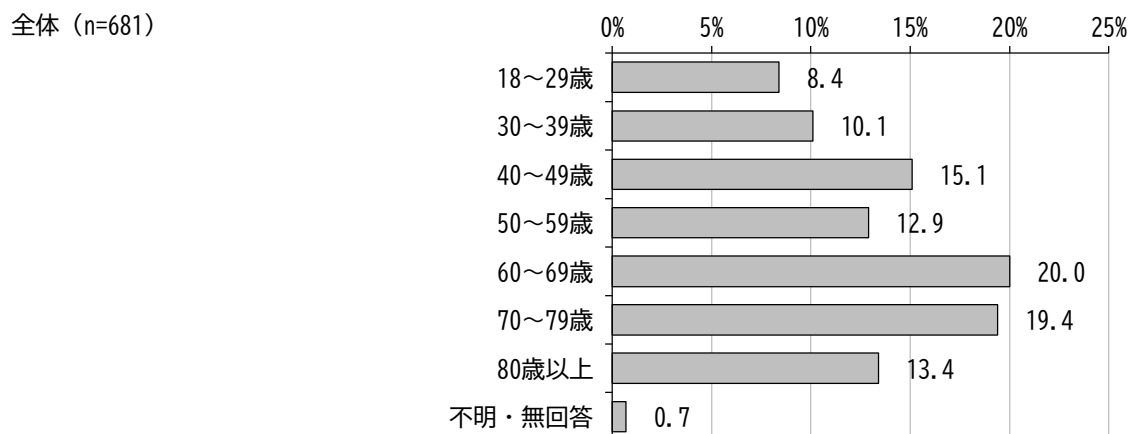
問1 あなたの性別についてお答えください。(○は1つ)

「男性」が40.2%、「女性」が58.1%、「答えたくない」が0.7%となっています。



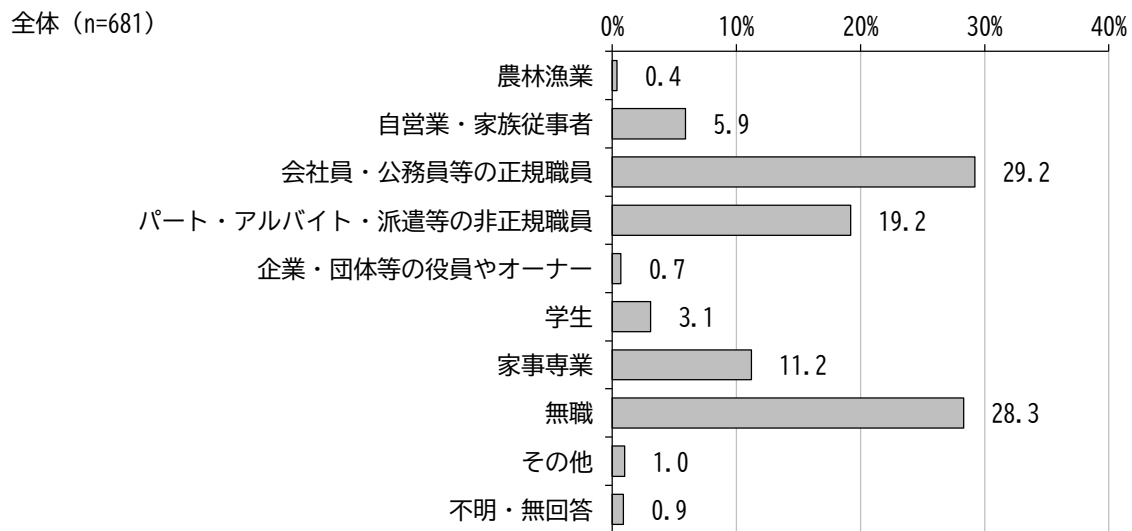
問2 あなたの年齢についてお答えください。(○は1つ) ※令和7年12月1日現在

「60～69歳」が20.0%と最も高く、次いで「70～79歳」が19.4%、「40～49歳」が15.1%となっています。



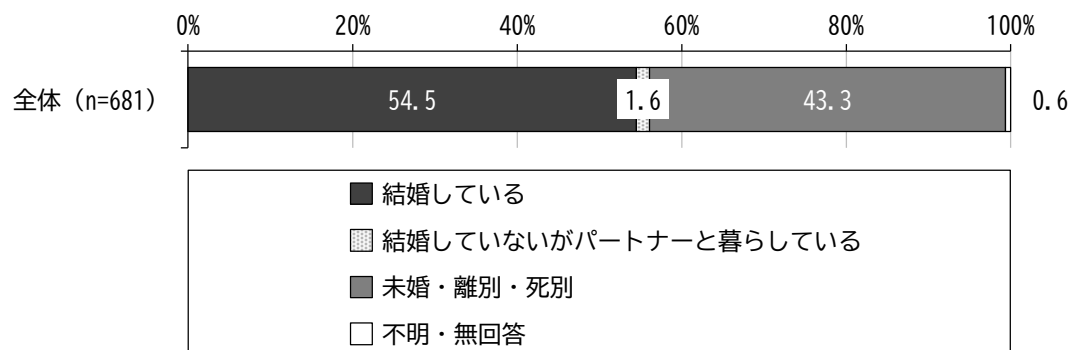
問3 あなたの職業についてお答えください。(○は1つ)

「会社員・公務員等の正規職員」が29.2%と最も高く、次いで「無職」が28.3%、「パート・アルバイト・派遣等の非正規職員」が19.2%となっています。



問4 あなたは現在結婚（事実婚を含む）していますか。(○は1つ)

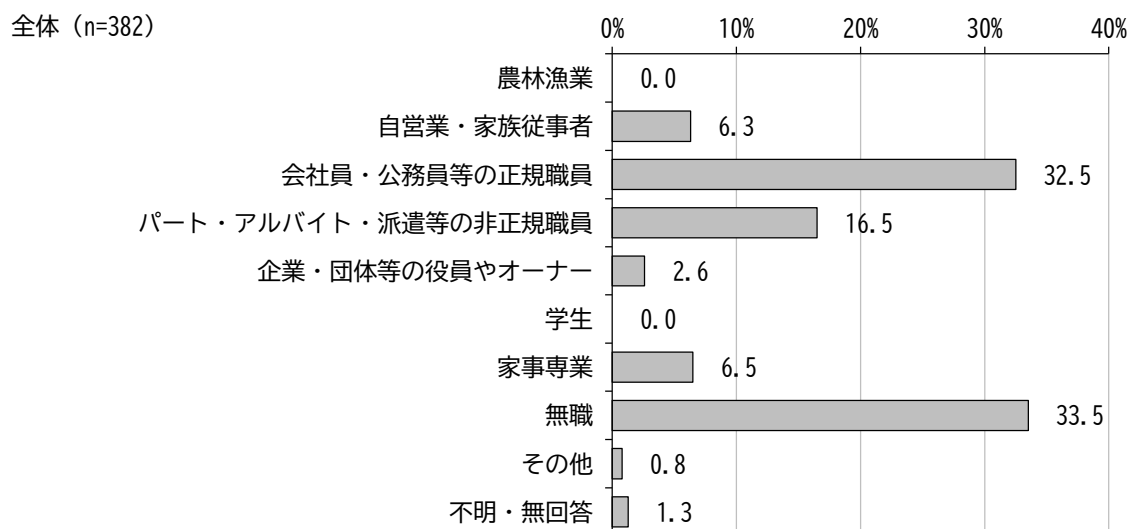
「結婚している」が54.5%と最も高く、次いで「未婚・離別・死別」が43.3%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」が1.6%となっています。



問4で「結婚している」または「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答された方

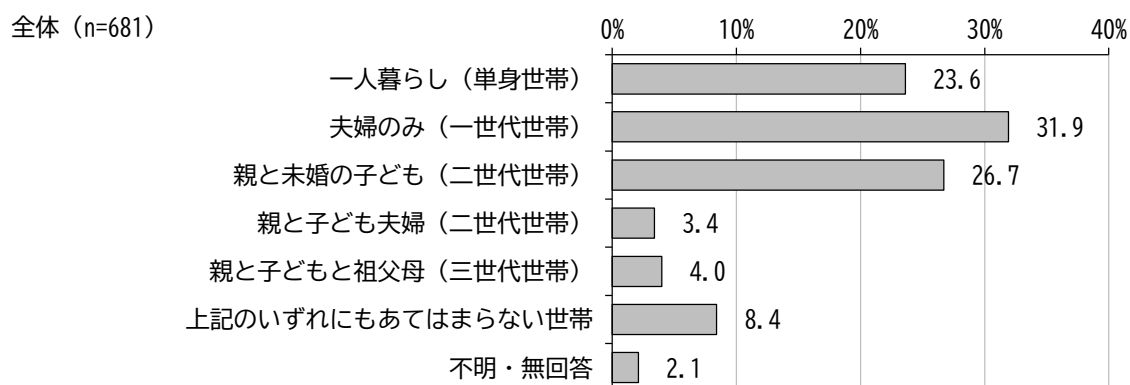
問4-1 配偶者・パートナーの職業は次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

「無職」が33.5%と最も高く、次いで「会社員・公務員等の正規職員」が32.5%、「パート・アルバイト・派遣等の非正規職員」が16.5%となっています。



問5 あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

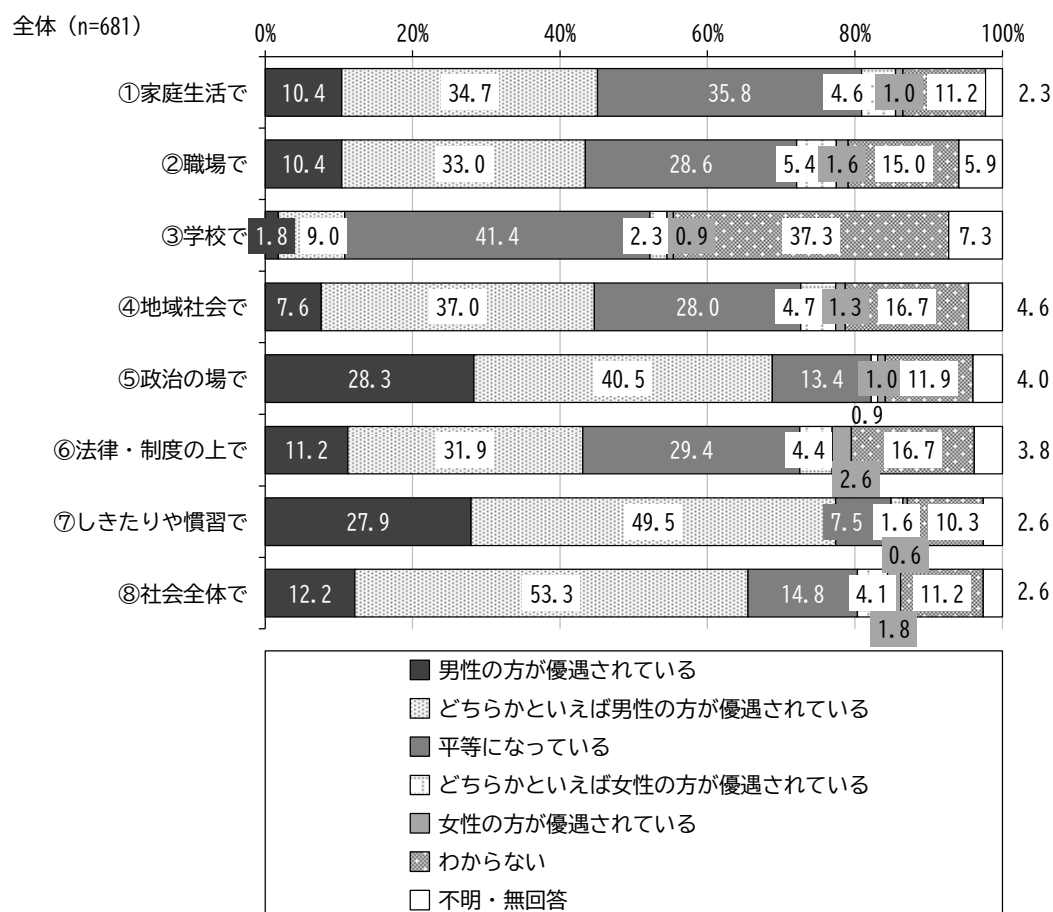
「夫婦のみ(一世代世帯)」が31.9%と最も高く、次いで「親と未婚の子ども(二世代世帯)」が26.7%、「一人暮らし(単身世帯)」が23.6%となっています。



2 男女の平等感について

問6 次の①～⑧の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

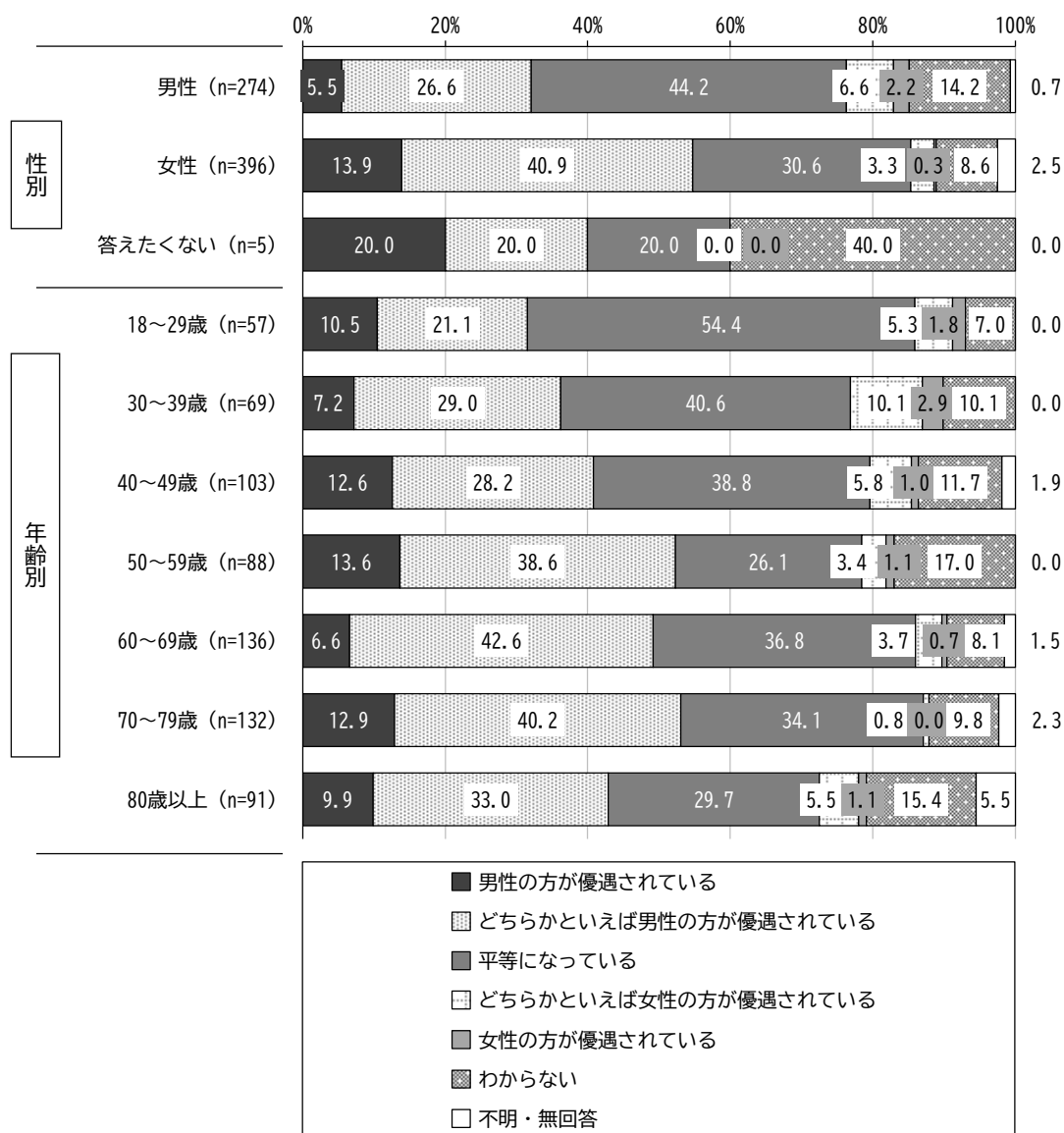
すべての項目で、『女性優遇』(「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計)に比べて『男性優遇』(「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が高くなっており、特に〔⑤政治の場で〕〔⑦しきたりや慣習で〕〔⑧社会全体で〕では6～7割台と他の項目に比べて高くなっています。また、〔③学校で〕では、「平等になっている」が4割台と他の項目に比べて高くなっています。



①家庭生活で

性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。

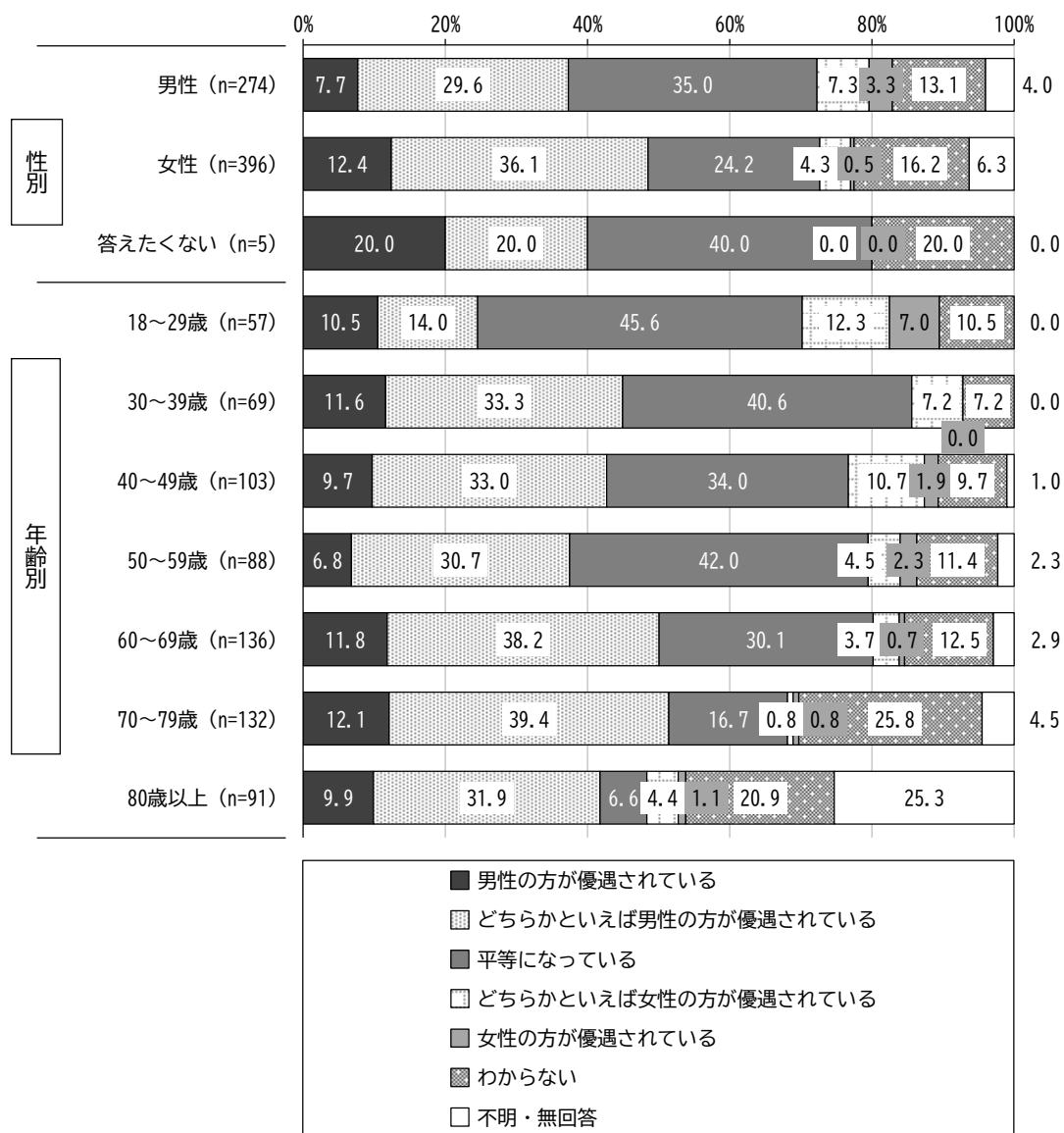
また、「平等」は、性別にみると男性、年齢別にみると18～29歳、30～39歳で4～5割台と他の区分に比べて高くなっています。



②職場で

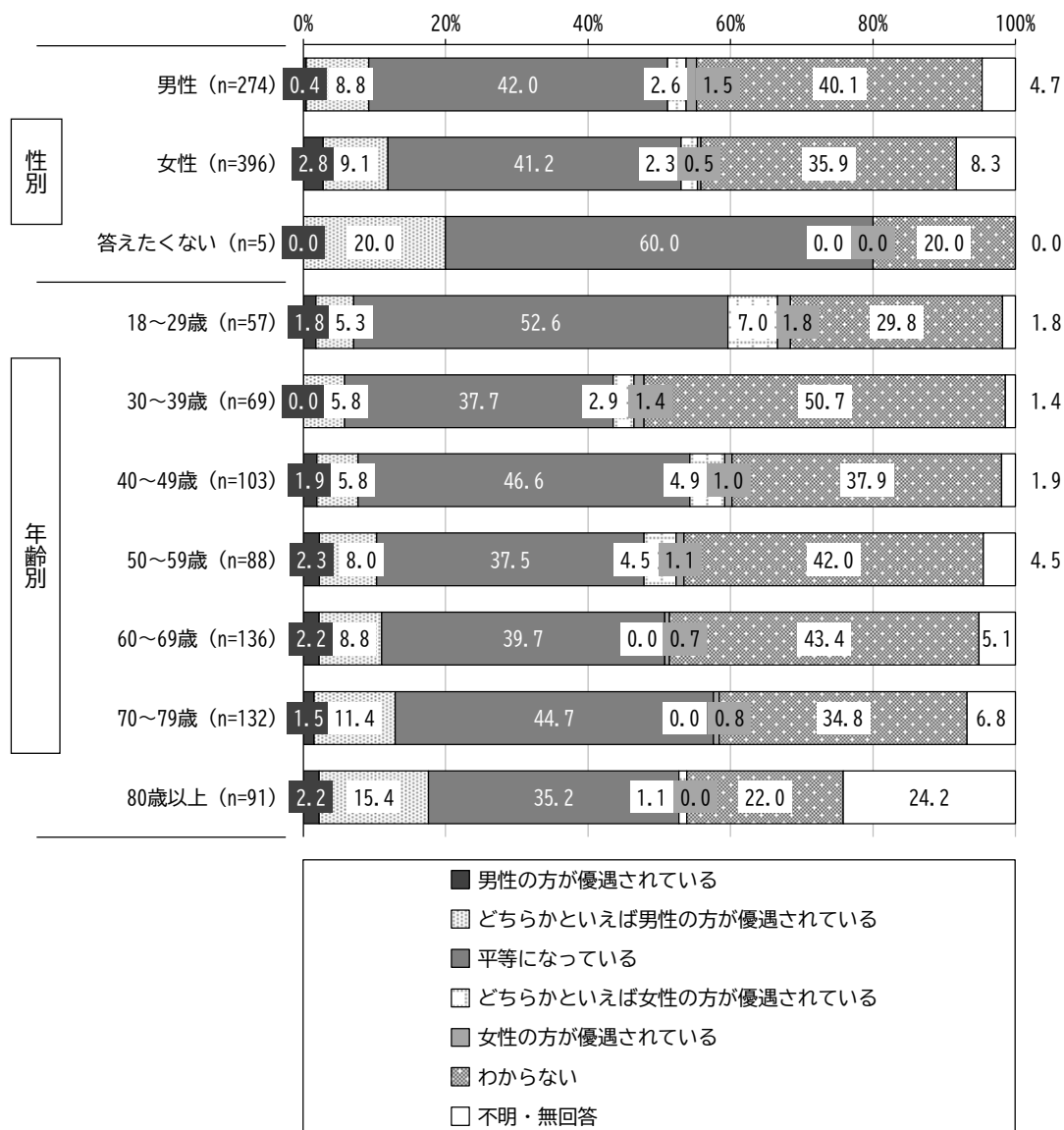
性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。『男性優遇』は、性別にみると女性で5割台と男性に比べて高くなっています、

また、「平等」は、年齢別にみると18～29歳、30～39歳、50～59歳で4割台と他の区分に比べて高くなっています。



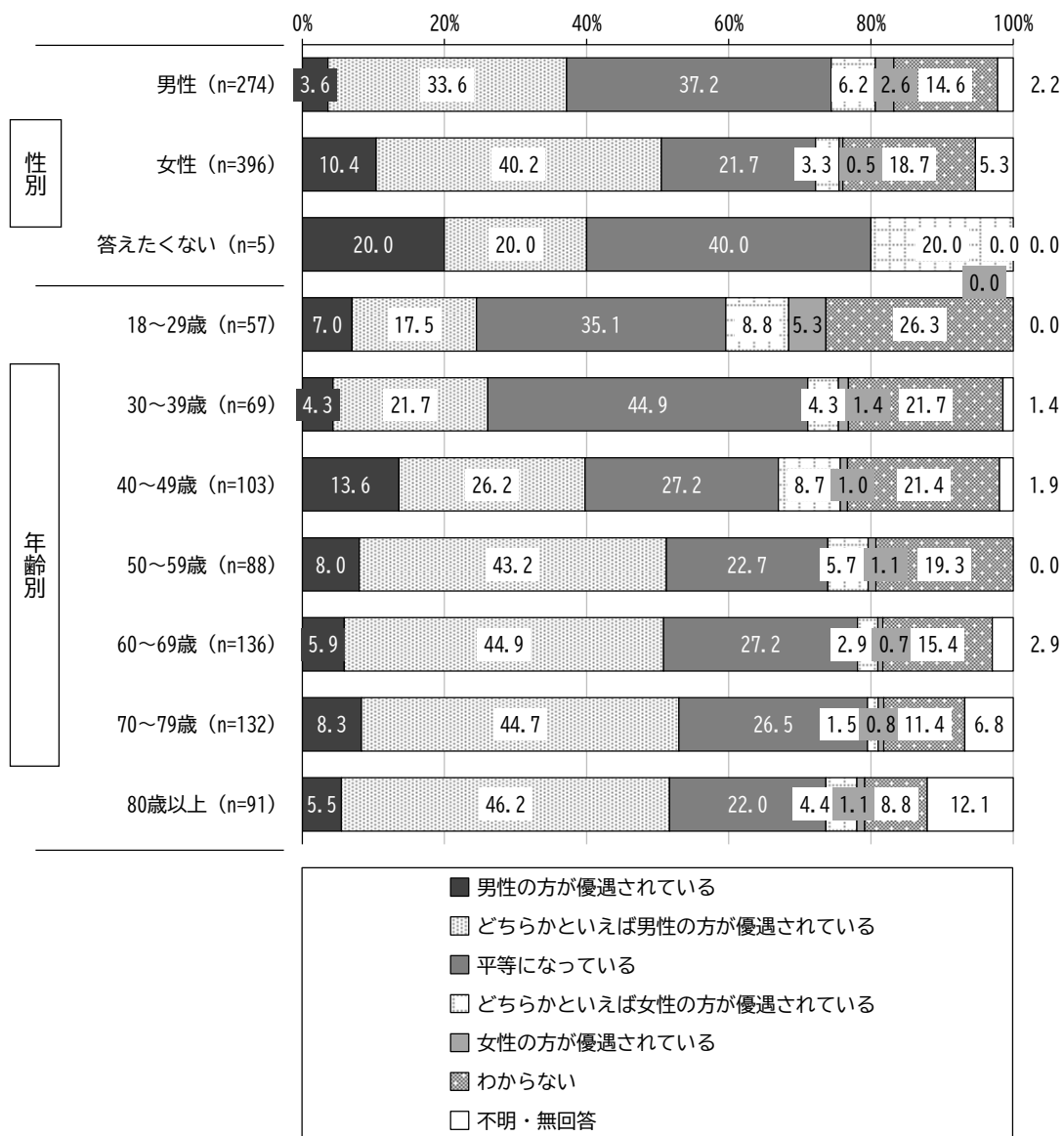
③学校で

性別・年齢別にみると、「わからない」を除き、すべての区分で「平等」が最も高くなっています。



④地域社会で

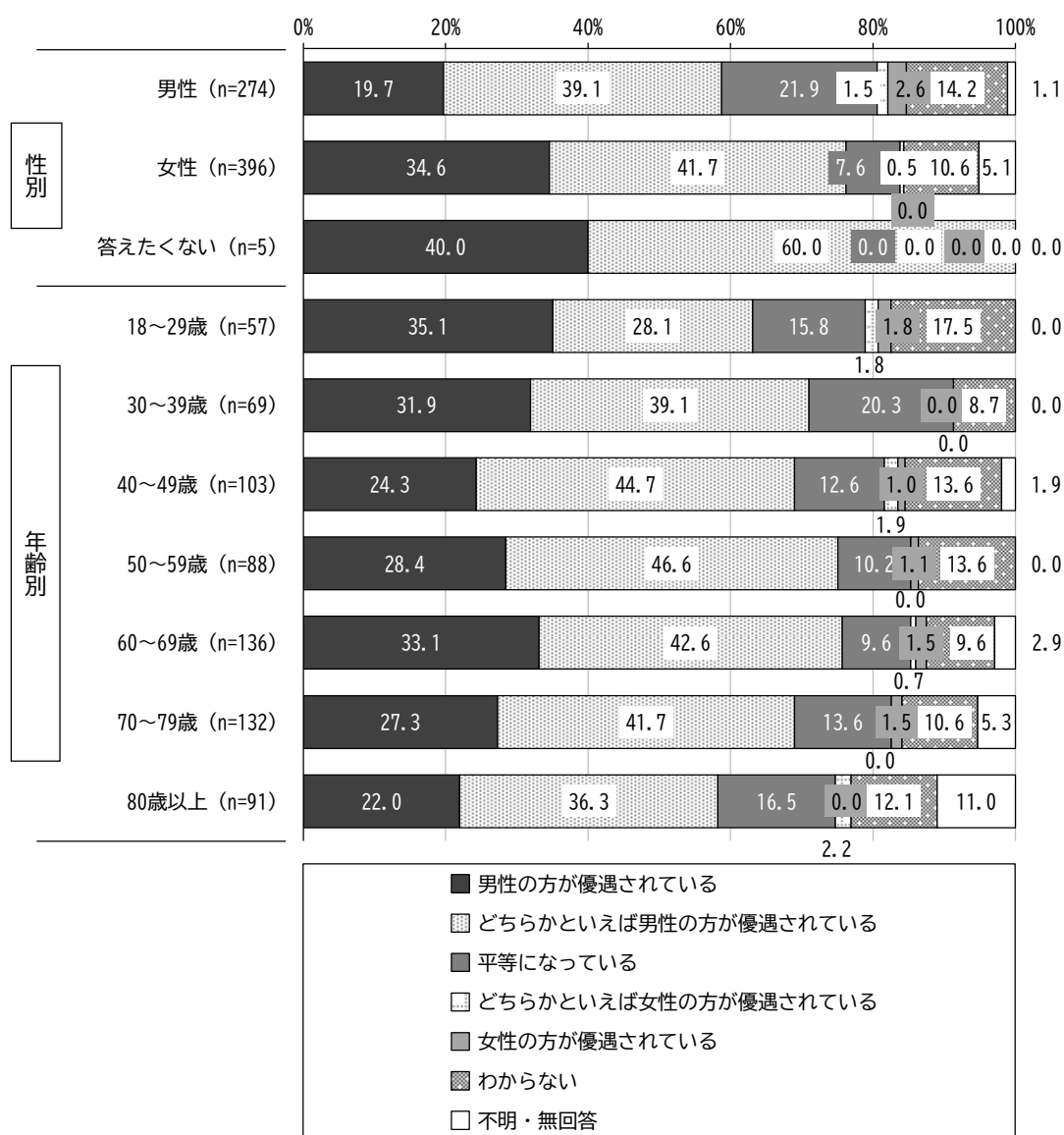
性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。
また、「平等」は、年齢別にみると30～39歳で4割台と他の区分に比べて高くなっています。



⑤政治の場で

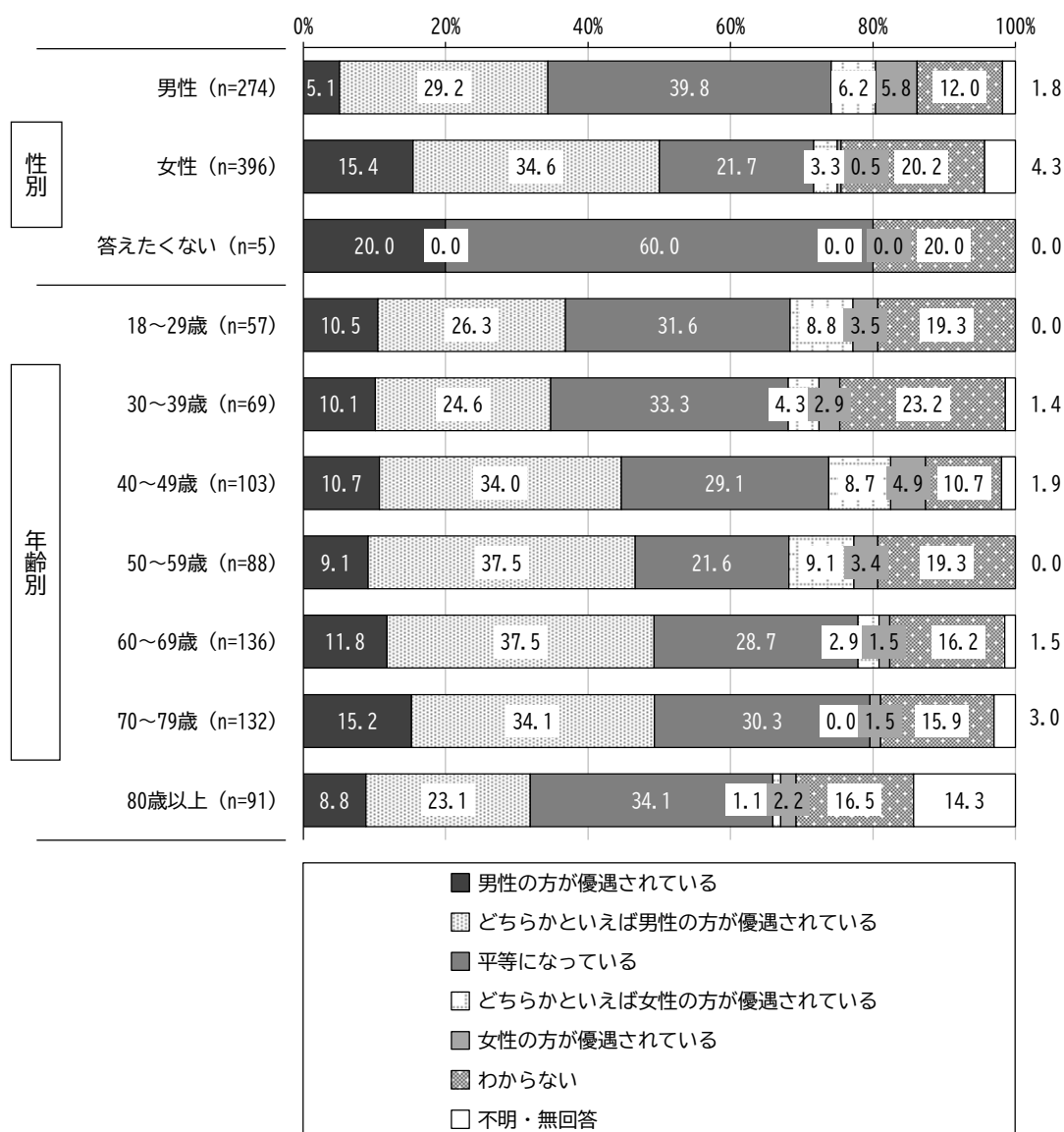
性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。

また、『男性優遇』は、性別にみると女性、年齢別にみると30～39歳、50～59歳、60～69歳で7割台と他の区分に比べて高くなっています。



⑥法律・制度の上で

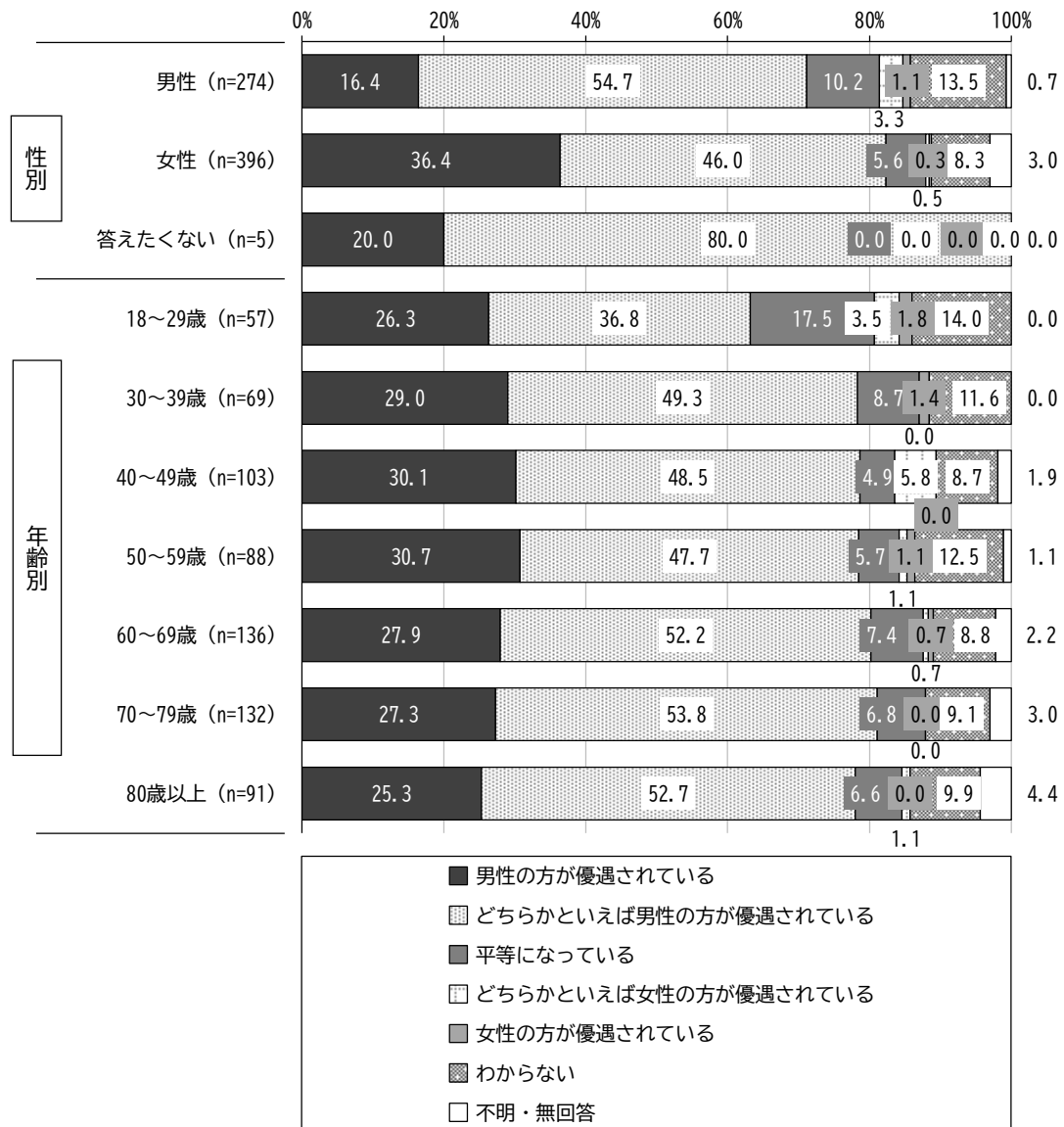
性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。
また、『男性優遇』は、性別にみると女性で5割と男性に比べて高くなっています。



⑦しきたりや慣習で

性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。

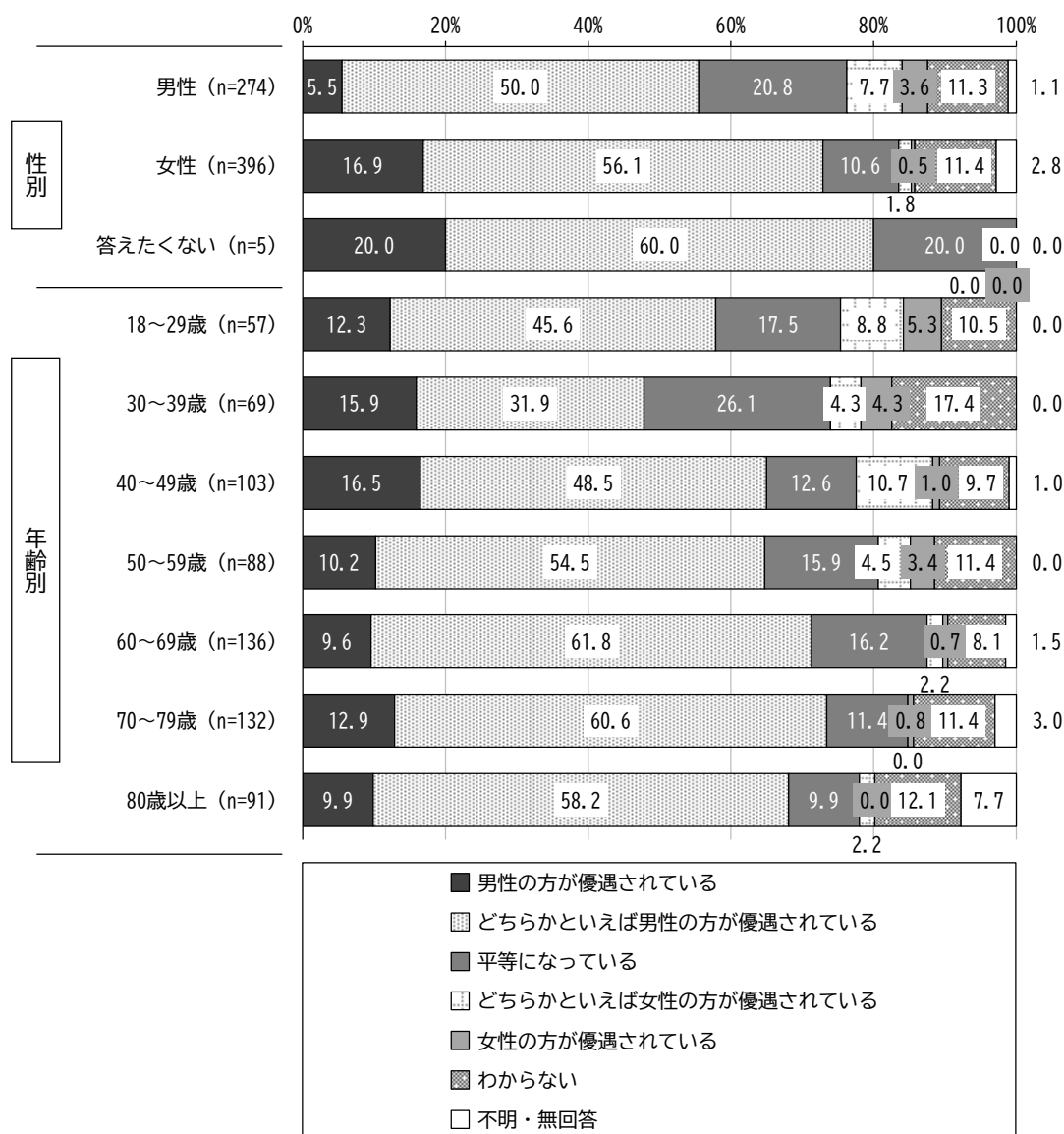
また、『男性優遇』は、性別にみると女性、年齢別にみると 60～69 歳、70～79 歳で 8 割台と他の区分に比べて高くなっています。



⑧社会全体で

性別・年齢別にみると、すべての区分で『女性優遇』よりも『男性優遇』が高くなっています。

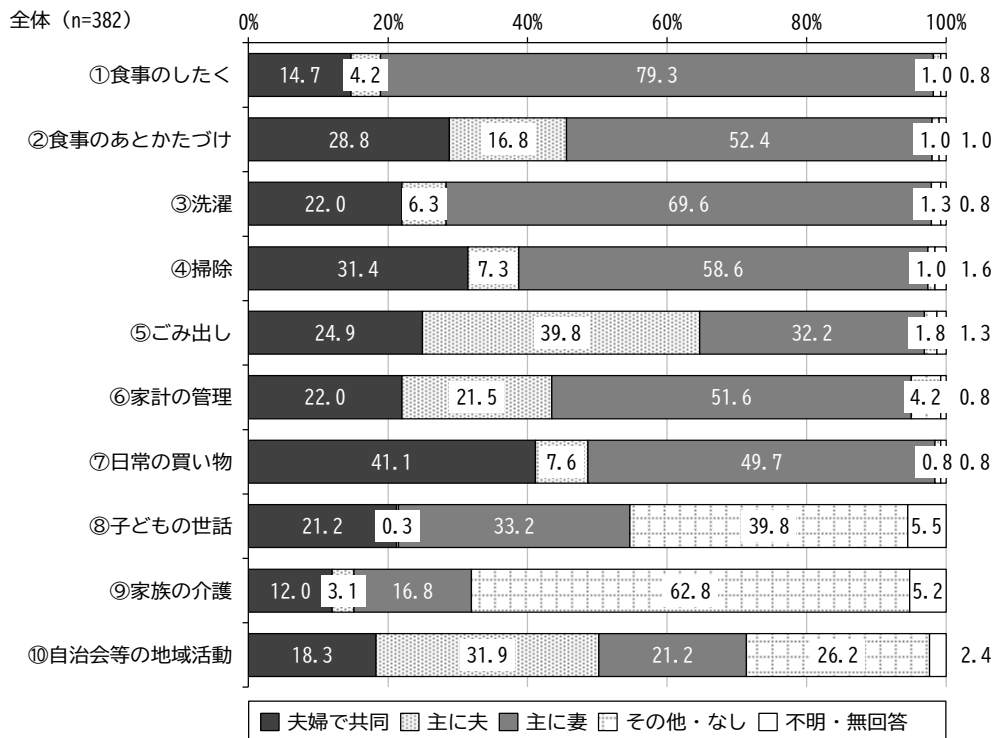
また、『男性優遇』は、性別にみると女性、年齢別にみると60～69歳、70～79歳で7割台と他の区分に比べて高くなっています。



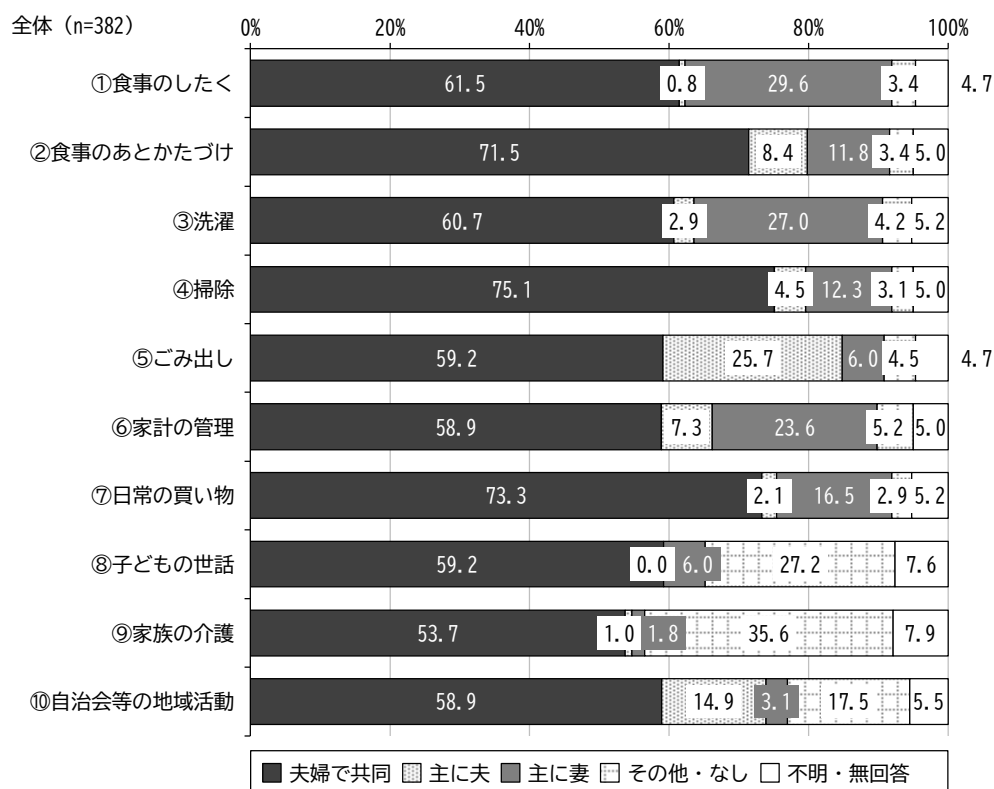
問4で「結婚している」または「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答された方
問7 家庭での役割分担についておたずねします。(それぞれ〇は1つ)

(1)【現状】実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

〔⑤ごみ出し〕〔⑩自治会等の地域活動〕では「主に夫」、〔⑧子どもの世話〕〔⑨家族の介護〕では「その他・なし」、その他の項目では「主に妻」が最も高くなっています。



(2)【理想】家庭での役割分担について、あなたはどのように分担するのが望ましいと思いますか。
すべての項目で「夫婦で共同」が最も高くなっています。



①食事のしたく

【現状】はすべての区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：%		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	11.9	4.0	82.4	1.1	0.6	51.7	0.6	39.2	4.0	4.5
	女性 (n=203)	17.2	4.4	76.4	1.0	1.0	69.5	1.0	21.7	3.0	4.9
	答えたくない (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	62.5	0.0	37.5	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	32.0	4.0	64.0	0.0	0.0	66.0	4.0	26.0	4.0	0.0
	40～49歳 (n=57)	14.0	0.0	86.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
	50～59歳 (n=48)	4.2	4.2	91.7	0.0	0.0	47.9	0.0	45.8	2.1	4.2
	60～69歳 (n=92)	16.3	6.5	75.0	0.0	2.2	60.9	1.1	30.4	4.3	3.3
	70～79歳 (n=85)	5.9	2.4	87.1	3.5	1.2	65.9	0.0	23.5	4.7	5.9
	80歳以上 (n=41)	12.2	9.8	75.6	2.4	0.0	53.7	0.0	22.0	4.9	19.5

②食事のあとかたづけ

【現状】は30～39歳で「夫婦で共同」、その他の区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	31.8	21.0	45.5	0.6	1.1	66.5	9.7	14.8	4.5	4.5
	女性 (n=203)	26.6	12.8	58.1	1.5	1.0	75.4	7.4	9.4	2.5	5.4
	答えたくない (n=3)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	50.0	24.0	26.0	0.0	0.0	62.0	20.0	14.0	2.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	21.1	24.6	54.4	0.0	0.0	73.7	12.3	10.5	1.8	1.8
	50～59歳 (n=48)	27.1	10.4	60.4	2.1	0.0	72.9	4.2	12.5	6.3	4.2
	60～69歳 (n=92)	29.3	13.0	54.3	1.1	2.2	72.8	7.6	13.0	3.3	3.3
	70～79歳 (n=85)	22.4	9.4	65.9	1.2	1.2	76.5	2.4	9.4	4.7	7.1
	80歳以上 (n=41)	24.4	22.0	48.8	2.4	2.4	63.4	4.9	14.6	2.4	14.6

③洗濯

【現状】は30～39歳で「夫婦で共同」、その他の区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	21.0	10.2	67.0	1.1	0.6	56.8	4.5	29.0	4.0	5.7
	女性 (n=203)	23.2	3.0	71.4	1.5	1.0	63.5	1.5	25.6	4.4	4.9
	答えたくない (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	62.0	10.0	28.0	0.0	0.0	74.0	6.0	16.0	2.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	24.6	10.5	64.9	0.0	0.0	73.7	1.8	22.8	1.8	0.0
	50～59歳 (n=48)	8.3	2.1	89.6	0.0	0.0	56.3	2.1	33.3	4.2	4.2
	60～69歳 (n=92)	21.7	4.3	69.6	2.2	2.2	57.6	1.1	29.3	7.6	4.3
	70～79歳 (n=85)	11.8	2.4	82.4	2.4	1.2	56.5	1.2	29.4	5.9	7.1
	80歳以上 (n=41)	7.3	9.8	80.5	2.4	0.0	46.3	7.3	29.3	0.0	17.1

④掃除

【現状】は30～39歳で「夫婦で共同」「主に妻」、その他の区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	33.5	8.0	55.7	1.7	1.1	71.0	3.4	18.2	3.4	4.0
	女性 (n=203)	29.6	6.4	61.6	0.5	2.0	78.3	5.4	7.4	3.0	5.9
	答えたくない (n=3)	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	37.5	12.5	50.0	0.0	0.0	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	48.0	4.0	48.0	0.0	0.0	72.0	8.0	16.0	2.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	36.8	7.0	56.1	0.0	0.0	87.7	1.8	10.5	0.0	0.0
	50～59歳 (n=48)	14.6	2.1	81.3	2.1	0.0	68.8	4.2	18.8	4.2	4.2
	60～69歳 (n=92)	27.2	8.7	60.9	0.0	3.3	73.9	5.4	13.0	4.3	3.3
	70～79歳 (n=85)	28.2	8.2	57.6	3.5	2.4	80.0	1.2	5.9	5.9	7.1
	80歳以上 (n=41)	39.0	12.2	46.3	0.0	2.4	63.4	7.3	12.2	0.0	17.1

⑤ごみ出し

【現状】は50～59歳、70～79歳で「主に妻」、その他の区分で「主に夫」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	25.0	43.2	28.4	2.3	1.1	55.1	29.0	6.8	5.1	4.0
	女性 (n=203)	25.1	36.5	35.5	1.5	1.5	62.6	22.7	5.4	3.9	5.4
	答えたくない (n=3)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	28.0	56.0	16.0	0.0	0.0	56.0	38.0	2.0	2.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	24.6	49.1	24.6	1.8	0.0	61.4	31.6	5.3	1.8	0.0
	50～59歳 (n=48)	18.8	31.3	45.8	2.1	2.1	60.4	18.8	8.3	6.3	6.3
	60～69歳 (n=92)	31.5	32.6	31.5	2.2	2.2	60.9	20.7	9.8	5.4	3.3
	70～79歳 (n=85)	18.8	36.5	42.4	1.2	1.2	60.0	23.5	3.5	7.1	5.9
	80歳以上 (n=41)	24.4	41.5	26.8	4.9	2.4	48.8	29.3	4.9	2.4	14.6

⑥家計の管理

【現状】はすべての区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	20.5	21.0	54.5	3.4	0.6	53.4	8.0	27.3	6.3	5.1
	女性 (n=203)	23.2	22.2	48.8	4.9	1.0	64.0	6.9	19.7	4.4	4.9
	答えたくない (n=3)	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	37.5	12.5	37.5	12.5	0.0	75.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	30～39歳 (n=50)	20.0	36.0	40.0	4.0	0.0	54.0	12.0	24.0	8.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	28.1	19.3	47.4	5.3	0.0	63.2	8.8	21.1	7.0	0.0
	50～59歳 (n=48)	16.7	31.3	47.9	4.2	0.0	62.5	4.2	25.0	4.2	4.2
	60～69歳 (n=92)	22.8	17.4	53.3	4.3	2.2	59.8	7.6	23.9	5.4	3.3
	70～79歳 (n=85)	21.2	17.6	56.5	3.5	1.2	58.8	8.2	22.4	3.5	7.1
	80歳以上 (n=41)	19.5	14.6	63.4	2.4	0.0	51.2	2.4	26.8	2.4	17.1

⑦日常の買い物

【現状】は30～39歳で「夫婦で共同」、その他の区分で「主に妻」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	43.2	9.1	46.0	1.1	0.6	71.6	2.3	18.2	2.8	5.1
	女性 (n=203)	39.9	6.4	52.2	0.5	1.0	74.9	2.0	14.8	3.0	5.4
	答えたくない (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	56.0	6.0	38.0	0.0	0.0	70.0	8.0	18.0	2.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	33.3	7.0	59.6	0.0	0.0	73.7	0.0	26.3	0.0	0.0
	50～59歳 (n=48)	35.4	4.2	60.4	0.0	0.0	70.8	0.0	20.8	4.2	4.2
	60～69歳 (n=92)	40.2	5.4	52.2	0.0	2.2	75.0	1.1	16.3	3.3	4.3
	70～79歳 (n=85)	42.4	8.2	45.9	2.4	1.2	77.6	3.5	5.9	5.9	7.1
	80歳以上 (n=41)	34.1	17.1	46.3	2.4	0.0	65.9	0.0	17.1	0.0	17.1

⑧子どもの世話

【現状】は30～39歳で「夫婦で共同」、40～49歳、50～59歳で「主に妻」、その他の区分で「その他・なし」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	24.4	0.6	27.3	42.6	5.1	54.5	0.0	9.1	29.5	6.8
	女性 (n=203)	18.7	0.0	37.4	37.9	5.9	62.6	0.0	3.4	25.6	8.4
	答えたくない (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	12.5	0.0	12.5	75.0	0.0	75.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	30～39歳 (n=50)	48.0	0.0	30.0	22.0	0.0	90.0	0.0	2.0	6.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	40.4	0.0	45.6	14.0	0.0	87.7	0.0	7.0	5.3	0.0
	50～59歳 (n=48)	16.7	0.0	45.8	37.5	0.0	50.0	0.0	10.4	35.4	4.2
	60～69歳 (n=92)	14.1	0.0	32.6	45.7	7.6	47.8	0.0	5.4	40.2	6.5
	70～79歳 (n=85)	9.4	1.2	28.2	51.8	9.4	49.4	0.0	3.5	35.3	11.8
	80歳以上 (n=41)	9.8	0.0	22.0	53.7	14.6	36.6	0.0	9.8	29.3	24.4

⑨家族の介護

【現状】はすべての区分で「その他・なし」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	15.3	4.5	14.8	60.2	5.1	52.3	1.7	2.8	35.8	7.4
	女性 (n=203)	8.9	2.0	18.7	65.0	5.4	54.7	0.5	1.0	35.5	8.4
	答えたくない (n=3)	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	12.5	0.0	12.5	75.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	4.0	0.0	6.0	88.0	2.0	56.0	0.0	0.0	40.0	4.0
	40～49歳 (n=57)	8.8	0.0	7.0	84.2	0.0	64.9	1.8	5.3	28.1	0.0
	50～59歳 (n=48)	12.5	4.2	20.8	62.5	0.0	50.0	2.1	2.1	41.7	4.2
	60～69歳 (n=92)	19.6	5.4	23.9	44.6	6.5	54.3	2.2	1.1	35.9	6.5
	70～79歳 (n=85)	8.2	3.5	22.4	56.5	9.4	49.4	0.0	2.4	36.5	11.8
	80歳以上 (n=41)	17.1	4.9	12.2	53.7	12.2	43.9	0.0	0.0	31.7	24.4

⑩自治会等の地域活動

【現状】は30～39歳、40～49歳で「その他・なし」、50～59歳で「主に夫」「主に妻」、その他の区分で「主に夫」が最も高く、【理想】はすべての区分で「夫婦で共同」が最も高くなっています。

単位：％		現状					理想				
		夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答	夫婦で共同	主に夫	主に妻	その他・なし	不明・無回答
性別	男性 (n=176)	18.8	35.8	18.2	25.6	1.7	56.8	14.8	4.5	19.9	4.0
	女性 (n=203)	17.7	29.1	23.6	26.6	3.0	60.1	15.3	2.0	15.8	6.9
	答えたくない (n=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=8)	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	30～39歳 (n=50)	16.0	16.0	12.0	56.0	0.0	62.0	10.0	0.0	26.0	2.0
	40～49歳 (n=57)	21.1	24.6	21.1	33.3	0.0	64.9	15.8	3.5	15.8	0.0
	50～59歳 (n=48)	10.4	33.3	33.3	22.9	0.0	50.0	18.8	4.2	22.9	4.2
	60～69歳 (n=92)	27.2	30.4	21.7	16.3	4.3	62.0	12.0	4.3	17.4	4.3
	70～79歳 (n=85)	12.9	47.1	21.2	15.3	3.5	60.0	18.8	2.4	10.6	8.2
	80歳以上 (n=41)	17.1	39.0	19.5	19.5	4.9	46.3	17.1	2.4	17.1	17.1

問7で「現状」と「理想」が異なっている方

問7 - 1 「現状」と「理想」が異なっている理由は何だと思われますか。自由に記載してください。

「現状」と「理想」が異なっている理由について、229件の記載があり、以下のとおり分類しました。
(複数の分野にまたがる回答があるため、合計は記載件数と一致しません。)

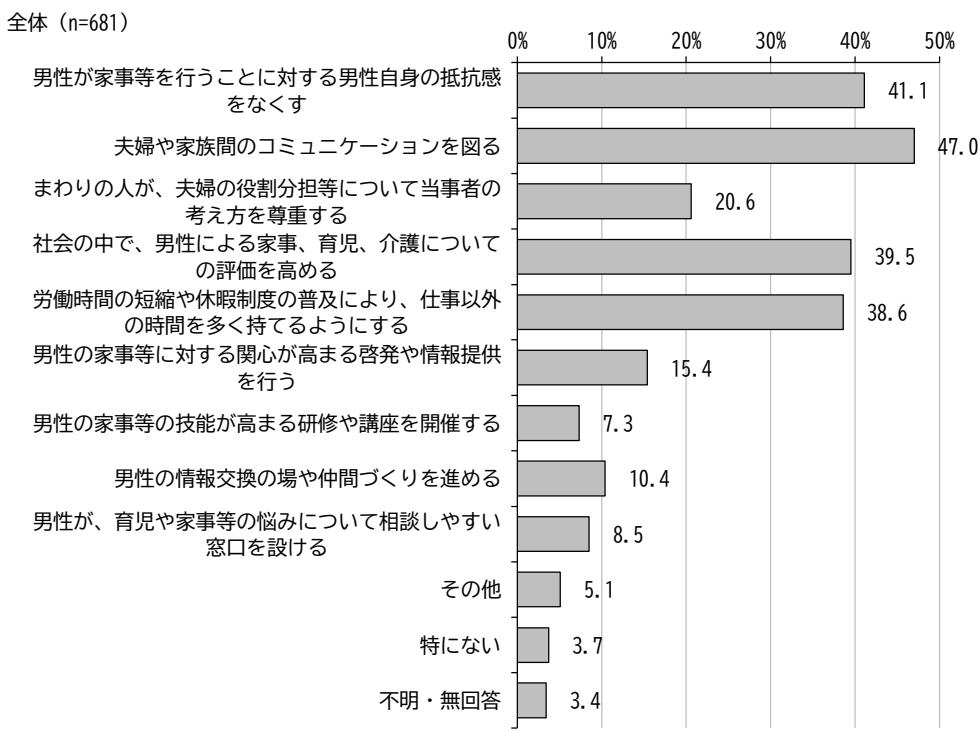
分野	件
勤務時間・在宅時間の都合	68
古い考え・慣習による	50
家事の技量・スキルの違い	36
意識の違い、共同意識の低さ	33
賃金・社会格差	12
介護・障害があるため	8
身体的な違い、体力差	4
やる気がない	4
一人暮らしのため	3
法制度が不十分なため	3
わからない	2
その他	16

問8 男性が女性とともに、子育てや介護を担っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「夫婦や家族間のコミュニケーションを図る」が47.0%と最も高く、次いで「男性が家事等を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が41.1%、「社会の中で、男性による家事、育児、介護についての評価を高める」が39.5%となっています。

性別にみると、男性で「夫婦や家族間のコミュニケーションを図る」、女性で「男性が家事等を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29歳、60～69歳、70～79歳で「夫婦や家族間のコミュニケーションを図る」、30～39歳、40～49歳、50～59歳で「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」、80歳以上で「男性が家事等を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も高くなっています。



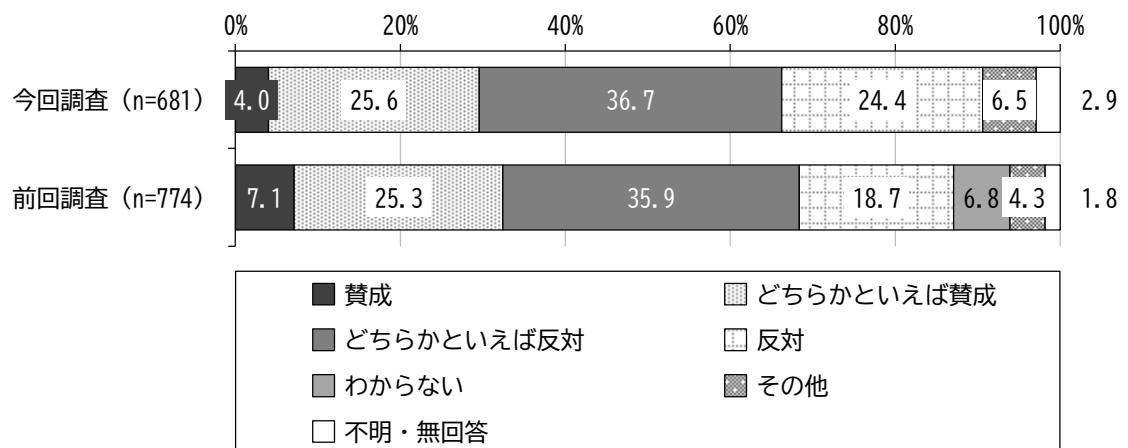
単位：%		男性が家事等を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす	夫婦や家族間のコミュニケーションを図る	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する	社会の中で、男性による家事、育児、介護についての評価を高める	労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする	男性の家事等に対する関心が高まる啓発や情報提供を行う	男性の家事等の技能が高まる研修や講座を開催する	男性の情報交換の場や仲間づくりを進める	男性が、育児や家事等の悩みについて相談しやすい窓口を設ける	その他	特にない	不明・無回答
性別	男性 (n=274)	29.9	50.0	18.6	35.0	40.9	15.7	7.7	12.8	6.6	6.9	5.1	2.9
	女性 (n=396)	49.0	44.2	22.0	42.9	36.9	15.7	7.3	8.6	9.8	3.8	2.8	3.5
	答えたくない (n=5)	40.0	80.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	36.8	45.6	15.8	40.4	43.9	17.5	10.5	8.8	7.0	3.5	5.3	1.8
	30～39歳 (n=69)	26.1	58.0	33.3	39.1	63.8	14.5	1.4	13.0	2.9	8.7	0.0	1.4
	40～49歳 (n=103)	41.7	35.9	22.3	45.6	47.6	12.6	9.7	3.9	4.9	5.8	1.9	1.0
	50～59歳 (n=88)	37.5	40.9	25.0	29.5	44.3	5.7	1.1	11.4	9.1	8.0	2.3	2.3
	60～69歳 (n=136)	44.9	52.9	15.4	37.5	31.6	11.8	9.6	11.8	6.6	5.1	5.1	3.7
	70～79歳 (n=132)	44.7	48.5	13.6	44.7	28.8	24.2	6.1	11.4	11.4	3.8	4.5	6.8
	80歳以上 (n=91)	47.3	44.0	25.3	37.4	25.3	20.9	12.1	13.2	16.5	2.2	5.5	4.4

3 社会参画について

問9 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

「どちらかといえば反対」が36.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が25.6%、「反対」が24.4%となっています。

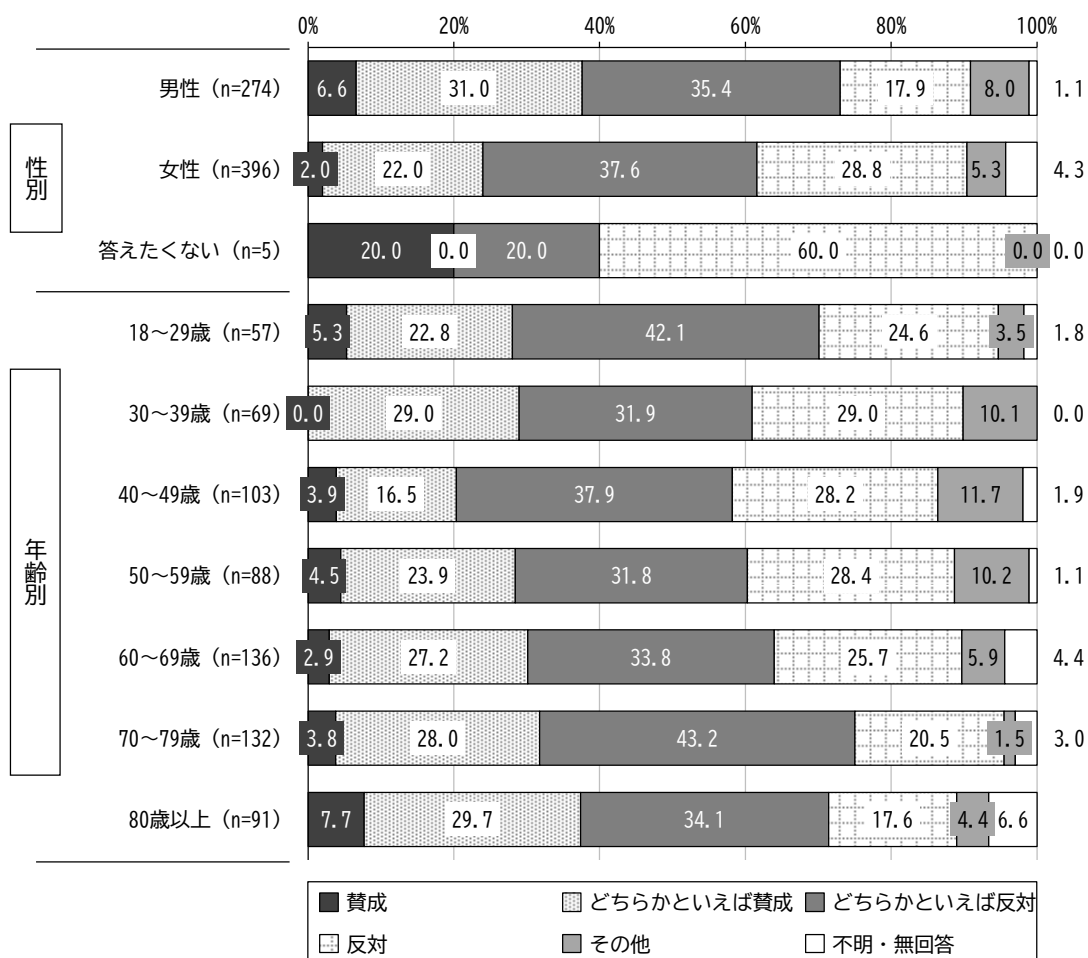
前回調査と比較すると、「反対」が5.7ポイント増加しています。



※「わからない」は前回調査のみの選択肢。

性別・年齢別にみると、すべての区分で「どちらかといえば反対」が最も高くなっています。

また、性別にみると、男性に比べて女性で『反対』（「反対」「どちらかといえば反対」の合計）が高くなっています。

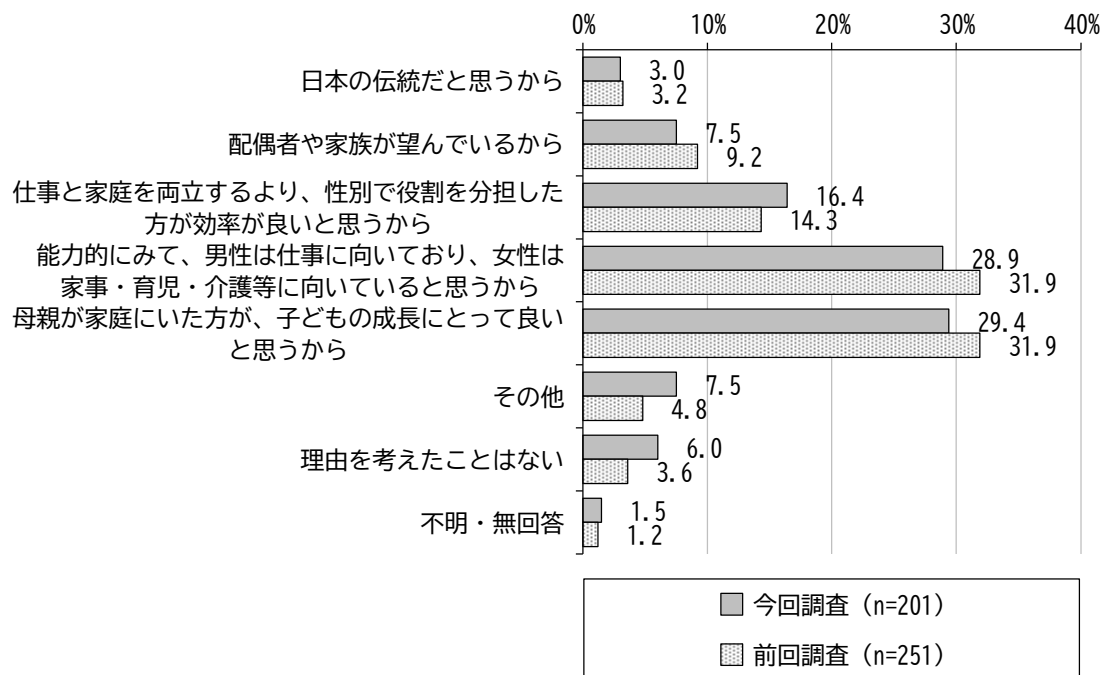


問9で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答された方

問9-1 お考えの理由に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が29.4%と最も高く、次いで「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから」が28.9%、「仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから」が16.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



性別にみると、男性で「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから」、女性で「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29 歳、40～49 歳、60～69 歳で「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから」、30～39 歳で「仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから」、50～59 歳、70～79 歳、80 歳以上で「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

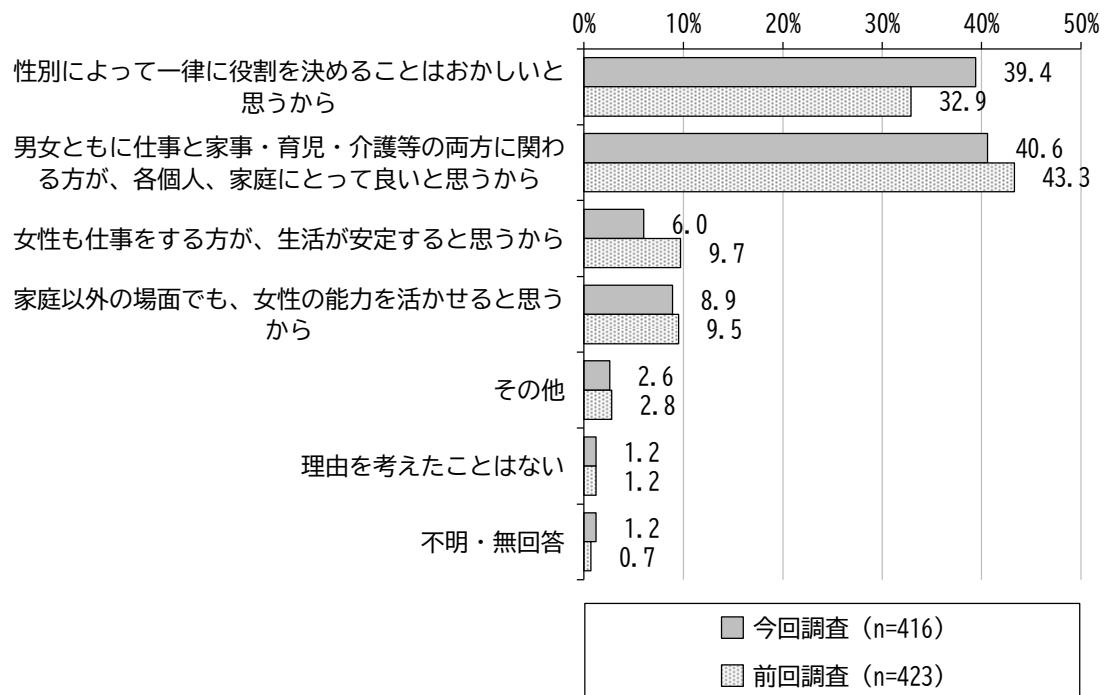
単位：％		日本の伝統だ と思うから	配偶者や家族が 望んでいるか	仕事と役割を 両立する方が 効率的	育児・介護等 に向いており、 男性は仕事・事 業に	母親が家庭に いて、女性も 家庭にいて、 両方が良いと 思う	その他	理由を考えた ことはない	不明・無回答
性別	男性 (n=103)	2.9	9.7	16.5	32.0	25.2	7.8	4.9	1.0
	女性 (n=95)	3.2	5.3	14.7	26.3	33.7	7.4	7.4	2.1
	答えたくない (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=16)	0.0	6.3	25.0	31.3	25.0	12.5	0.0	0.0
	30～39歳 (n=20)	0.0	10.0	35.0	20.0	15.0	15.0	5.0	0.0
	40～49歳 (n=21)	0.0	4.8	14.3	33.3	23.8	19.0	0.0	4.8
	50～59歳 (n=25)	0.0	12.0	20.0	16.0	44.0	4.0	4.0	0.0
	60～69歳 (n=41)	4.9	9.8	4.9	46.3	22.0	7.3	2.4	2.4
	70～79歳 (n=42)	4.8	7.1	14.3	21.4	33.3	4.8	11.9	2.4
	80歳以上 (n=34)	5.9	2.9	11.8	29.4	38.2	0.0	11.8	0.0

問9で「どちらかといえば反対」または「反対」と回答された方

問9-2 お考えの理由に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が40.6%と最も高く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が39.4%、「家庭以外の場面でも、女性の能力を活かせると思うから」が8.9%となっています。

前回調査と比較すると、「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が6.5ポイント増加しています。



性別にみると、男性で「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」、女性で「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29歳、30～39歳、40～49歳で「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」、その他の年齢で「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

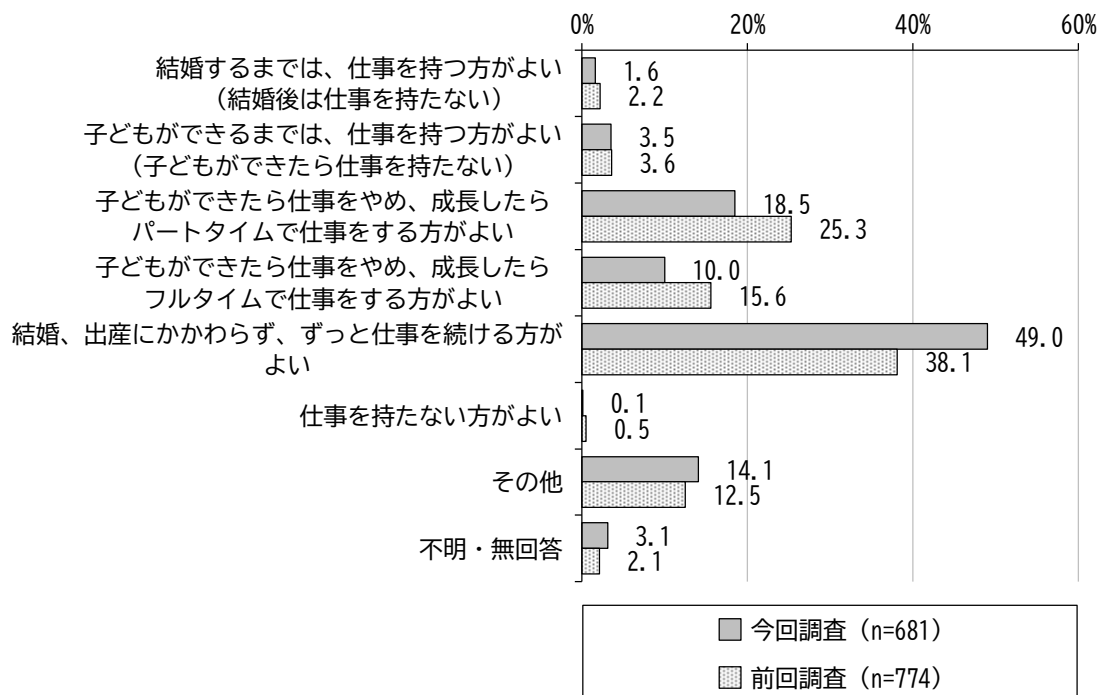
単位：％		性別によつて おてかし い役割を か決	男・女とも に仕事と 家事・育 児・介護 等に関わ る方が良 いと思 うから	女性も仕 事をする 方が、生 活が安定 するから	家庭以外 の場面 でも、女 性の能 力を活 かせる と思 うから	そ の 他	理 由 を 考 え た こ と は な い	不 明 ・ 無 回 答
性別	男性 (n=146)	39.7	30.8	8.9	11.0	4.1	3.4	2.1
	女性 (n=263)	39.2	45.6	4.6	8.0	1.9	0.0	0.8
	答えたくない (n=4)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=38)	50.0	28.9	5.3	7.9	7.9	0.0	0.0
	30～39歳 (n=42)	52.4	40.5	2.4	4.8	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 (n=68)	48.5	30.9	5.9	10.3	2.9	1.5	0.0
	50～59歳 (n=53)	39.6	45.3	5.7	5.7	3.8	0.0	0.0
	60～69歳 (n=81)	42.0	44.4	1.2	4.9	2.5	2.5	2.5
	70～79歳 (n=84)	28.6	44.0	13.1	10.7	0.0	2.4	1.2
	80歳以上 (n=47)	23.4	44.7	6.4	17.0	4.3	0.0	4.3

問 10 女性の働き方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が49.0%と最も高く、次いで「子どもができれば仕事をやめ、成長したらパートタイムで仕事をする方がよい」が18.5%、「その他」が14.1%となっています。

前回調査と比較すると、「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が10.9ポイント増加しています。

性別・年齢別にみると、すべての区分で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も高くなっています。



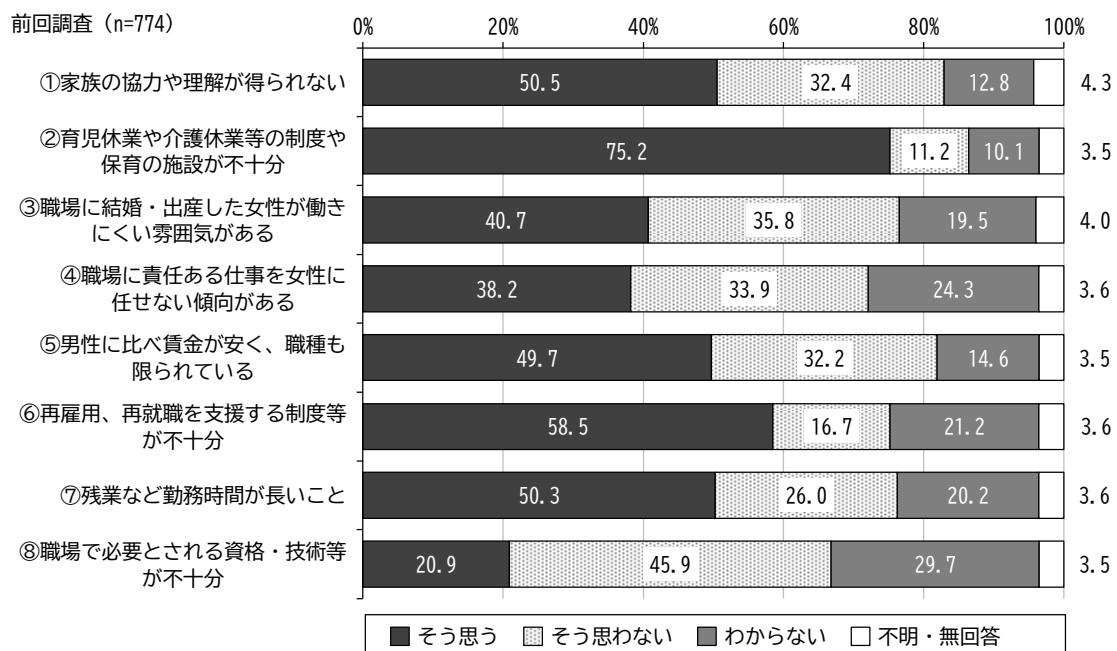
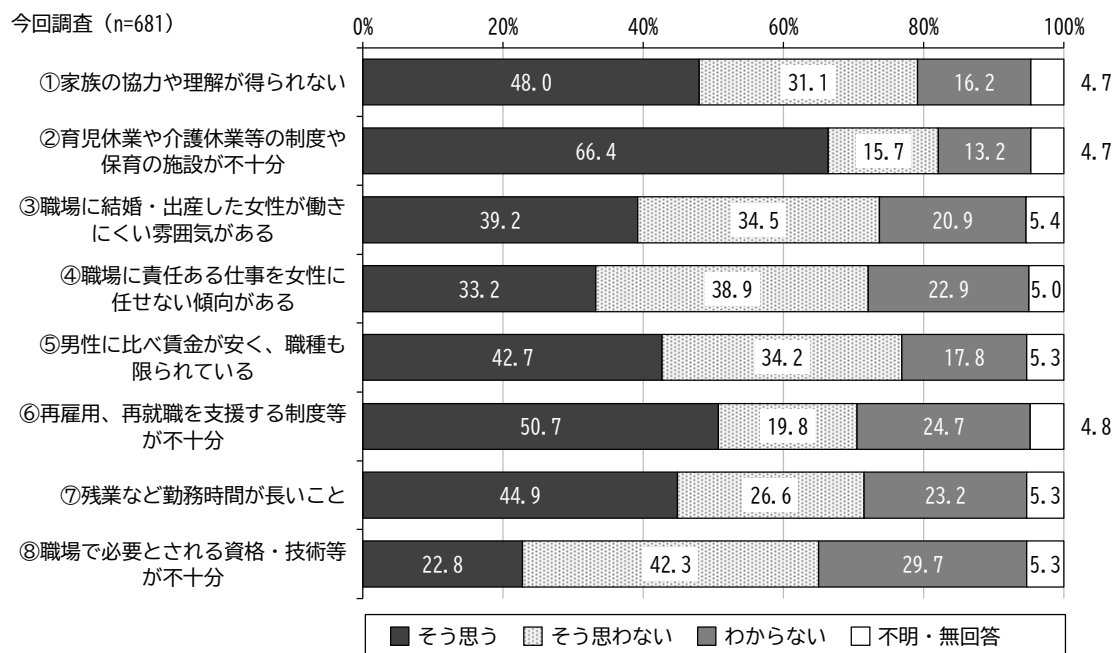
単位：%		結婚するまでは、仕事を持つ方がよい (結婚後は仕事を持たない)	子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい (子どもができれば仕事を持たない)	子どもができれば仕事をやめ、成長したらパートタイムで仕事をする方がよい	子どもができれば仕事をやめ、成長したらフルタイムで仕事をする方がよい	結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい	仕事を持たない方がよい	その他	不明・無回答
性別	男性 (n=274)	2.2	4.0	19.3	12.8	42.7	0.0	15.0	4.0
	女性 (n=396)	1.3	3.0	17.9	7.8	53.8	0.3	13.4	2.5
	答えたくない (n=5)	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	5.3	7.0	10.5	10.5	50.9	0.0	15.8	0.0
	30～39歳 (n=69)	0.0	0.0	14.5	8.7	47.8	0.0	26.1	2.9
	40～49歳 (n=103)	0.0	3.9	25.2	2.9	48.5	1.0	18.4	0.0
	50～59歳 (n=88)	0.0	1.1	14.8	5.7	55.7	0.0	18.2	4.5
	60～69歳 (n=136)	0.0	2.9	19.9	7.4	54.4	0.0	11.8	3.7
	70～79歳 (n=132)	2.3	4.5	22.0	15.9	43.2	0.0	9.1	3.0
	80歳以上 (n=91)	5.5	5.5	15.4	17.6	42.9	0.0	6.6	6.6

問 11 次の項目が、女性が仕事を続けていく上での支障となっていると思いますか。

(それぞれ〇は1つ)

〔④職場に責任ある仕事を女性に任せない傾向がある〕〔⑧職場で必要とされる資格・技術等が不十分〕では「そう思わない」、その他の項目では「そう思う」が最も高くなっています。

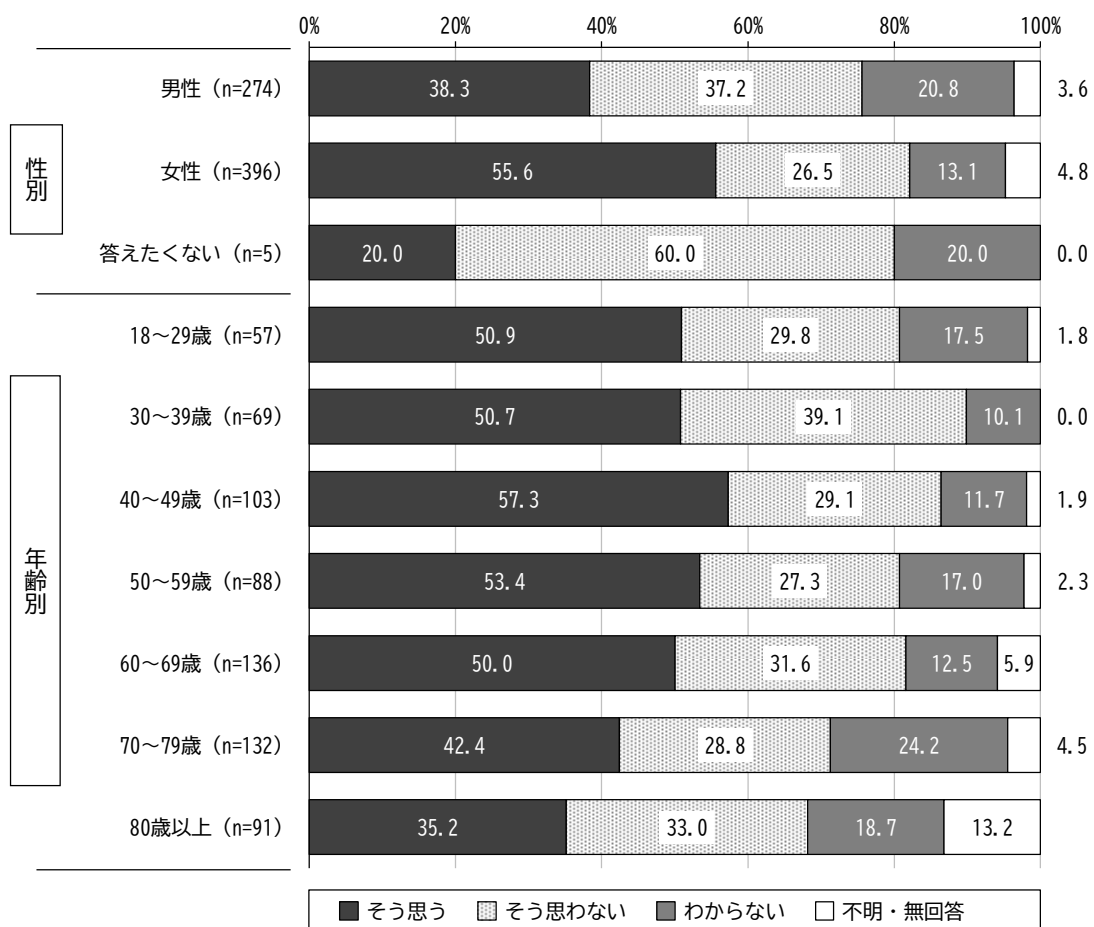
前回調査と比較すると、〔②育児休業や介護休業等の制度や保育の施設が不十分〕〔⑤男性に比べ賃金が安く、職種も限られている〕〔⑥再雇用、再就職を支援する制度等が不十分〕〔⑦残業など勤務時間が長いこと〕で「そう思う」が減少しています。



①家族の協力や理解が得られない

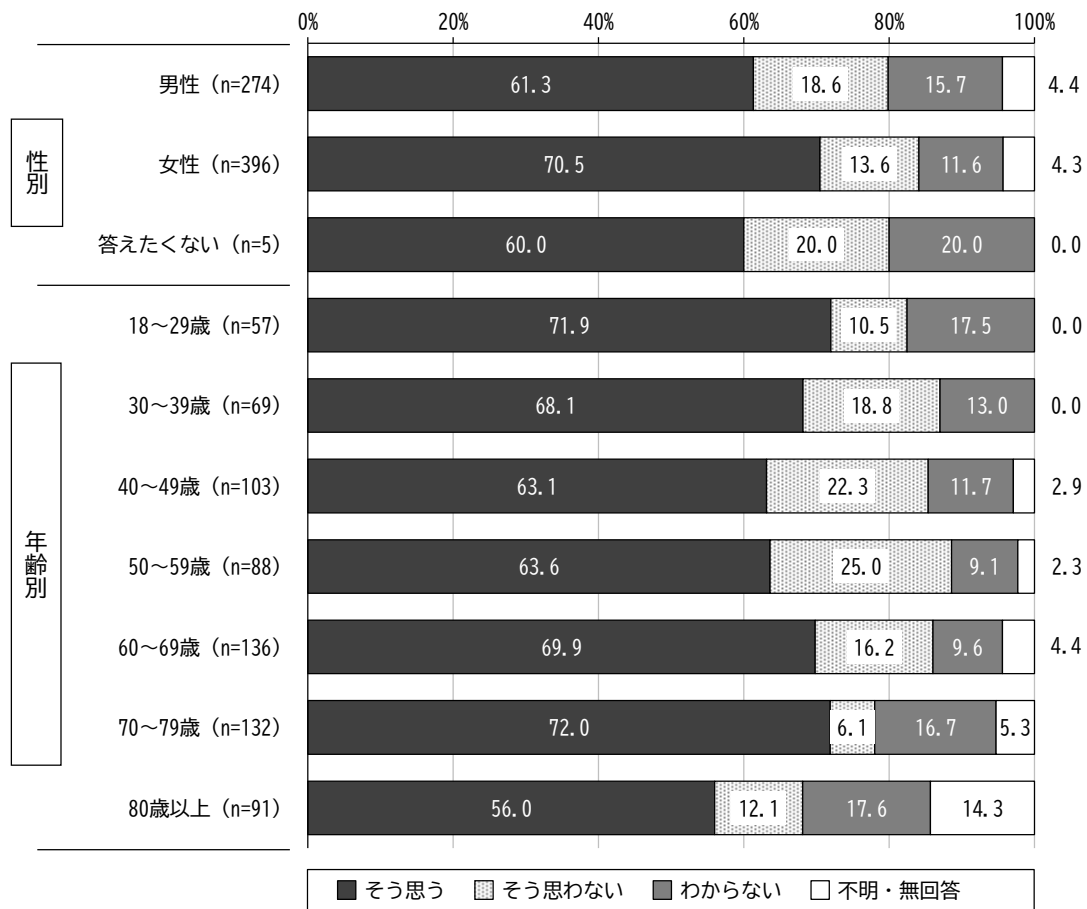
性別・年齢別にみると、すべての区分で「そう思う」が最も高くなっています。

また、性別にみると、男性に比べて女性で「そう思う」が高くなっています。



②育児休業や介護休業等の制度や保育の施設が不十分

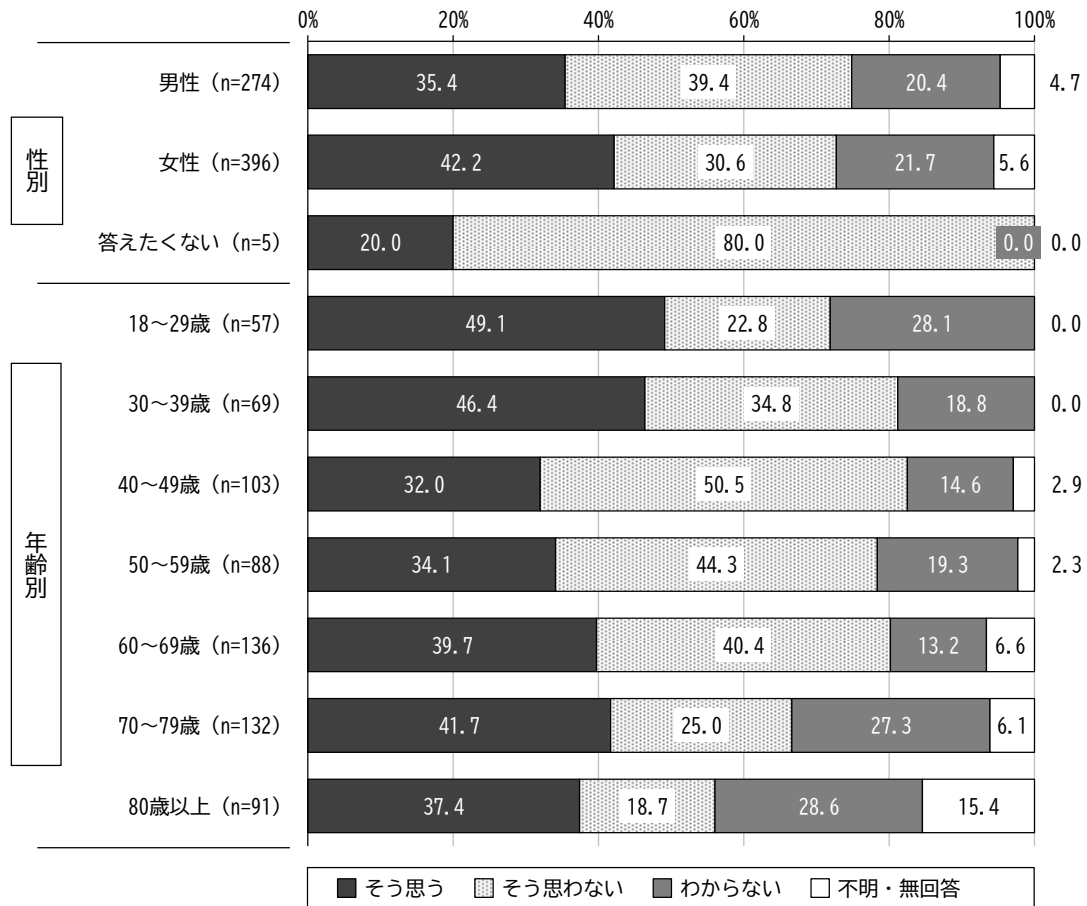
性別・年齢別にみると、すべての区分で「そう思う」が最も高くなっています。
また、性別にみると、男性に比べて女性で「そう思う」が高くなっています。



③職場に結婚・出産した女性が働きにくい雰囲気がある

性別にみると、男性で「そう思わない」、女性で「そう思う」が最も高くなっています。

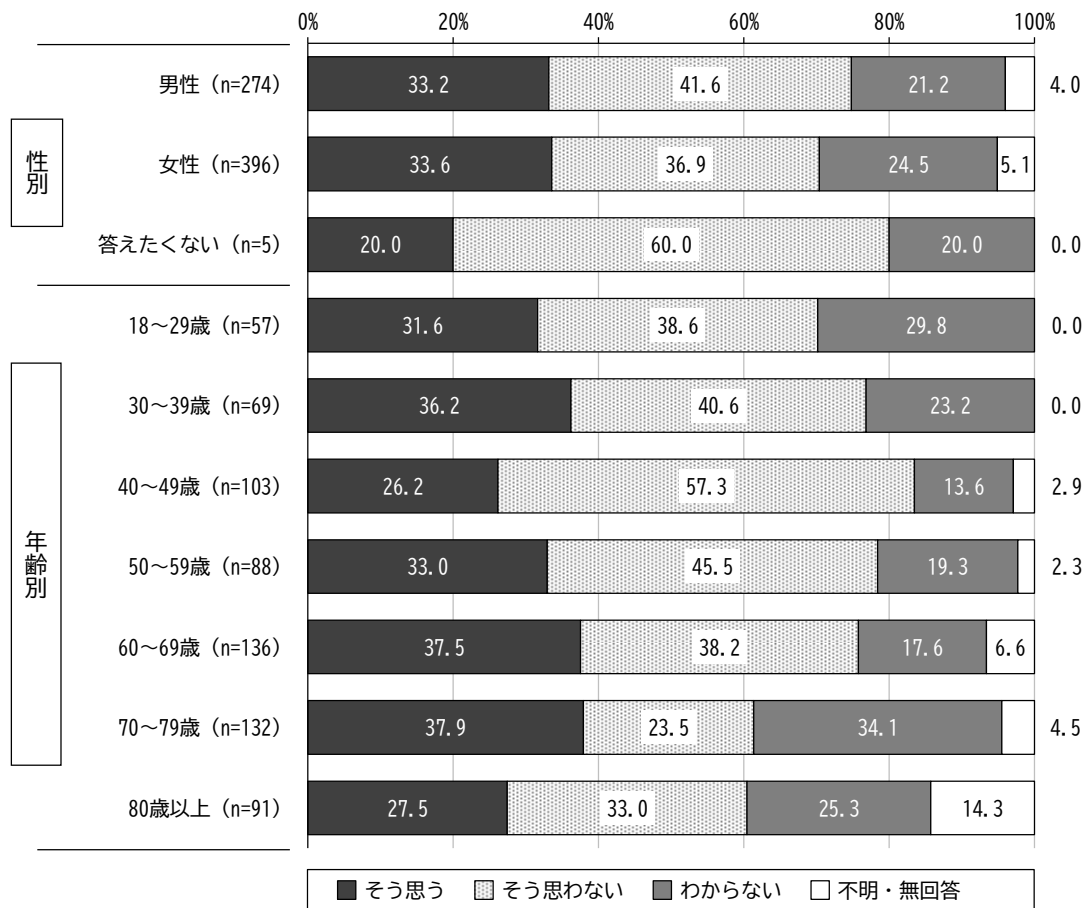
年齢別にみると、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳で「そう思わない」、その他の年齢で「そう思う」が最も高くなっています。



④職場に責任ある仕事を女性に任せない傾向がある

性別にみると、男女ともに「そう思わない」が最も高くなっています。

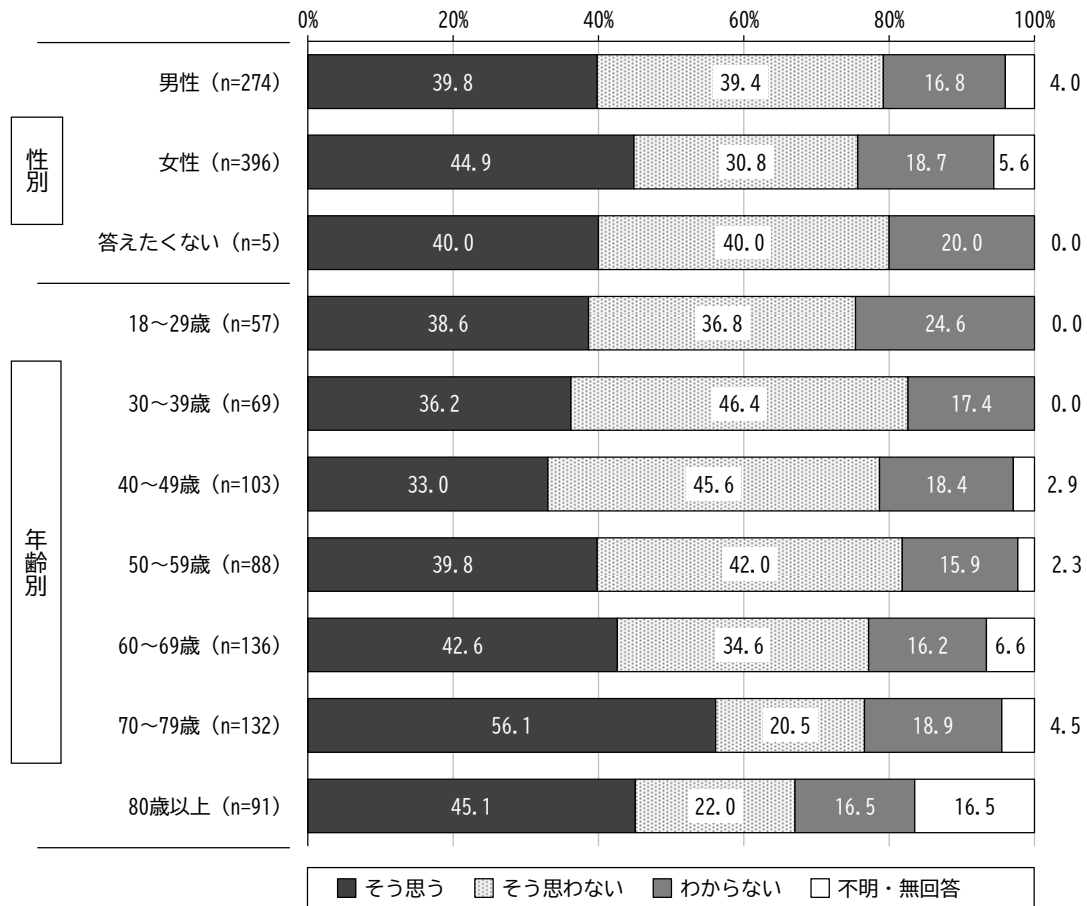
年齢別にみると、70～79 歳で「そう思う」、その他の年齢で「そう思わない」が最も高くなっています。



⑤男性に比べ賃金が安く、職種も限られている

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

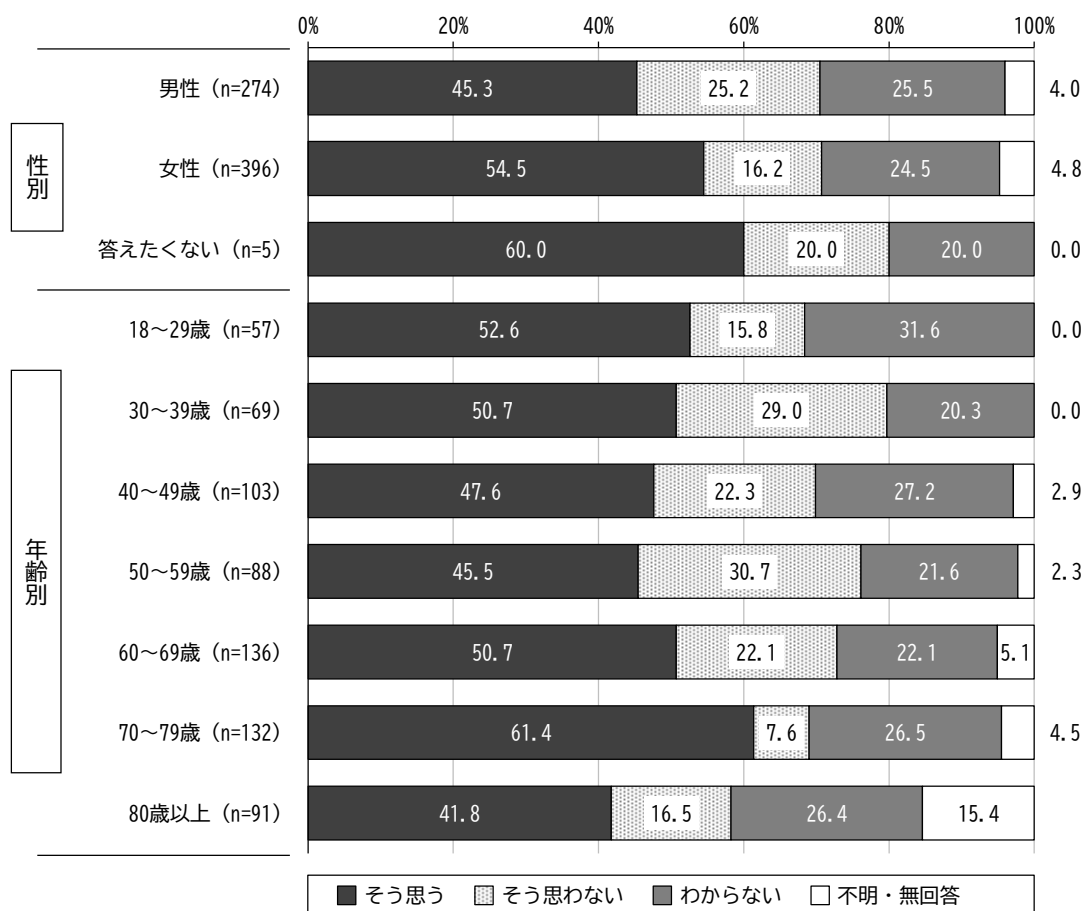
年齢別にみると、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳で「そう思わない」、その他の年齢で「そう思う」が最も高くなっています。



⑥再雇用、再就職を支援する制度等が不十分

性別・年齢別にみると、すべての区分で「そう思う」が最も高くなっています。

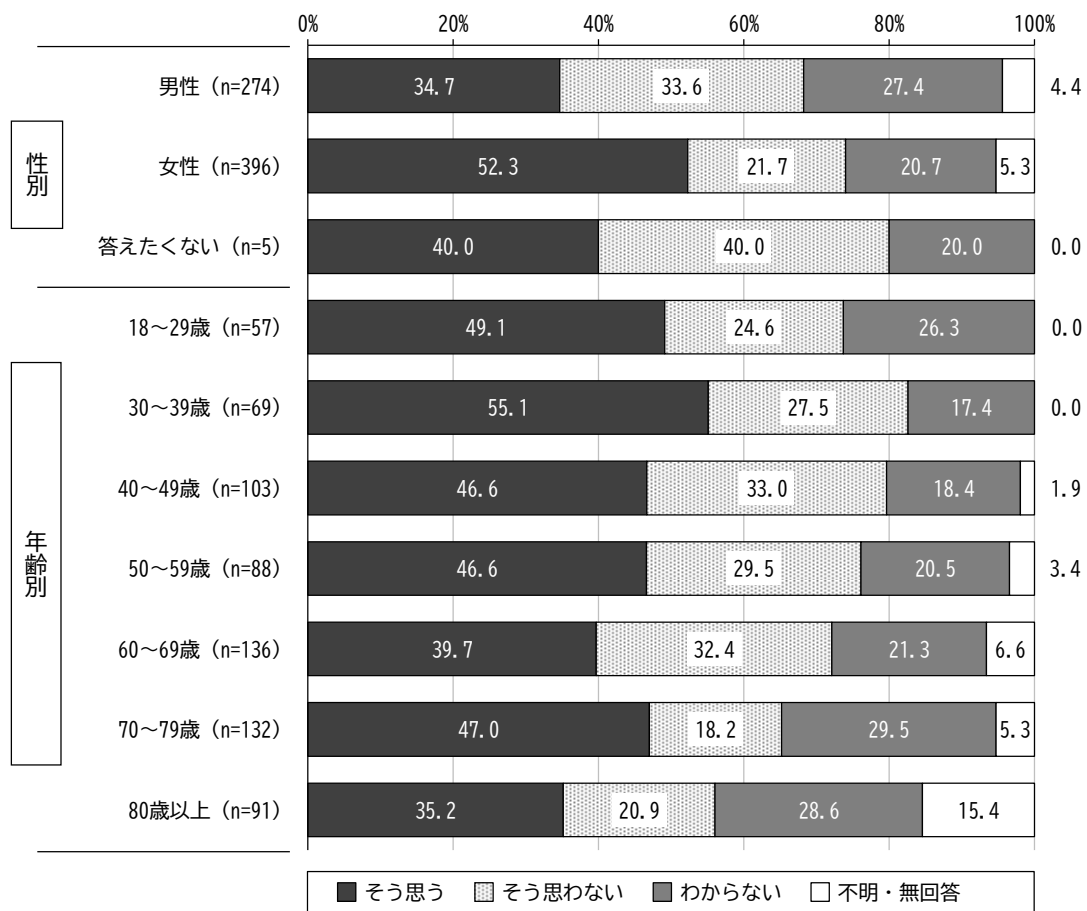
また、年齢別にみると、70～79歳で「そう思う」が他の年齢に比べて高くなっています。



⑦残業など勤務時間が長いこと

性別・年齢別にみると、すべての区分で「そう思う」が最も高くなっています。

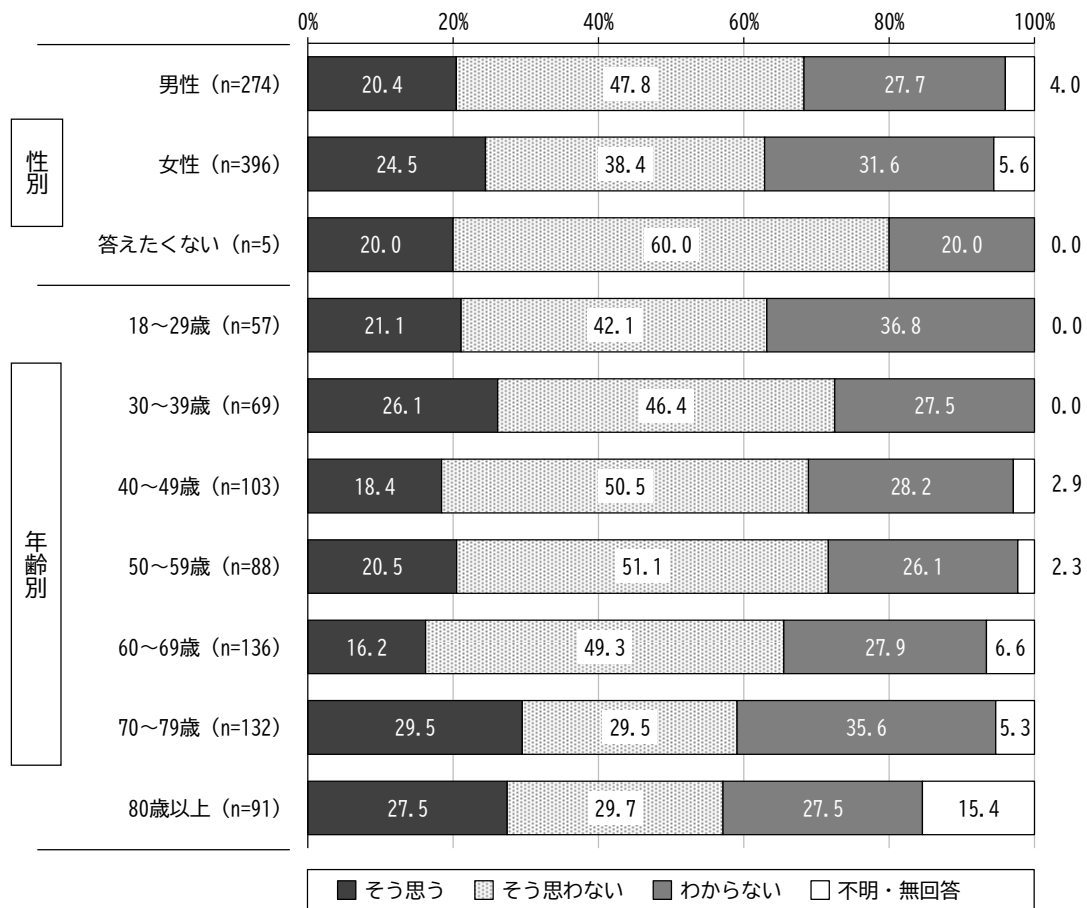
また、性別にみると、男性に比べて女性で「そう思う」が高くなっています。



⑧職場で必要とされる資格・技術等が不十分

性別にみると、男女ともに「そう思わない」が最も高くなっています。

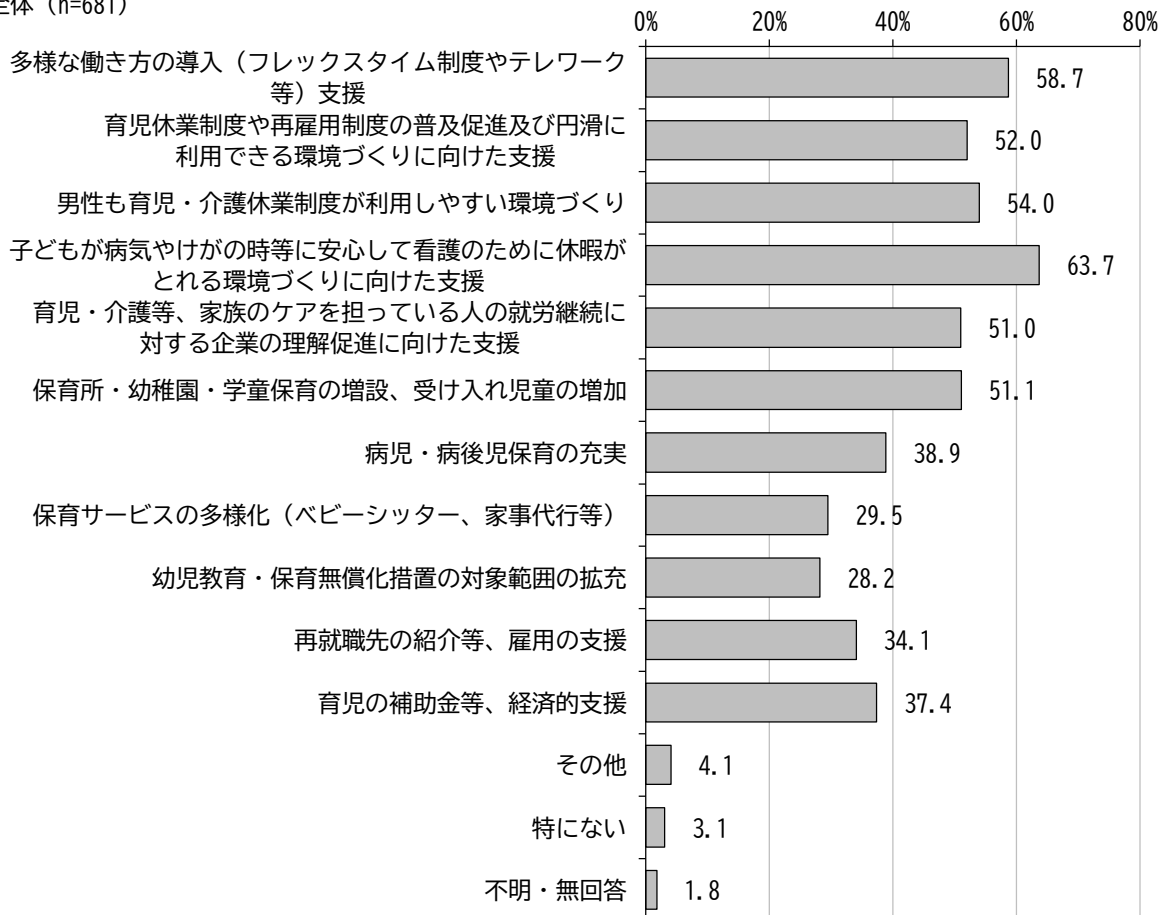
年齢別にみると、70～79歳で「わからない」、その他の年齢で「そう思わない」が最も高くなっています。



問 12 仕事と家庭を両立し安心して働き続けるために行政に期待することについてあてはまるものをお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

「子どもが病気やけがの時等に安心して看護のために休暇がとれる環境づくりに向けた支援」が63.7%と最も高く、次いで「多様な働き方の導入（フレックスタイム制度やテレワーク等）支援」が58.7%、「男性も育児・介護休業制度が利用しやすい環境づくり」が54.0%となっています。

全体 (n=681)



性別にみると、男女ともに「子どもが病気やけがの時等に安心して看護のために休暇がとれる環境づくりに向けた支援」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29 歳で「男性も育児・介護休業制度が利用しやすい環境づくり」、40～49 歳、50～59 歳で「多様な働き方の導入（フレックスタイム制度やテレワーク等）支援」、その他の年齢で「子どもが病気やけがの時等に安心して看護のために休暇がとれる環境づくりに向けた支援」が最も高くなっています。

単位：％		等ク多 ）ス様 支タイ働 援ムき 制方度 の導 テ入 レヘ ワフ ーレ クツ	る普育 環及児 境促休 づ進業 く及制 りび度 に円や 向滑再 けに雇 た利用 支用制 援で度 き	利男 用性 しも や育 す児 い・ 環介 境護 づ休 く業 り制 度 が	援と安 れ心ど るしも 環てが 境看病 づ護気 くのや りたけ にめが 向にの け休時 た暇等 支がに	支す担 援るつ の企て 業の の理 解の 促就 進労 に族 向続 けケ にア た対	増保 設、所 、受・ 幼入 稚園 児・ 学 童 の 増 加 保 育 の	病児・ 病後 児保 育の 充 実
性別	男性（n=274）	57.3	53.3	53.6	58.8	46.4	51.1	33.2
	女性（n=396）	59.8	50.8	54.8	67.4	53.8	51.5	43.4
	答えたくない（n=5）	80.0	60.0	40.0	60.0	60.0	60.0	40.0
年齢別	18～29歳（n=57）	47.4	42.1	59.6	50.9	42.1	54.4	29.8
	30～39歳（n=69）	69.6	56.5	55.1	71.0	49.3	66.7	37.7
	40～49歳（n=103）	64.1	45.6	46.6	60.2	42.7	52.4	35.9
	50～59歳（n=88）	60.2	48.9	46.6	56.8	50.0	40.9	44.3
	60～69歳（n=136）	58.1	55.9	50.7	64.7	58.1	48.5	41.2
	70～79歳（n=132）	57.6	55.3	62.1	68.9	53.0	50.0	41.7
	80歳以上（n=91）	54.9	53.8	59.3	68.1	53.8	51.6	38.5

単位：％		ビ保 ー育 シサ ツ タ ビ ス の 多 様 代 行 （ 等 ）	対幼 象児 範教 囲育 の・ 拡保 充育 無 償 化 措 置 の	援再 就職 先の 紹介 等、 雇用 の支	育児 の補 助金 等、 経済 的支 援	そ の 他	特 に ない	不 明・ 無回 答
性別	男性（n=274）	27.4	32.8	35.4	42.3	4.7	4.0	1.8
	女性（n=396）	31.6	25.8	33.6	34.3	3.5	2.5	1.5
	答えたくない（n=5）	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳（n=57）	26.3	24.6	24.6	45.6	3.5	1.8	0.0
	30～39歳（n=69）	44.9	40.6	31.9	52.2	11.6	1.4	0.0
	40～49歳（n=103）	26.2	24.3	34.0	42.7	3.9	1.9	1.0
	50～59歳（n=88）	23.9	25.0	36.4	35.2	8.0	5.7	1.1
	60～69歳（n=136）	32.4	30.9	34.6	30.9	4.4	0.7	4.4
	70～79歳（n=132）	28.8	28.8	38.6	34.8	0.8	6.1	0.8
	80歳以上（n=91）	27.5	25.3	33.0	30.8	0.0	3.3	3.3

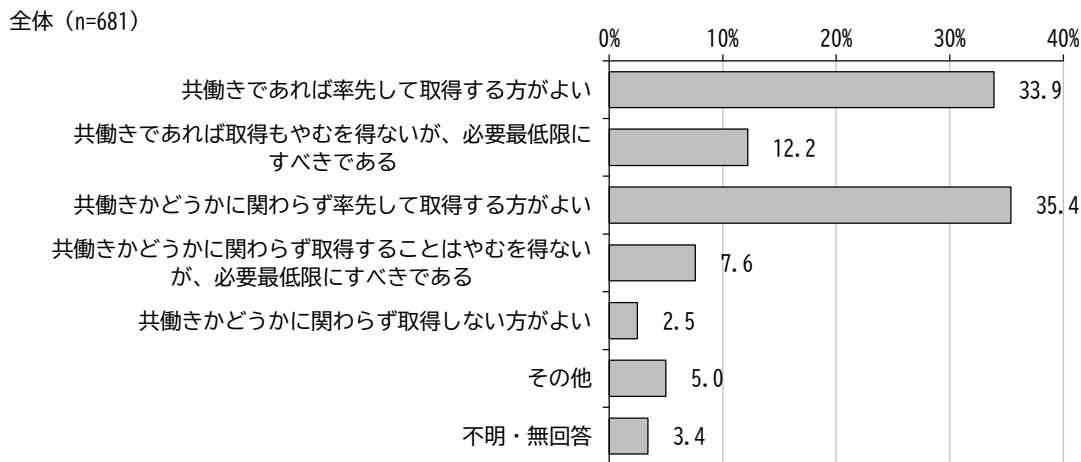
4 男性の参画について

問 13 男性が育児休業を取得することについてどのように思いますか。(○は1つ)

「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」が 35.4%と最も高く、次いで「共働きであれば率先して取得する方がよい」が 33.9%、「共働きであれば取得もやむを得ないが、必要最低限にすべきである」が 12.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、70～79 歳、80 歳以上で「共働きであれば率先して取得する方がよい」、その他の年齢で「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」が最も高くなっています。



単位：%		共働き で あ ら ば 先 取 得 す る 方 が よ い	共働き で あ ら ば 取 得 も や む を 得 な い が 、 必 要 最 低 限 に す べ き で あ る	共働き か う か に 関 わ ら ず 先 取 得 す る 方 が よ い	共働き か う か に 関 わ ら ず 取 得 す る こ と は や む を 得 な い が 、 必 要 最 低 限 に す べ き で あ る	共働き か う か に 関 わ ら ず 取 得 し な い 方 が よ い	その他	不明・無回答
性別	男性 (n=274)	31.0	16.4	31.8	8.4	4.4	4.4	3.6
	女性 (n=396)	35.6	9.6	38.1	7.3	1.3	5.1	3.0
	答えたくない (n=5)	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	40.4	3.5	47.4	3.5	3.5	1.8	0.0
	30～39歳 (n=69)	36.2	7.2	46.4	4.3	1.4	4.3	0.0
	40～49歳 (n=103)	30.1	9.7	38.8	5.8	3.9	10.7	1.0
	50～59歳 (n=88)	33.0	4.5	39.8	8.0	3.4	10.2	1.1
	60～69歳 (n=136)	31.6	14.0	35.3	6.6	2.2	2.9	7.4
	70～79歳 (n=132)	37.9	12.1	30.3	11.4	2.3	3.0	3.0
	80歳以上 (n=91)	29.7	28.6	19.8	11.0	1.1	2.2	7.7

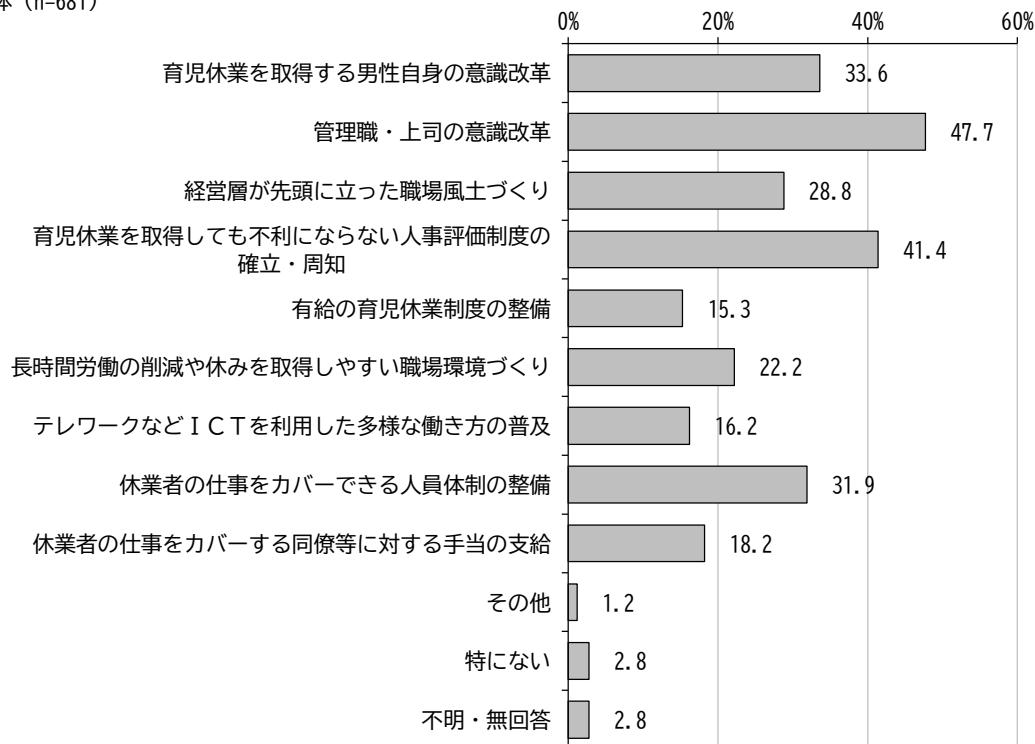
問 14 男性の育児休業取得を進めるために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

「管理職・上司の意識改革」が47.7%と最も高く、次いで「育児休業を取得しても不利にならない人事評価制度の確立・周知」が41.4%、「育児休業を取得する男性自身の意識改革」が33.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「管理職・上司の意識改革」が最も高くなっています。

年齢別にみると、80歳以上で「育児休業を取得しても不利にならない人事評価制度の確立・周知」、その他の年齢で「管理職・上司の意識改革」が最も高くなっています。

全体 (n=681)



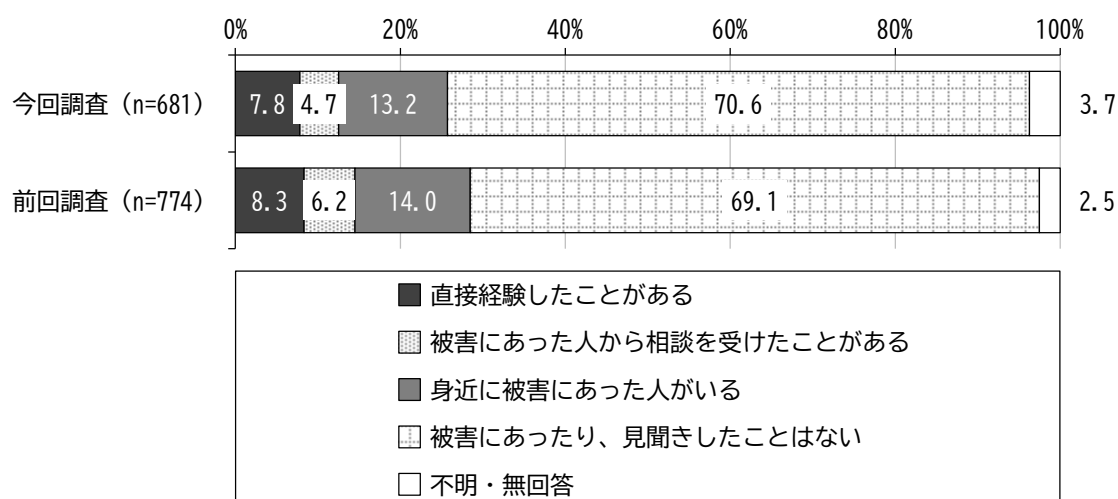
単位：％		育 児 休 業 取 得 す る 男 性 自 身 の 意 識 改 革	管 理 職 ・ 上 司 の 意 識 改 革	風 土 づ く り 先 頭 に 立 っ た 職 場	確 立 ・ 周 知 育 児 休 業 を 取 得 し て も 不 利 に な ら な い 人 事 評 価 制 度 の 確 立 ・ 周 知	有 給 の 育 児 休 業 制 度 の 整 備	取 得 し や す い 職 場 環 境 づ く り	長 時 間 労 働 の 削 減 や 休 み を 取 得 し や す い 職 場 環 境 づ く り	テ レ ワ ー ク な ど I C T を 利 用 し た 多 様 な 働 き 方 の 普 及	休 業 者 の 仕 事 を カ バ ー で き る 人 員 体 制 の 整 備	休 業 者 の 仕 事 を カ バ ー し て く る 同 僚 等 に 対 す る 手 当 の 支 給	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
性 別	男性（n=274）	31.0	45.6	37.2	37.6	16.1	18.2	16.1	32.8	17.2	2.2	2.9	2.6	
	女性（n=396）	35.9	49.7	23.0	44.2	14.6	24.5	16.2	31.6	18.7	0.5	2.8	2.8	
	答えたくない（n=5）	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	
年 齢 別	18～29歳（n=57）	29.8	47.4	19.3	43.9	22.8	28.1	10.5	22.8	14.0	1.8	1.8	3.5	
	30～39歳（n=69）	24.6	58.0	30.4	40.6	11.6	21.7	24.6	40.6	31.9	2.9	0.0	0.0	
	40～49歳（n=103）	37.9	52.4	32.0	35.0	8.7	30.1	9.7	32.0	22.3	1.0	1.0	1.9	
	50～59歳（n=88）	25.0	45.5	33.0	37.5	13.6	19.3	18.2	28.4	26.1	1.1	2.3	1.1	
	60～69歳（n=136）	33.1	47.8	29.4	44.9	22.8	19.9	18.4	28.7	16.2	0.7	2.9	4.4	
	70～79歳（n=132）	39.4	43.9	28.8	40.9	16.7	18.9	15.2	37.1	12.1	0.8	4.5	3.0	
	80歳以上（n=91）	39.6	42.9	25.3	47.3	8.8	19.8	16.5	30.8	11.0	1.1	5.5	4.4	

5 夫婦間等における暴力（DV等）について

問 15 夫婦や恋人等の親しい人間関係の中で起こる身体的・心理的・性的な暴力（DV等）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。（○は1つ）

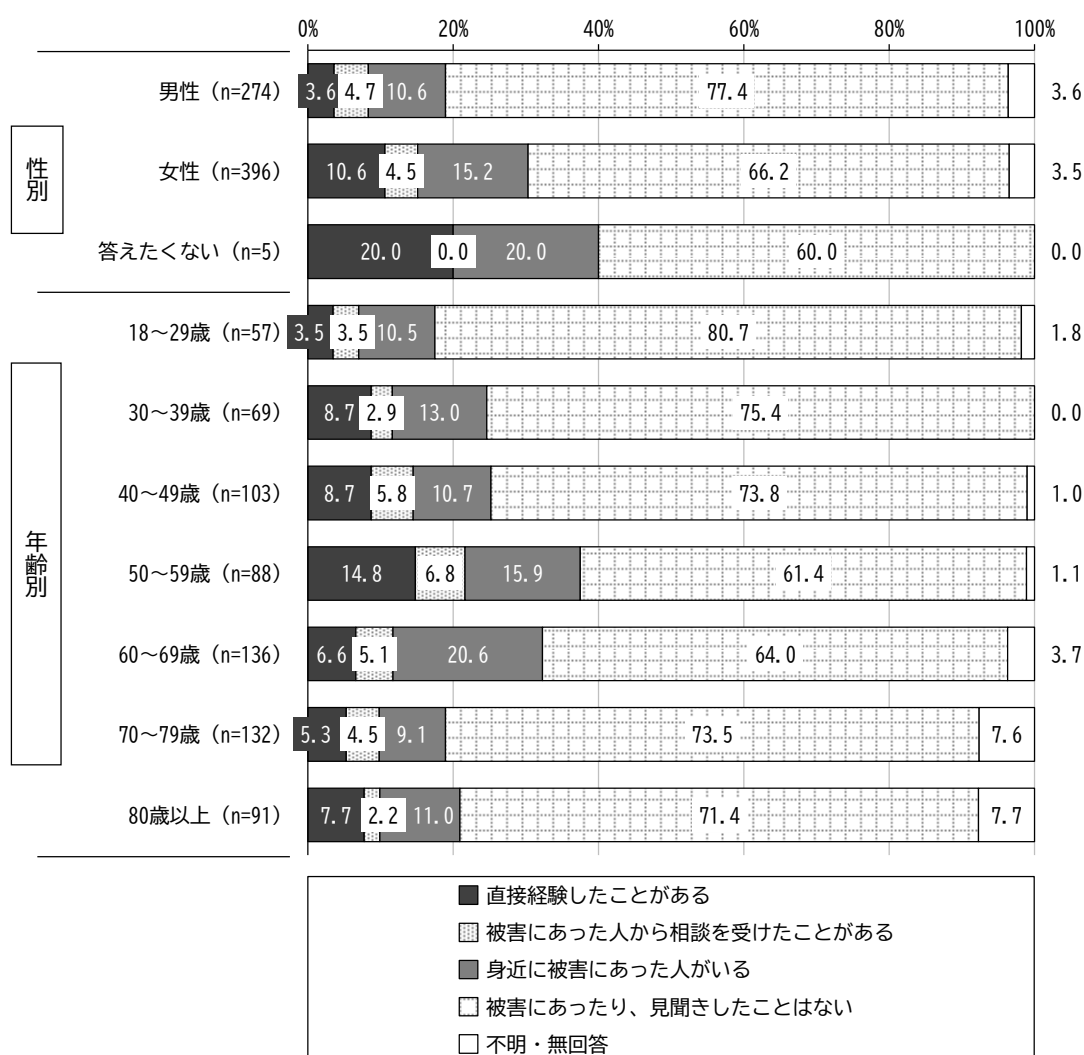
「被害にあったり、見聞きしたことはない」が70.6%と最も高く、次いで「身近に被害にあった人がある」が13.2%、「直接経験したことがある」が7.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



性別にみると、女性で「直接経験したことがある」が1割台となっています。

年齢別にみると、50～59歳で「直接経験したことがある」が1割台となっています。

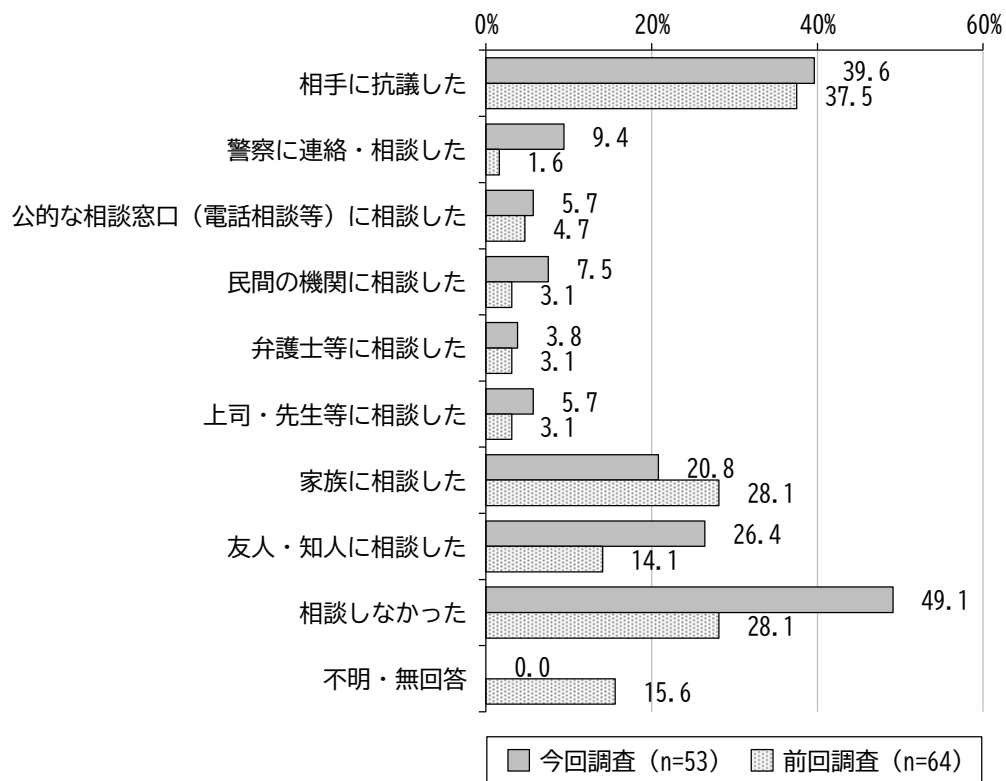


問 15 で「直接経験したことがある」と回答された方

問 15-1 夫婦や恋人・パートナーから身体的・心理的・性的な暴力（DV等）を受けたとき、どのような対応をとりましたか。（〇はあてはまるものすべて）

「相談しなかった」が49.1%と最も高く、次いで「相手に抗議した」が39.6%、「友人・知人に相談した」が26.4%となっています。

前回調査と比較すると、「相談しなかった」が21.0ポイント、「友人・知人に相談した」が12.3ポイント増加しています。

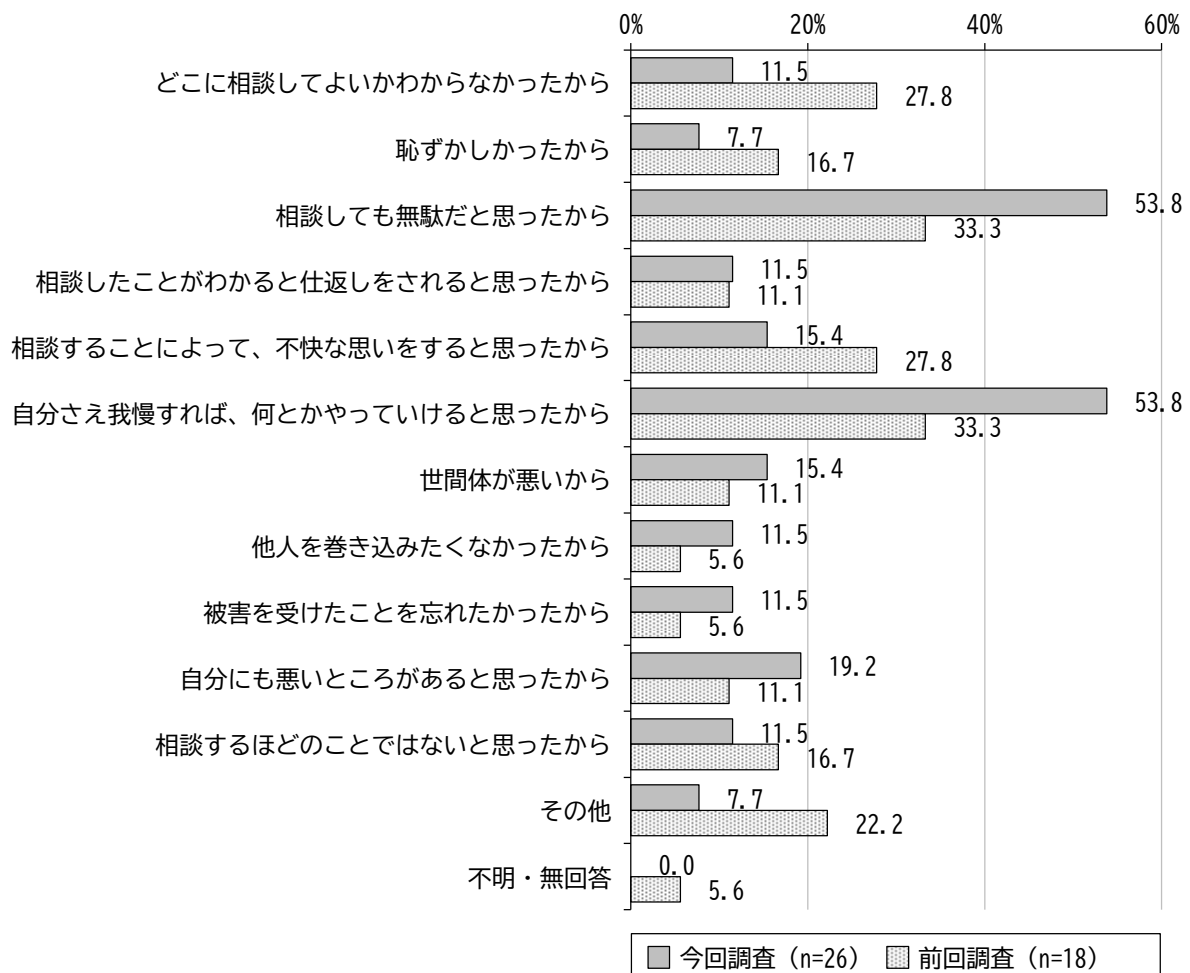


問 15-1 で「相談しなかった」と回答された方

問 15-2 その理由は次のうちどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」が 53.8%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 19.2%となっています。

前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」がともに 20.5 ポイント増加しています。



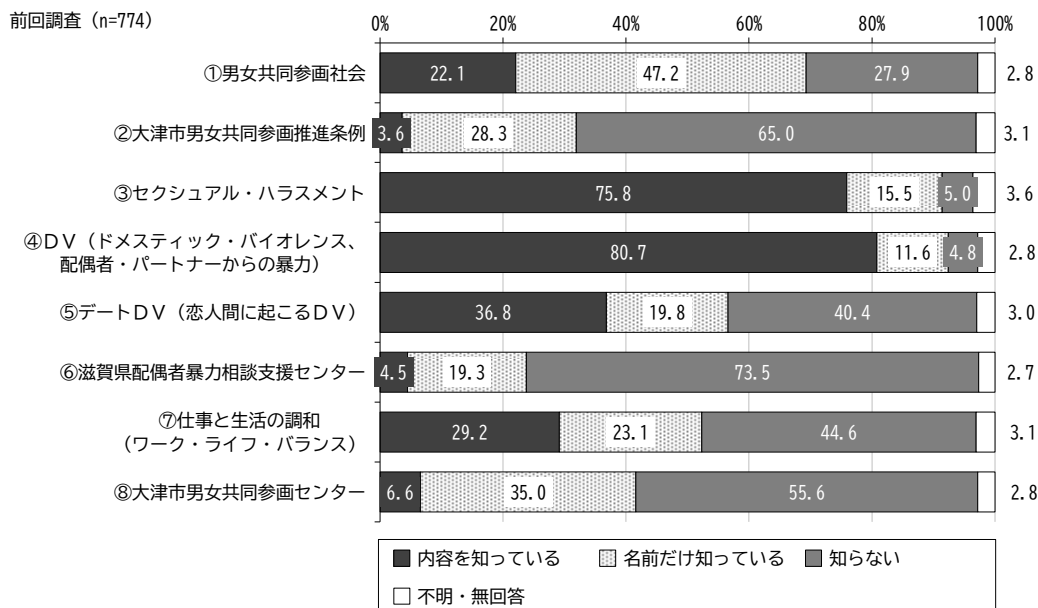
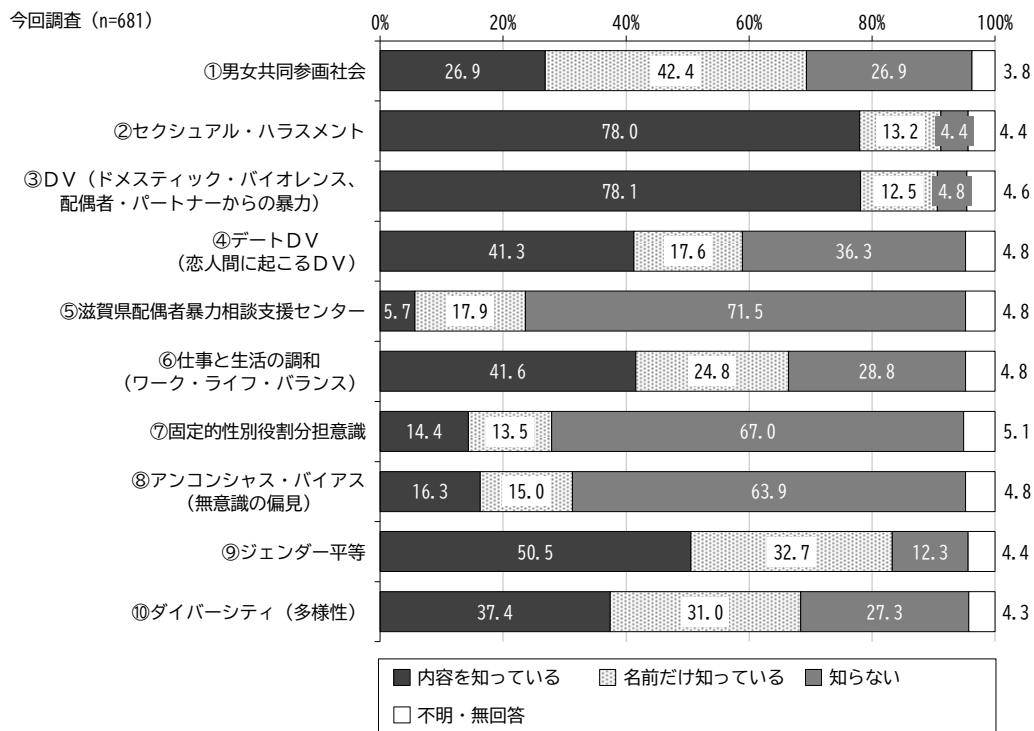
6 男女共同参画社会づくりについて

問 16 あなたは、男女共同参画に関する次の項目についてどの程度知っていますか。

(それぞれ〇は1つ)

〔②セクシュアル・ハラスメント〕〔③DV〕〔④デートDV〕〔⑥仕事と生活の調和〕〔⑨ジェンダー平等〕〔⑩ダイバーシティ〕では「内容を知っている」が最も高くなっています。一方、〔⑤滋賀県配偶者暴力相談支援センター〕〔⑦固定的性別役割分担意識〕〔⑧アンコンシャス・バイアス〕では「知らない」が最も高くなっています。

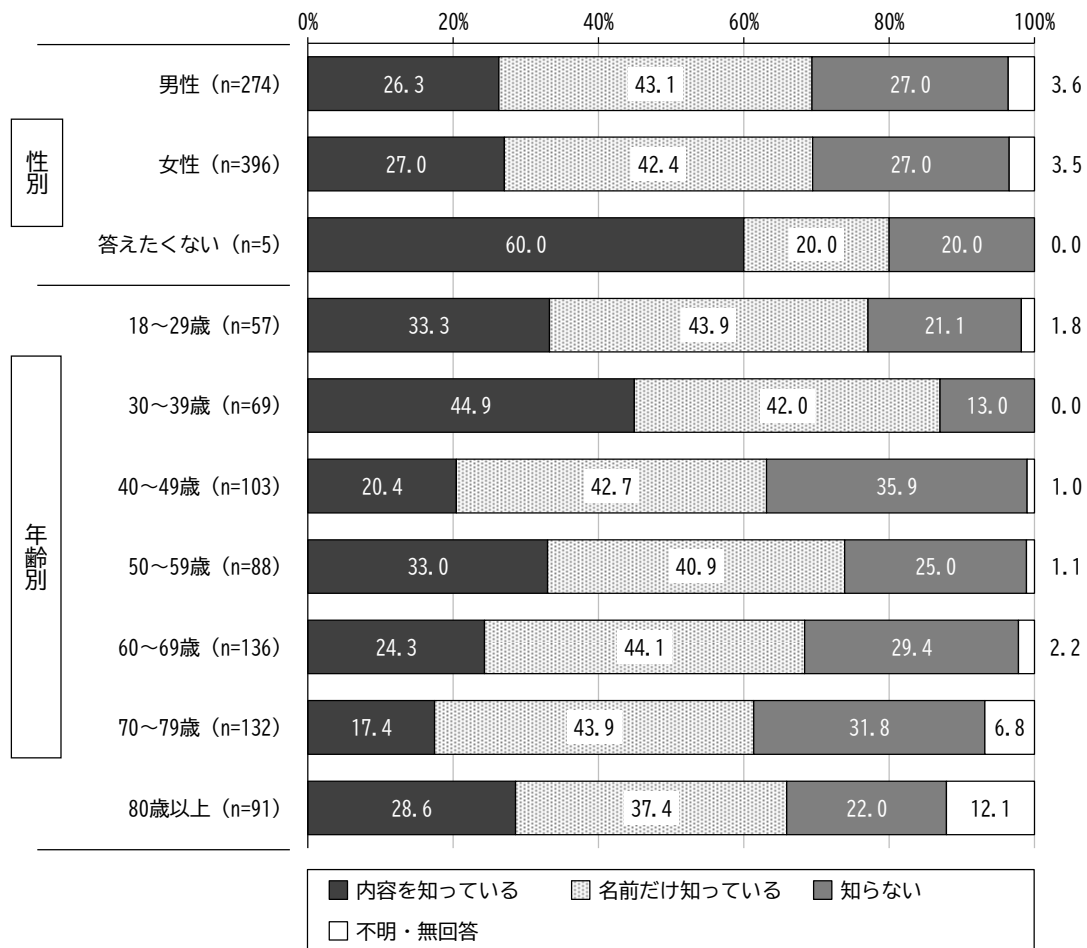
前回調査と比較すると、特に〔⑥仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）〕において、「内容を知っている」が増加しています。



①男女共同参画社会

性別にみると、男女ともに「名前だけ知っている」が最も高くなっています。

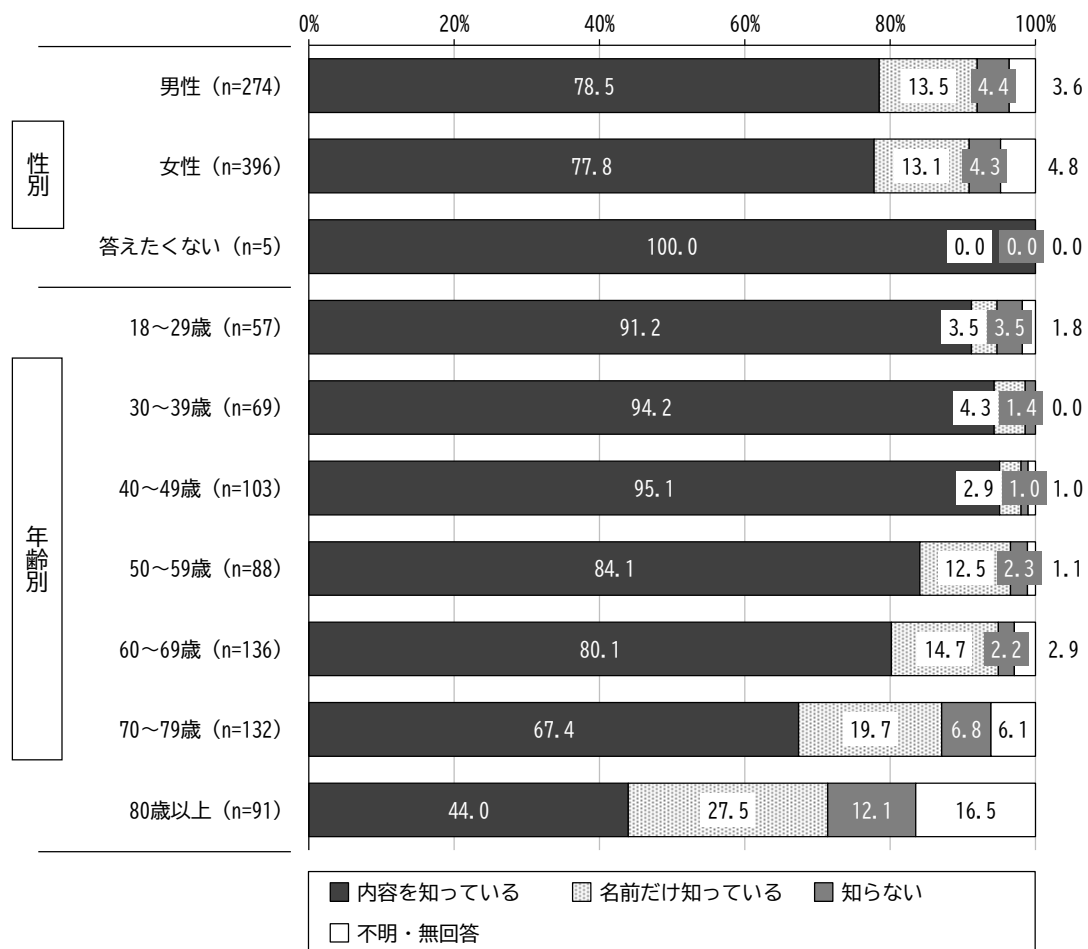
年齢別にみると、30～39 歳で「内容を知っている」、その他の年齢で「名前だけ知っている」が最も高くなっています。



②セクシュアル・ハラスメント

性別・年齢別にみると、すべての区分で「内容を知っている」が最も高くなっています。

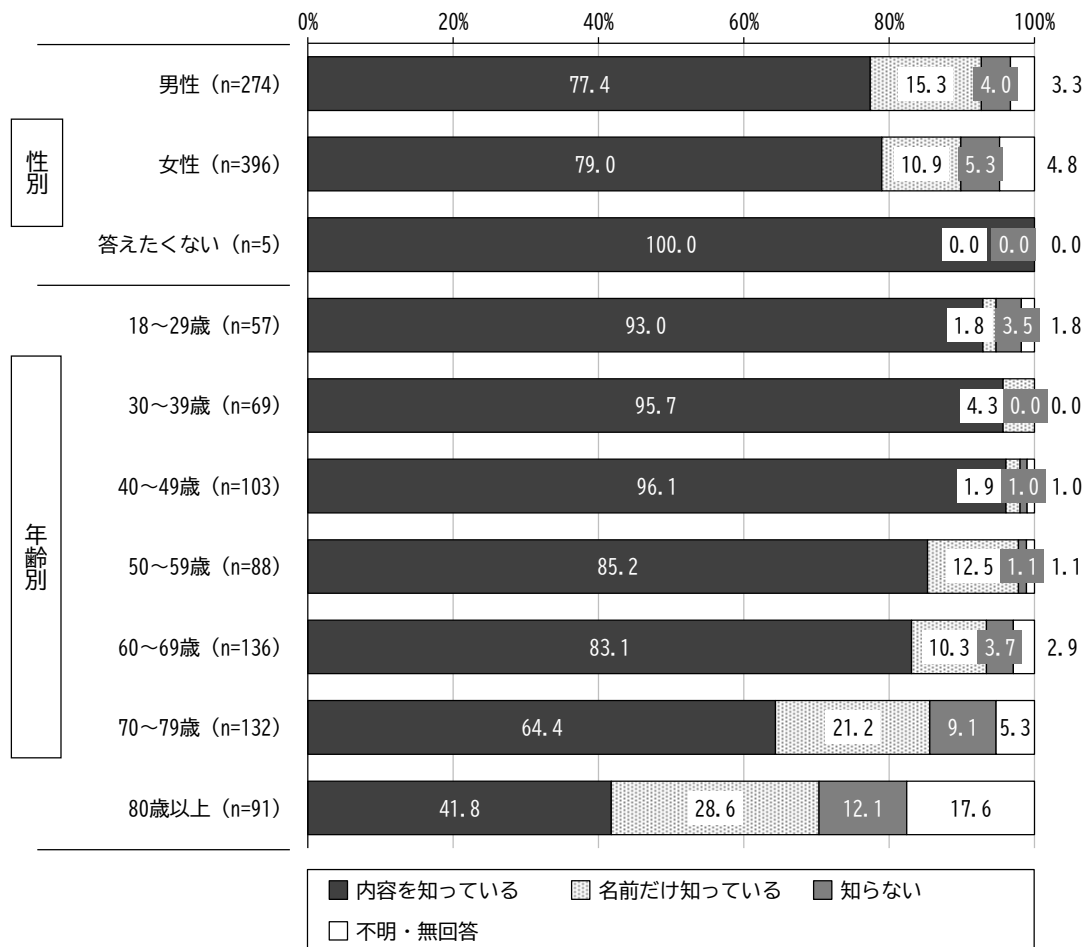
また、年齢別にみると40歳以降、年代が上がるにつれて、「内容を知っている」は低くなっています。



③DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者・パートナーからの暴力）

性別・年齢別にみると、すべての区分で「内容を知っている」が最も高くなっています。

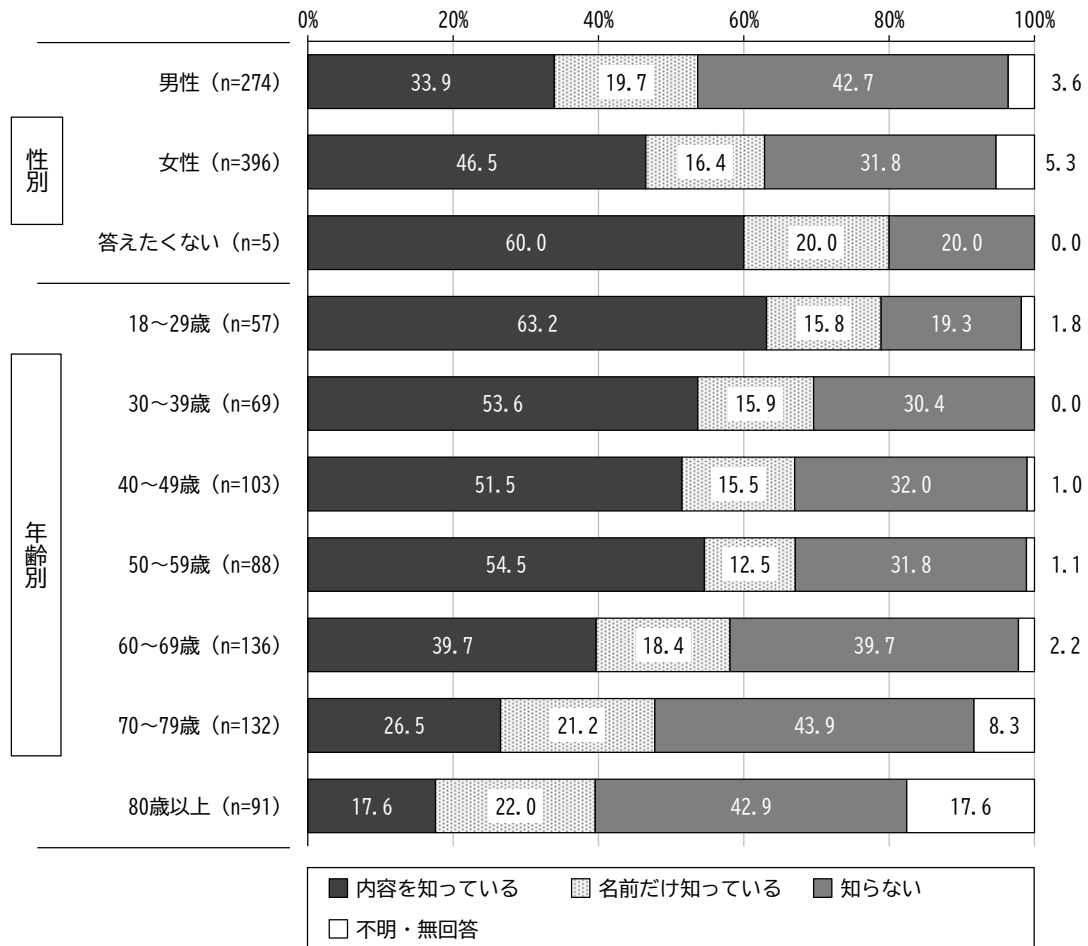
また、年齢別にみると40歳以降、年代が上がるにつれて、「内容を知っている」は低くなっています。



④デートDV（恋人間に起こるDV）

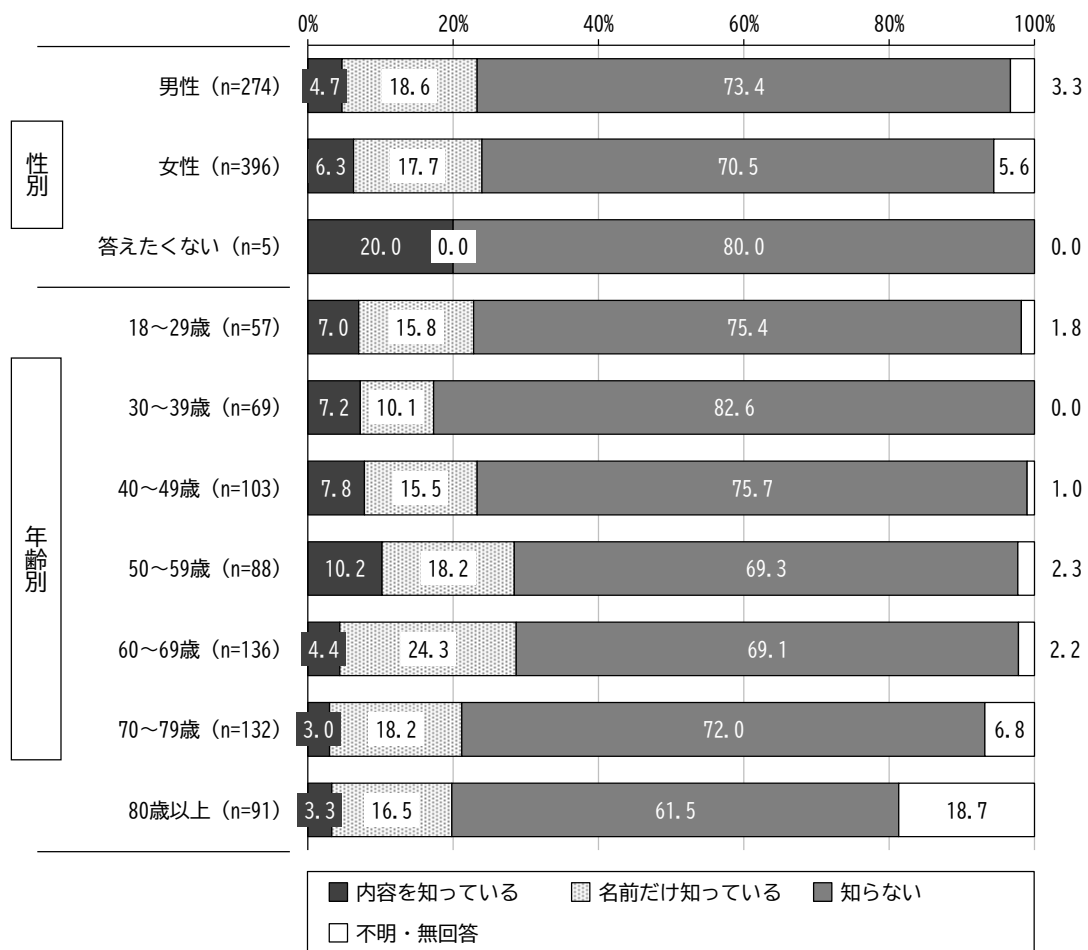
性別にみると、男性で「知らない」、女性で「内容を知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60～69歳で「内容を知っている」「知らない」、70～79歳、80歳以上で「知らない」、その他の年齢で「内容を知っている」が最も高くなっています。



⑤滋賀県配偶者暴力相談支援センター

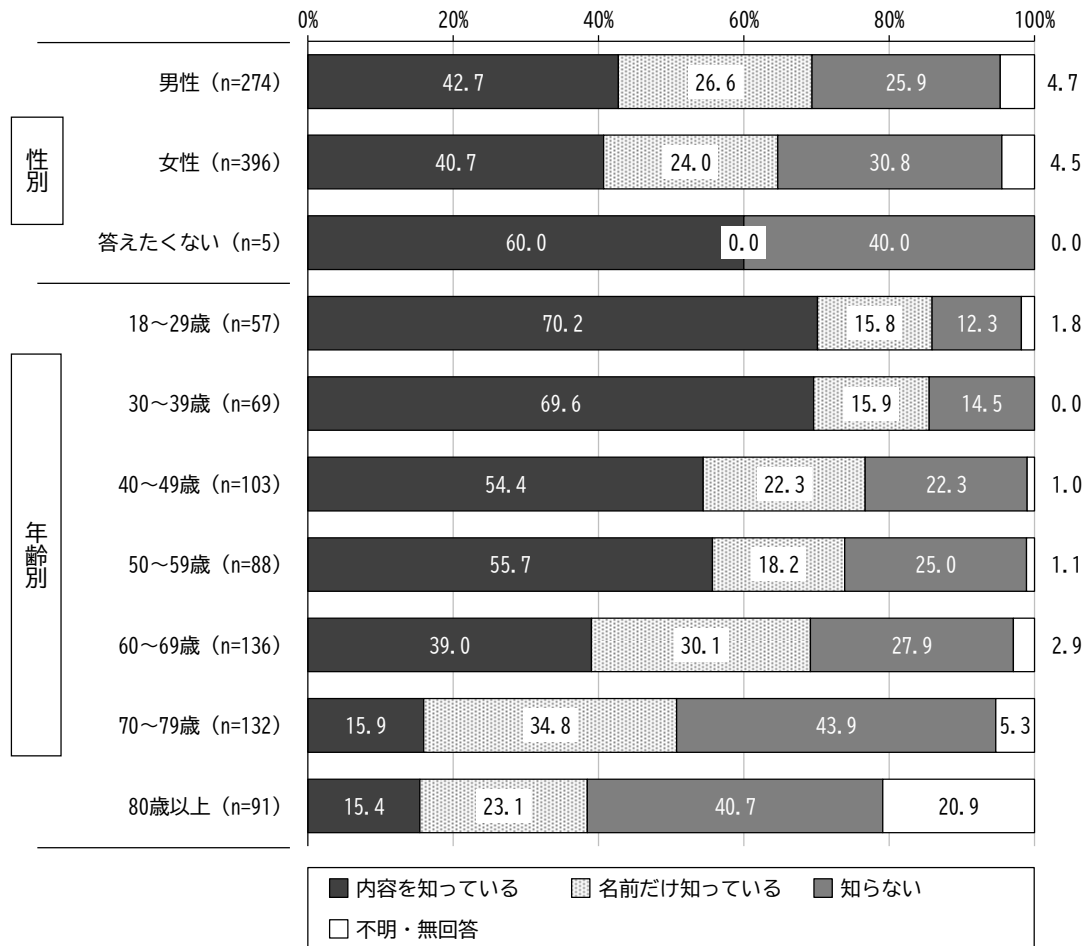
性別・年齢別にみると、すべての区分で「知らない」が最も高くなっています。



⑥仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

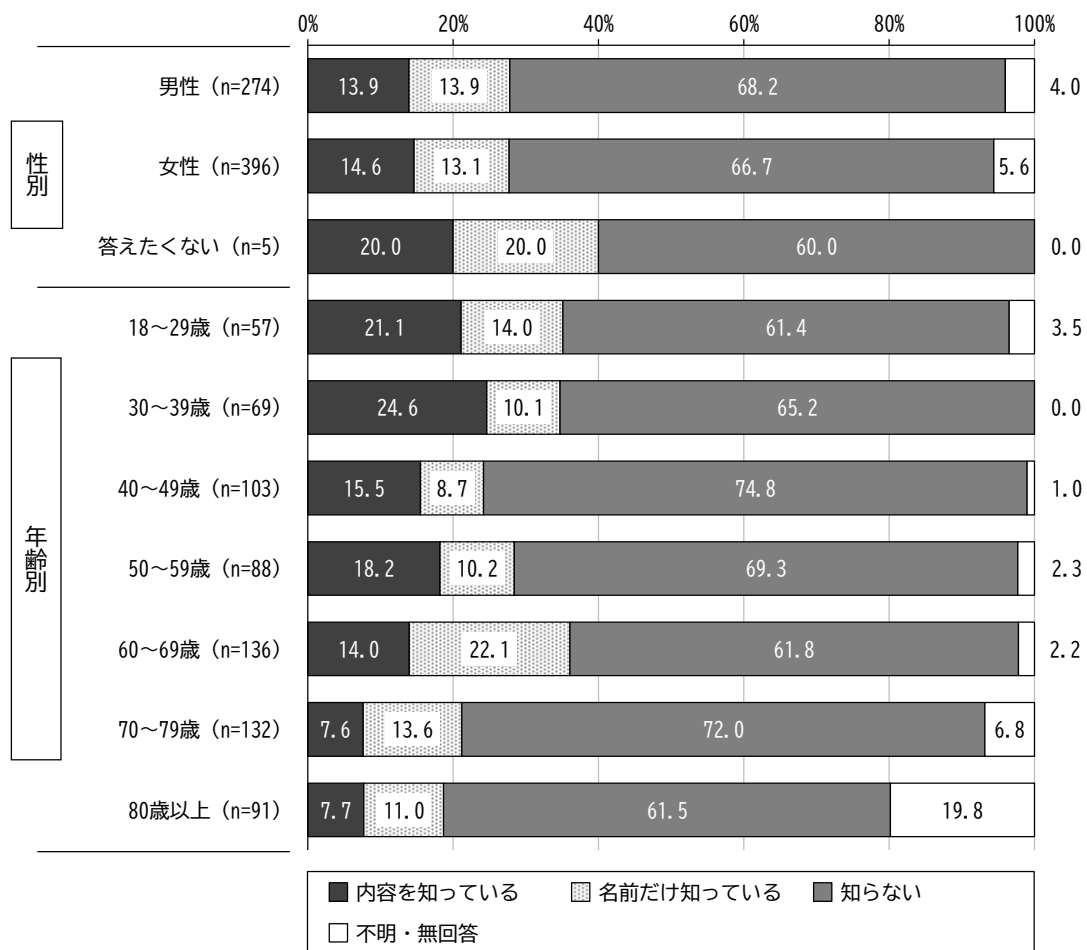
性別にみると、男女ともに「内容を知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、70～79歳、80歳以上で「知らない」、その他の年齢で「内容を知っている」が最も高くなっています。



⑦固定的性別役割分担意識

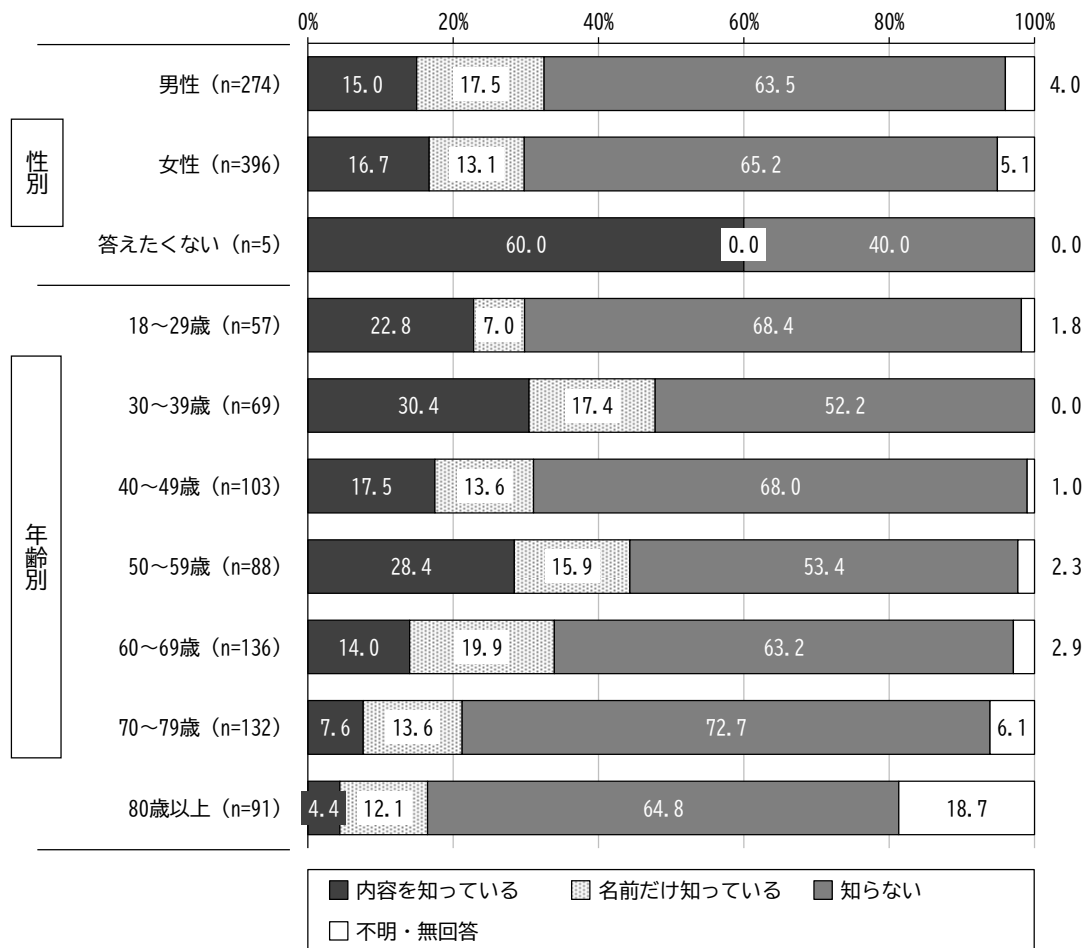
性別・年齢別にみると、すべての区分で「知らない」が最も高くなっています。



⑧アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

性別・年齢別にみると、すべての区分で「知らない」が最も高くなっています。

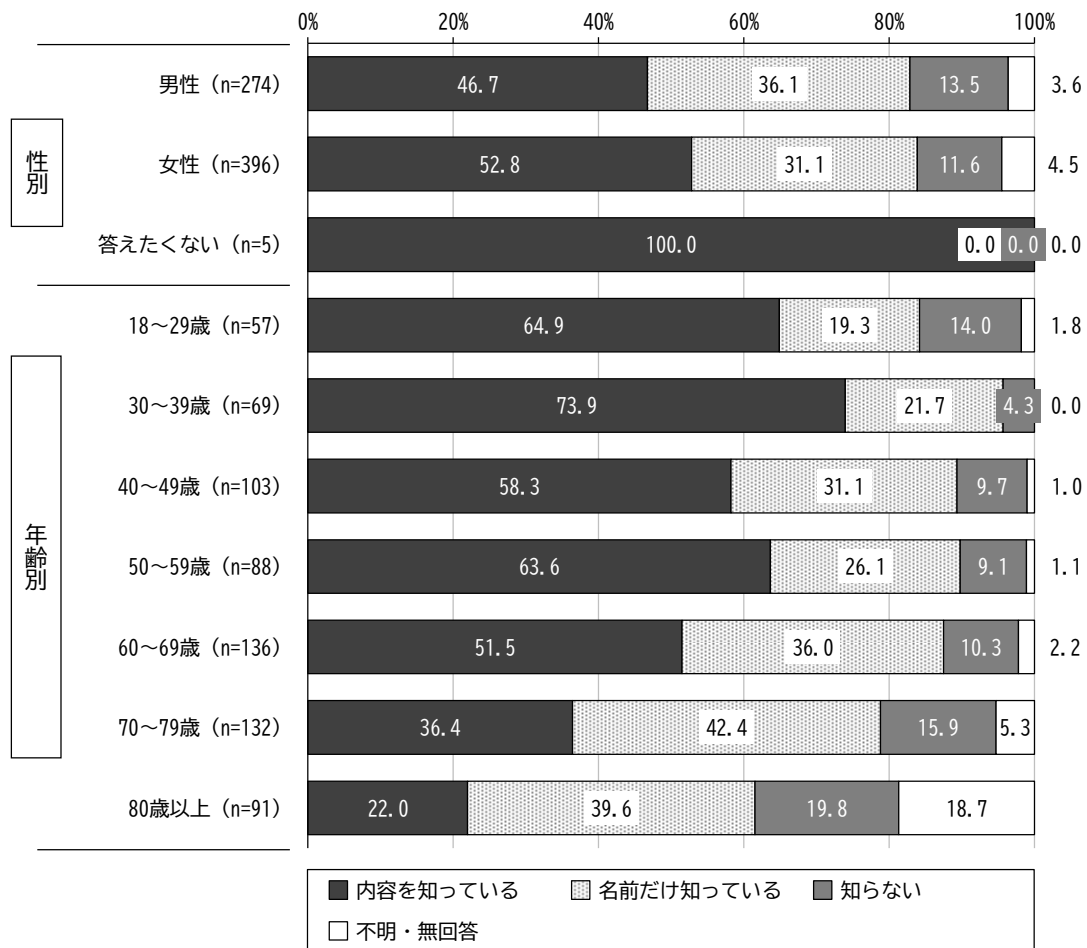
また、年齢別にみると 30～39 歳、50～59 歳で「知らない」が 5 割台と他の年齢に比べて低くなっています。



⑨ジェンダー平等

性別にみると、男女ともに「内容を知っている」が最も高くなっています。

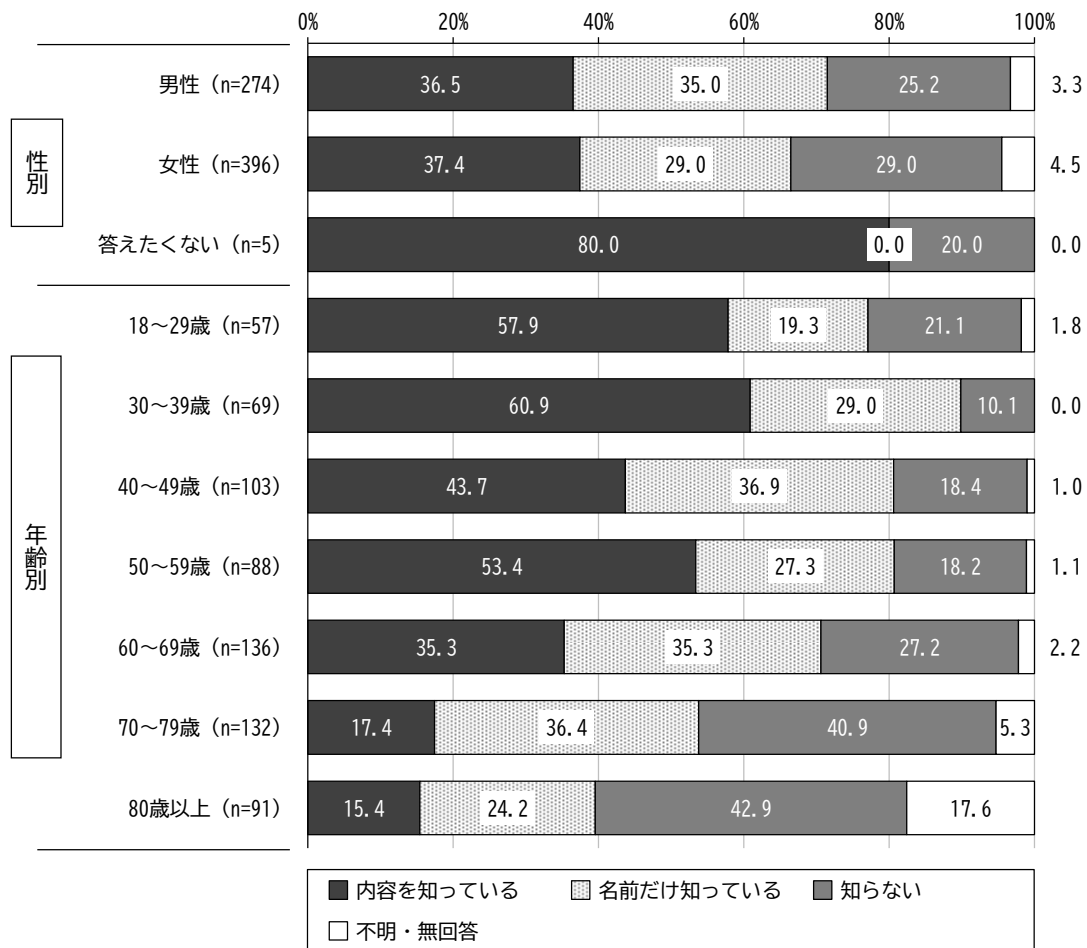
年齢別にみると、70～79歳、80歳以上で「名前だけ知っている」、その他の年齢で「内容を知っている」が最も高くなっています。



⑩ダイバーシティ（多様性）

性別にみると、男女ともに「内容を知っている」が最も高くなっています。

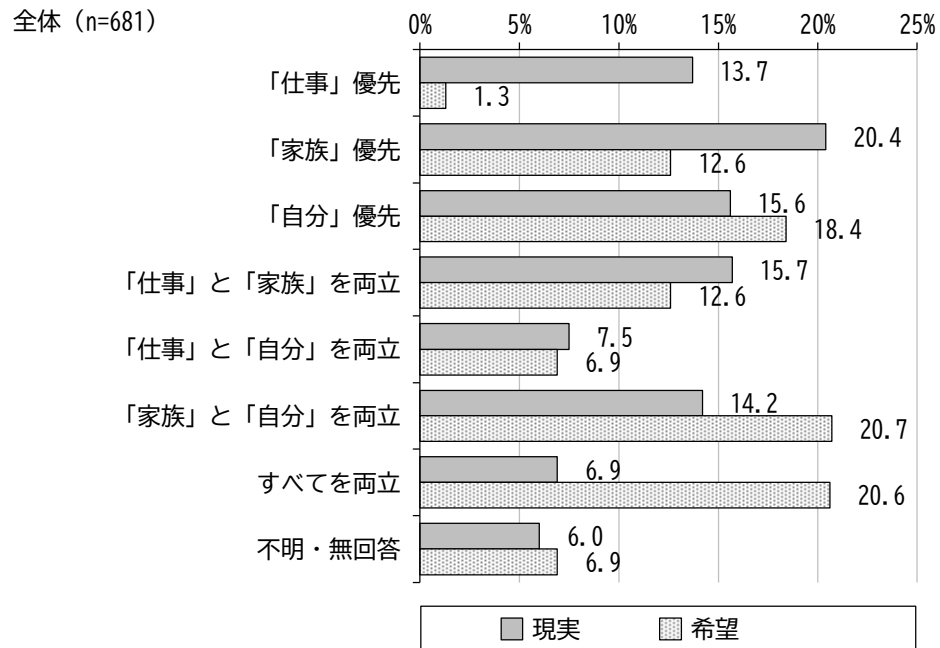
年齢別にみると、60～69歳で「内容を知っている」「名前だけ知っている」、70～79歳、80歳以上で「知らない」、その他の年齢で「内容を知っている」が最も高くなっています。



問 17 「仕事」「家族」「自分」について、「現実にあなたが最も優先しているもの」と「普段の生活の中で、あなたが最も優先したいと希望するもの」をお答えください。(それぞれ○は1つ)

【現実】では、『家族』優先が20.4%と最も高く、次いで『仕事』と『家族』を両立が15.7%、『自分』優先が15.6%となっています。

【理想】では、『家族』と『自分』を両立が20.7%と最も高く、次いで「すべてを両立」が20.6%、『自分』優先が18.4%となっています。



【現実】

性別にみると、男性で『仕事』優先、女性で『家族』優先が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29歳、80歳以上で『自分』優先、30～39歳で『家族』優先、『仕事』と『家族』を両立、50～59歳で『仕事』と『家族』を両立、その他の年齢で『家族』優先が最も高くなっています。

単位：％		「仕事」優先	「家族」優先	「自分」優先	両立「仕事」と「家族」を	両立「仕事」と「自分」を	両立「家族」と「自分」を	すべてを両立	不明・無回答
性別	男性 (n=274)	20.1	17.2	15.3	19.3	6.6	10.6	7.3	3.6
	女性 (n=396)	9.3	23.0	15.4	12.6	8.3	17.2	6.8	7.3
	答えたくない (n=5)	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	15.8	3.5	47.4	7.0	14.0	10.5	1.8	0.0
	30～39歳 (n=69)	10.1	24.6	7.2	24.6	10.1	15.9	7.2	0.0
	40～49歳 (n=103)	16.5	27.2	7.8	18.4	9.7	9.7	8.7	1.9
	50～59歳 (n=88)	20.5	17.0	10.2	21.6	11.4	9.1	8.0	2.3
	60～69歳 (n=136)	14.0	20.6	8.1	18.4	7.4	17.6	10.3	3.7
	70～79歳 (n=132)	11.4	26.5	16.7	9.1	3.8	16.7	6.1	9.8
	80歳以上 (n=91)	7.7	14.3	26.4	9.9	1.1	17.6	3.3	19.8

【理想】

性別にみると、男性で「すべてを両立」、女性で『家族』と『自分』を両立が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29歳、80歳以上で『自分』優先、60～69歳、70～79歳で『家族』と『自分』を両立、その他の年齢で「すべてを両立」が最も高くなっています。

単位：％		「仕事」優先	「家族」優先	「自分」優先	両立「仕事」と「家族」を	両立「仕事」と「自分」を	両立「家族」と「自分」を	すべてを両立	不明・無回答
性別	男性 (n=274)	1.5	15.3	15.0	19.0	5.5	17.2	22.3	4.4
	女性 (n=396)	1.0	10.6	20.5	8.1	8.1	23.7	19.7	8.3
	答えたくない (n=5)	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	3.5	14.0	24.6	1.8	12.3	21.1	22.8	0.0
	30～39歳 (n=69)	0.0	15.9	10.1	11.6	10.1	23.2	29.0	0.0
	40～49歳 (n=103)	1.0	17.5	12.6	13.6	10.7	15.5	26.2	2.9
	50～59歳 (n=88)	3.4	9.1	21.6	10.2	6.8	14.8	29.5	4.5
	60～69歳 (n=136)	0.0	12.5	17.6	16.9	5.9	23.5	20.6	2.9
	70～79歳 (n=132)	1.5	13.6	19.7	10.6	5.3	25.0	11.4	12.9
	80歳以上 (n=91)	0.0	6.6	24.2	16.5	1.1	19.8	12.1	19.8

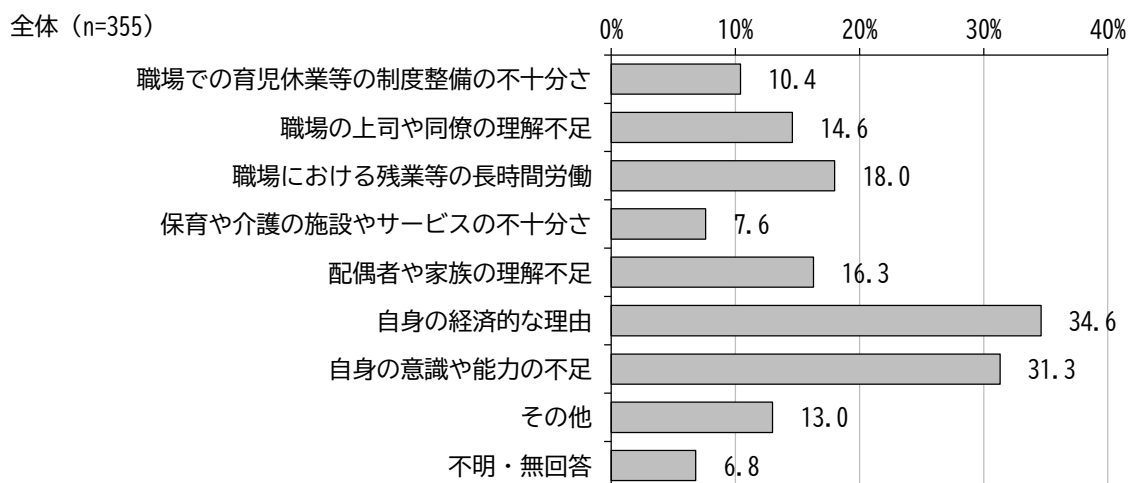
問 17 で「現実」と「希望」が異なっている方

問 17-1 「現実」と「希望」が異なっている理由はなぜだと思いますか。(〇は3つまで)

「自身の経済的な理由」が 34.6%と最も高く、次いで「自身の意識や能力の不足」が 31.3%、「職場における残業等の長時間労働」が 18.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「自身の経済的な理由」が最も高くなっています。

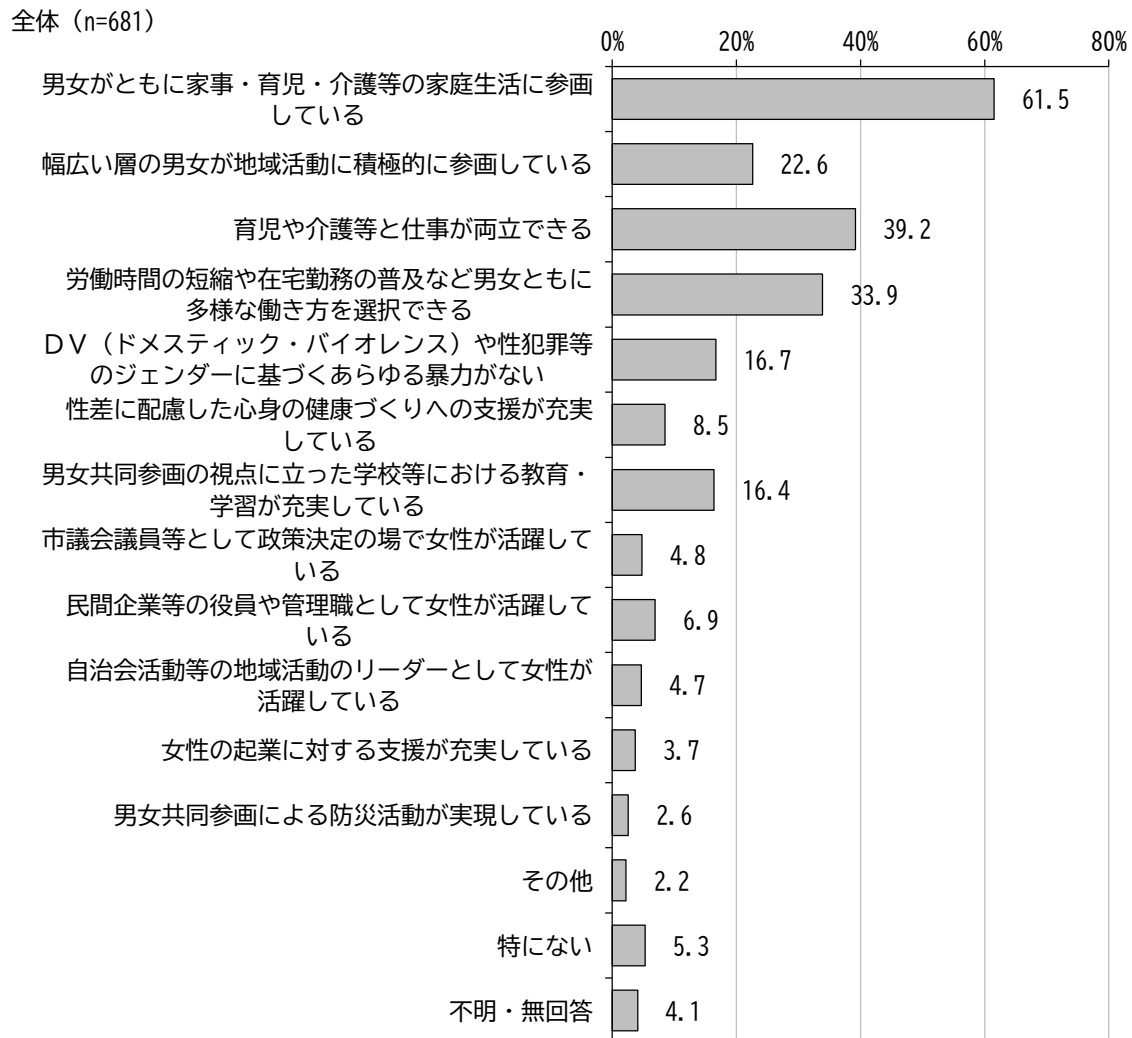
年齢別にみると、18～29 歳、70～79 歳で「自身の意識や能力の不足」、その他の年齢で「自身の経済的な理由」が最も高くなっています。



単位：%		整備 職場 の 不 十 分 さ	足 職 場 の 上 司 や 同 僚 の 理 解 不 足	間 職 場 に お け る 残 業 等 の 長 時 間 労働	ス 保 育 や 介 護 の 施 設 や サ ー ビ ス の 不 十 分 さ	配 偶 者 や 家 族 の 理 解 不 足	自 身 の 経 済 的 な 理 由	自 身 の 意 識 や 能 力 の 不 足	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
性 別	男性 (n=138)	13.8	17.4	21.0	3.6	10.9	37.7	34.8	13.0	4.3
	女性 (n=210)	8.6	12.9	16.7	10.5	19.5	32.4	28.1	12.9	8.6
	答えたくない (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
年 齢 別	18～29歳 (n=41)	7.3	12.2	22.0	4.9	4.9	31.7	48.8	7.3	7.3
	30～39歳 (n=41)	14.6	22.0	36.6	4.9	17.1	41.5	26.8	12.2	0.0
	40～49歳 (n=62)	14.5	16.1	25.8	6.5	11.3	37.1	27.4	11.3	1.6
	50～59歳 (n=50)	4.0	10.0	22.0	2.0	16.0	40.0	34.0	12.0	2.0
	60～69歳 (n=71)	11.3	11.3	7.0	15.5	21.1	35.2	26.8	14.1	4.2
	70～79歳 (n=51)	9.8	21.6	13.7	5.9	25.5	27.5	31.4	13.7	15.7
	80歳以上 (n=36)	11.1	11.1	2.8	11.1	13.9	27.8	25.0	22.2	19.4

問 18 あなたが望む男女共同参画社会の姿とは、どのようなものですか。(〇は3つまで)

「男女がともに家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が 61.5%と最も高く、次いで「育児や介護等と仕事が両立できる」が 39.2%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに多様な働き方を選択できる」が 33.9%となっています。



性別・年齢別にみると、すべての区分で「男女がともに家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が最も高くなっています。

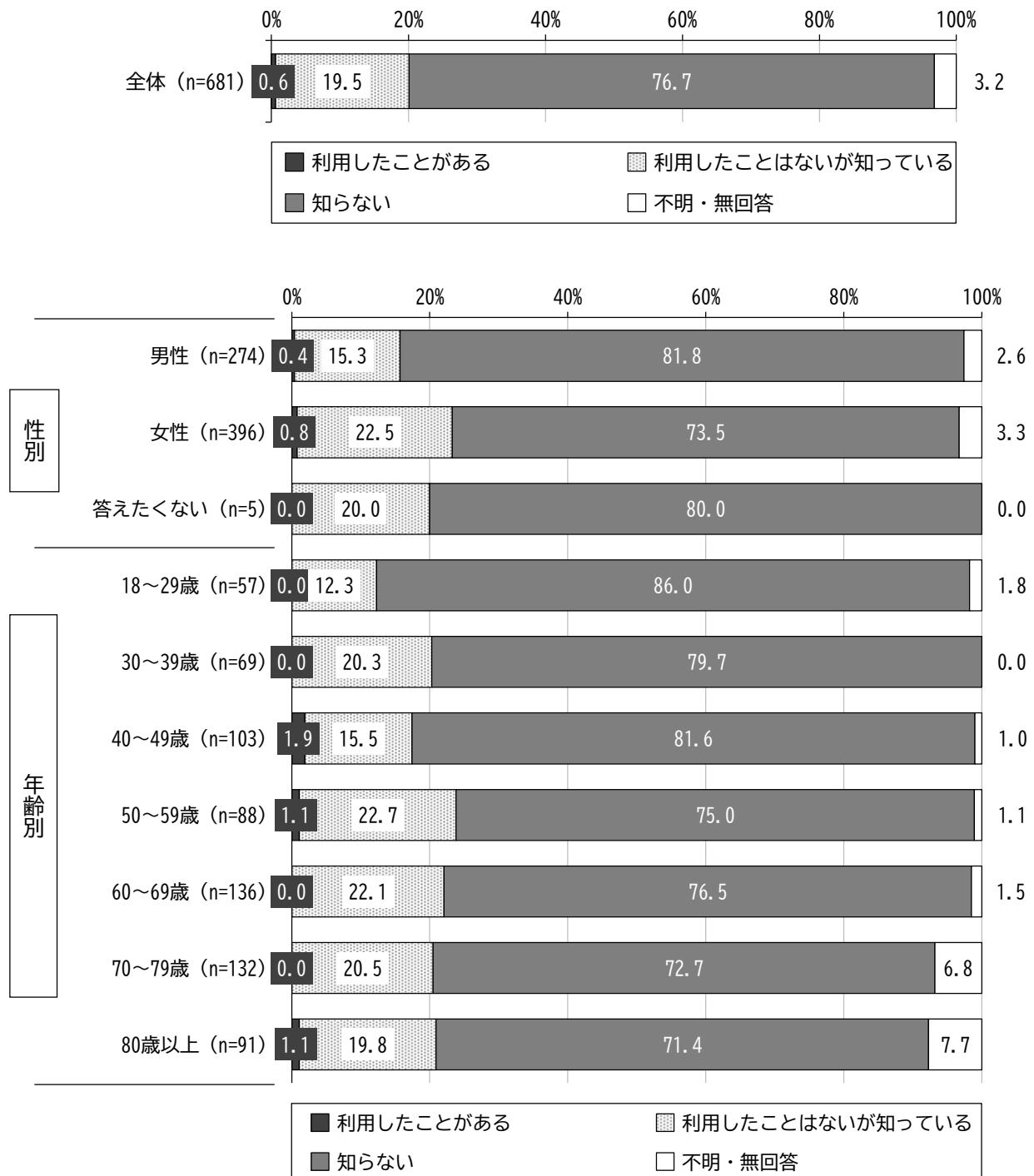
単位：％		男女がともに家庭生活に参画している	幅広い層の男女が地域活動に積極的に参画している	育児や介護等と仕事が両立できる	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに多様な働き方を選択できる	DV（ドメスティック・バイオレンス）や性犯罪等の被害がない	性差への配慮が充実している	男女共同参画の視点に立った教育・学習が充実している	市議会議員等として政策決定の場で女性が活躍している
性別	男性（n=274）	55.8	29.6	36.9	32.1	14.6	10.6	13.9	4.7
	女性（n=396）	65.4	17.7	40.9	35.9	18.4	7.1	18.4	4.8
	答えたくない（n=5）	60.0	40.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳（n=57）	59.6	21.1	36.8	33.3	22.8	14.0	15.8	5.3
	30～39歳（n=69）	72.5	18.8	53.6	46.4	15.9	10.1	10.1	5.8
	40～49歳（n=103）	66.0	12.6	35.9	35.9	22.3	7.8	15.5	4.9
	50～59歳（n=88）	59.1	25.0	36.4	36.4	21.6	10.2	12.5	4.5
	60～69歳（n=136）	63.2	27.2	44.9	30.9	15.4	8.1	16.2	3.7
	70～79歳（n=132）	58.3	25.0	39.4	29.5	15.2	8.3	23.5	5.3
	80歳以上（n=91）	52.7	25.3	28.6	31.9	7.7	4.4	16.5	5.5

単位：％		民間企業等の役員や管理職として女性が活躍している	自治会活動等の地域活動のし	女性の起業に対する支援が充実している	男女共同参画による防災活動が実現している	その他	特にな	不明・無回答
性別	男性（n=274）	7.3	6.6	3.3	2.9	4.0	5.1	2.9
	女性（n=396）	6.8	3.5	3.5	2.5	1.0	5.6	4.5
	答えたくない（n=5）	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	18～29歳（n=57）	5.3	1.8	3.5	1.8	3.5	1.8	0.0
	30～39歳（n=69）	2.9	4.3	2.9	1.4	5.8	2.9	0.0
	40～49歳（n=103）	7.8	1.9	5.8	2.9	1.0	3.9	1.9
	50～59歳（n=88）	5.7	3.4	3.4	1.1	2.3	6.8	0.0
	60～69歳（n=136）	4.4	2.9	2.2	6.6	2.9	7.4	2.2
	70～79歳（n=132）	10.6	3.8	4.5	0.8	0.8	6.1	6.8
	80歳以上（n=91）	9.9	14.3	3.3	2.2	1.1	5.5	14.3

問 19 大津市には男女共同参画センターという男女共同参画の推進を図るための拠点施設があります。あなたはこの施設をご存じですか。(○は1つ)

「知らない」が76.7%と最も高く、次いで「利用したことはないが知っている」が19.5%、「利用したことがある」が0.6%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての区分で「知らない」が最も高くなっています。

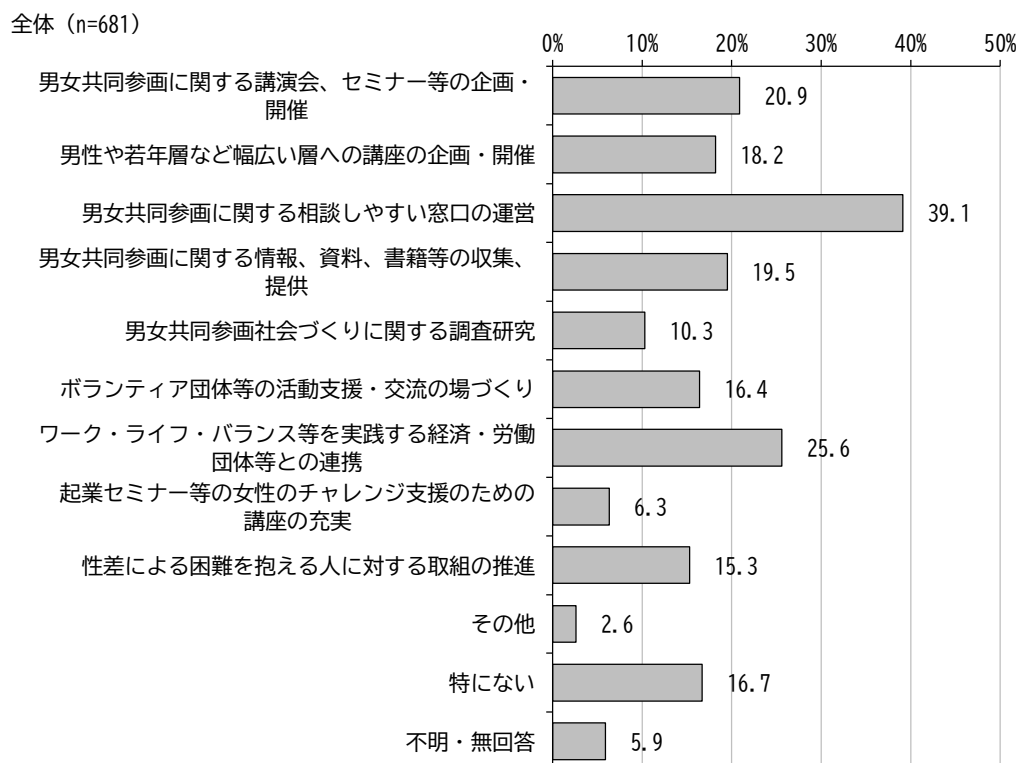


問 20 男女共同参画の推進を図るための拠点施設である天津市男女共同参画センターの機能のうち、重要だと思うものや今後拡充してほしいものはどれですか。(〇は3つまで)

「男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」が 39.1%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランス等を実践する経済・労働団体等との連携」が 25.6%、「男女共同参画に関する講演会、セミナー等の企画・開催」が 20.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～29 歳、40～49 歳で「ワーク・ライフ・バランス等を実践する経済・労働団体等との連携」、その他の年齢で「男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」が最も高くなっています。



単位: %		画演男 ・会女 ・開共 催同 セ参 ミ画 画に 関の する 企講	層男 性や 若年 の層 など 画・ 幅 開 広 催い	談男 し女 や共 す同 参画 に 関 連 する 相 談	集報、 、資共 、料同 、参 画に 等関 のす 収情	に男 女共 同参 画調 査研 究社 会づ くり	動ボ 支ラ 援ン ・テ 交イ 流ア の団 体 づ 等 の 活	働ス 団ワ 等ク 実等 ・ラ のす づ つ 携 携 ・ 経 ・ ラ ・ ン	講起 座業 のレ 充セ 実ミ ナ 支 援 等 の た 女 性 の	人性 に差 対 する 困 難 を 推 進 え る	そ 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
性別	男性 (n=274)	23.0	16.4	38.7	19.3	10.2	16.8	25.5	3.6	13.5	4.4	20.8	4.4
	女性 (n=396)	19.9	18.9	39.9	19.9	10.1	16.2	25.3	8.3	16.7	1.5	13.9	6.6
	答えたくない (n=5)	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
年齢別	18～29歳 (n=57)	5.3	19.3	28.1	17.5	8.8	5.3	42.1	5.3	19.3	0.0	19.3	1.8
	30～39歳 (n=69)	7.2	13.0	42.0	23.2	15.9	13.0	40.6	2.9	18.8	2.9	20.3	0.0
	40～49歳 (n=103)	13.6	18.4	26.2	17.5	16.5	10.7	35.9	6.8	10.7	2.9	21.4	1.9
	50～59歳 (n=88)	23.9	14.8	38.6	13.6	4.5	13.6	30.7	11.4	15.9	5.7	20.5	2.3
	60～69歳 (n=136)	28.7	19.9	50.0	21.3	8.1	20.6	20.6	3.7	19.9	2.9	12.5	4.4
	70～79歳 (n=132)	29.5	18.2	38.6	28.0	10.6	19.7	15.2	7.6	12.1	0.8	15.2	9.8
	80歳以上 (n=91)	23.1	20.9	42.9	12.1	8.8	24.2	9.9	6.6	13.2	3.3	12.1	16.5

○最後に、男女共同参画に関してご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画に関するご意見などについて、103 件の記載があり、以下のとおり分類しました。

分野	件
男女の役割分担や性差について	24
男女共同参画全般について	22
行政への要望や施策について	16
家庭と仕事の両立について	15
アンケートについて	14
女性の参画・登用について	5
その他	7

※設問の趣旨と異なる回答については、掲載を省略しています。

■ 男女の役割分担や性差について

内容
86 才主婦、今は孫の問題として知ってますが、専業主婦で子育てすべて昔は女性の仕事として！あまり変わった世の中に何も答えることができません。ごめんなさい。
夫は家父長制の家庭で育ちました。私の出産・育児、隣家の大事、子どもの交通事故等にも一切関わらず、同僚と麻雀三昧でした。私が仕事を続けても保育園の送り迎え等は一切する事がないのが分かっていたので退職しました。講演会等を開催しても無駄でしょう。
男が女を、女が男を見るばかりでなく、お互い自分を見れる世の中を作れば…理想かな。
男だから、女だからといった性差をつけず、本人が希望する生き方や働き方を尊重していただける社会にしたいです。LGBTQ+は知られていますが、それがもととなり結婚をしない、パートナーを作らないといった選択をした人が「存在する」ことを当然であるものとして考えられる社会であってほしいと願います。未婚・離婚で分けられるのも正直苦しくはあります。（自分はQ+です）
行政による主導はむしろ価値観の押し付けになり、自由主義の理念に反する。女性の中には家庭重視、子づくり重視を内心本当は持っているのに言い出す事ができないでいる。不自由がむしろ潜んでいる気がします。（米国での生活体験を基にした感想です）そのことが少子化に拍車をかけている危惧すらあります。
結婚すれば色々な問題がおこってくる。きれい事では終わらない。学校で教育、倫理や現実のことを。今はしんぼうがない
現代の社会がやや男性が優遇されていると受け取られているからか、男性＝強者、女性＝弱者といった図式になっていることが多いが、DVに悩んだり、離婚の際に不利になってしまった男性の相談を受けた事がある。社会のしくみで取り残されていくことのないようにそのような方々の相談窓口も必要だと感じる。（必ずしも女性だけが弱者ではない場合もある。）
子供の小さい頃から男女平等で、家事も子育ても男女共にするものだ学校教育（道徳）にすればいいと思います。家庭でも今の若い方々は女性も仕事を持ち、共働きの方が多いです。我が子の前で、男女共に家事をするものだ実践して、子どもに見せていったらと思います。勤務先の上の方は、まだまだ考え方が古いです。

内容
ジェンダーレスが浸透してきた世の中において、男だから、女だからといった考えは古臭い。個々人の持っている能力が認められ、異なる部分（国籍や障害等）も受け入れられる日本を作っていくべきである。
性差がある以上、すべてにおいて“同じ”は不可能であることを大前提にした上で、同じ人間として社会に関わる権利は誰しもある、ということを啓発していくことはやはり大事ですね。お互いを尊重し合う教育が必要だと思います。
そもそも男だ女だと言っている時点でおかしい。個人の能力でみれば良いだけのこと。政治も社会も能力がある人間が上に立てば良い。そこに男だ女だは関係ない。男性側が自分たちの身を守りすぎる。女性は母親ではない。
そもそも男女対等は脳の作り、体の作りからして不可だと思う。男に出来る事、女に出来る事、一緒に出来る事、役割分担をしていけば良いと思う。
男性だから、女性だからと差別されたり、不当な扱いを受けることはなくしていくべきだと思うが、男性だから出来ること、女性だから出来ることがあると思うので、そこをごちゃまぜに差別と区別はちゃんと分けてほしいと思います（育児においては特に!!）。
男性には男性の、女性には…と特有の良き面がお互いにあり、絶対男女平等にと、いきすぎた社会になり過ぎることも、問題ではないかと思います。お互いが気持ち良く暮らせる社会であってほしいと願います。
男性は仕事、女性は家庭は極端だが、適材適所で得意なことを得意な人がやれば良いと思う。
役割分担の内容は個々人で違ったりすると思うので、男女お互いの意思を理解し合って、社会では男・女を区別しない努力が必要と思う。その始まりはやはり小さい時からの教育でしょうか?!それにより男女差別を無くしていく。
料理、洗たく、そうじ、子育て、男性ができない（技量として）しないことが多すぎる。やれば、おもしろいということを伝えたらよい。
過去には男尊女卑というような言葉や風紀が存在していたが、昨今は男女平等を意識するあまり女性をとにかく男性と平等にしなければという流れを強く感じ、女尊男卑のような空気感を感じている。
私の年代からみれば、ずいぶん良くなったと思います。家事は女というのが身に染みている年代ですが、それができた年代でもあります。これからは経済的にも女性も働かなくては行けない時代だし、能力のある女性が出て来る時代でもあるので、性の差を認識しつつ助け合って生活できる社会になれば良いなあと思います。
昭和末期や平成初期と比べ、男女での性差はかなり無くなっており、それに伴い男女共同参画社会づくりにあえて税金を投入する必要性も少なくなっていると感じます。男だから女だからという政策ではなく、性別に関係のない政策への税金の投入を希望いたします。
真剣に取り組まれていると思います。意識調査も重要と思いますが、主に体力仕事では男性が有利であり、それ以外では女性の方が優秀である方が多いと思いますので、男女共同参画社会は、結果的に男性のうち無能な者の排除となって、それに伴う犯罪（被害者が女性）等を危惧した方がよいと思います。
男女共同参画社会は、若い方達には、浸透してきているようにも思います。ただ、妊娠出産は、女性のみなので、しかも、体を張った命がけともいえるものです。そこはどうしても共同にはならないのでそこはどうしたらいいのでしょうか？いつも疑問です。

内容
男性が働いて女性は家事をする。だから女性の立場を守る。でも逆でもいいし男性が家事育児をしてたつていいと思う。結構思想も女性よりかなと思う。男性だろうと女性だろうと家族を守る守られるという意識は同じであってほしい。家庭内、職場内、社会に格差はいらない。
理想は、性別に関係なく、適材適所で協力して動くことだと思います。「女性も社会進出したいでしょ」ということが決めつけであり、「女性なので優遇しています」ということ自体が差別なので、女性／男性だからと言って優遇されたり差別されたりすることがなくなることが理想です。ただ、男性の方が得意なこと、女性の方が得意なことが存在することは事実ですので、それも踏まえつつ、最終的にはそれぞれが得意を活かして協力し合うことができれば良いのではと思います。

■ 男女共同参画全般について

内容
「男女共同参画社会」という名前も聞きなれないですし、もっとPRの仕方を変えたらいいのに、と思います。
おたがいを思いやり、ささえて共同する心がまえ。今の社会、人間心にかけていると思います。日本人の本質をなくしていると思います。
存在を知らなかったので宣伝してほしい。どんなメリットがあるのかわからない。
大切な事だと思います。活動は続けていただきたい。
男女共同参画社会づくりの為の名目で、子育て家庭優遇があまりに目立ち、独身や子なし家庭への負担増大がひどいと感じている。子育ての大変さはわかるが、周囲が補助したくなるような制度づくりを目指してほしい。
男女共同参画社会を、早くに知っている若者と、私達高齢者が見聞きしているのちに差がつく。余りにも、極端になっている状態についていけない部分もあるが、それなりの学習は出来ているつもりでもある。ただ、自分中心に考える人が多く、権利だけ主張し、義務を怠っている人が多い。権利は放棄できるが、義務は必ずするべきもの。
男女共同参画作りは地域社会や経済発展に重要であり、そのための広報や啓発に積極的に努めていくことが必要では。
男女共同参画は、そうならないなくてはならないことなので、もっと社会の仕組みを作り直してほしい。
男女という境を無くして、良い社会実現のために人類皆で協働できる社会になって欲しいです。
男女問わず、それぞれのおかれている状況や事情を気軽に話せる雰囲気があるといいなと思います。
小さいうちから”男女共同参画”という言葉の意味と、関連施設について学ぶ機会があれば良いと思う。
まずは、なにはともあれ日常の会話のなかに自然と使われる言葉であって欲しい。知名度をもっともっとあげて欲しい。あげるべきだと思います。そこからいろいろ多様な考え、意見が出て来ると思います。
幼・小・中・高・大と教育の場で男女共同参画への意識を高めるよう指導支援して行く事が重要だと思います。
幼少期を国民学校で軍国少年として過ごした老生ですが、当時は、政治・経済、社会、全ての面で要職は、殆ど全て、男性で占められ、わが家にあっても、重要事項の決定は、「親父の一言」であったと思われます。爾年、戦後 80 年を経過、全ての面で大幅に男女共同参画が進んで来たと思われます。但し、老生のあるべき男女問題の推進には誠におこがましいかぎりですが、「男系天皇」に限られる現在の「皇室典範」の改正、即ち、愛子天皇への是非論がもっと高まって良いのではないかと考えます。

内容
理想と現実の乖離が大きい社会を少しずつでも改善を望みます。
私は 70 代ですが、私の母の時代、私、そして娘の時代と比べると、女性の権利などは確実に少しずつ変わってきたように思う。しかし、本質的にはまだまだ社会の意識は変わっていないことが現実だ。人間として自分の生き方に責任を持つこと、また人の気持ちが考えられる心の余裕を持つことで、まだまだ男女共同参画社会は発展するように思う。
古いしきたりをなくす手段を考案すべき。
色々問題が多く、解決は永遠に出来ないと思いますが、少しずつ変わっていく世の中にしていきたい。
前提や共通認識はなるべく無い方が良いと思います。
男女間で考え方や社会的役割が異なる以上、男女共同参画社会づくりは根本的に無理な課題だと思います。女性優遇を行うことが男女共同参画に繋がると安直に考えている人がいるようでは、男女共同参画社会の実現は厳しいかと思います。
直ぐに対応出来る内容ではないが、幼少の頃から意識付けが出来る仕組み、取り組みが必要と考える。
法律も含め過度な女性優遇は逆差別になります。阿吽の呼吸で語らずとも通じる関係を築くことの方が共同参画に繋がると思います。

■ 行政への要望や施策について

内容
色々な事で相談しやすい情報をお願いします。
大津市は、すべての事業について、おそいと思います。最近は、とくに感じます。若い人も、我々年よりも生きやすい町にしてほしい。もちろん男女もいっそう、かがやける町にしてほしい。
行政がフォローするしくみをもっと進め、充実させることが必要。
高齢者なのでよくわかりませんが、色々なセミナー開催があるようですが、それに出席出来るような曜日など考慮しているのでしょうか。休日をとって皆さん参加されているのでしょうか。
これから家庭をもつ若い世代の方たちが安心して子どもを産み育てることのできる社会づくり、がんばってください。
最近、地域、学校での会話不足が目立って来て居る。従って、コミュニケーションを活発にさせる「対話」を重視すべき施策を取る事。
女性や弱者が虐げられていると思うのであれば法的に決める。国や地方自治体が推進する。男性のため、何が問題かわからない。
セミナーやイベントが不要とは思わないが、実効性があったかの検証は必要。やっている体裁だけであれば、子育てや介護世帯へ直接還元したほうがよい。とくに子の出生数の少なさには危機を感じる。滋賀県は健康支援など充実していると聞きますので、子育て世代が住みよい政治に期待します。
先ずは、行政内（市役所内）に於ける旧態依然の上下関係及びセクショナリズムの改革が最優先。民間の目で見ると驚くほど古い体質です。自治会会長として大津市役所と各種の交渉をした経験から痛感しています。
マンションが乱立して子供が増えている割には学校や保育施設が全く増えない点に強く懸念を感じているので対策を実施して欲しい。
リベラルの為に公費を使って、男女共同参画のような必要ない事につかわずに、もっと大事な事に公費（税金）をつかってほしい。

内容
行政と民間が重複した取り組みがあり無駄だと感じる。行政は機能を重点化、効率化し、法律の整備と司令塔としての役割に注力すべき。
税を投入する以上、活動内容をもっと精査し、予算措置する際は、思想的に偏らず左傾活動化しないように最大限注意すべき。
男女共同参画センターについて、男女共同参画という名称が漠然としていて何を指すのか分かりにくい。男女共同参画という語は政策用語に感じるので、日常のトラブルの相談窓口を指すとは連想できない。そのような機能があることの周知活動が必要と思う。
男女共同参画社会づくりを推進している行政が問題の本質を理解しているのか分からない。議論しているだけ時間と税金の無駄遣いだと思う。
目的をはっきりさせて、それについて取り組んで行ってほしい。

■ 家庭と仕事の両立について

内容
8時間労働して、さらに通勤時間もプラスされ、疲れて帰った後に家事、育児、介護とかしんどいと思う。労働時間の短縮や週休3日制の導入の促進を希望します。
家の事や家族の細々としたことに関心を持ってもらうにはどうしたら良いかを考えてもらいたい。
家事・子育て・介護などが、いわゆるお金を稼ぐ仕事と同等、もしくは同等以上に重要な「仕事」であると認識されるような社会づくりが重要だと思います。（「シャドウワーク」が「影」のではなく、むしろもう1つの「光」（ライトワーク？）であると認識される必要があると思います。）
家庭内の役割分担は、家庭内で決めることで、外部の人間が口出しする事ではないが、分担内容に不満を持っている人がそれを解決できる環境づくりは大切だと思う。男女問わず「仕事」を優先したい人、「家族」「自分」優先したい人がそれぞれいるはず。それらの人々が全員住みやすい環境づくりは困難だと思う。何かに妥協や我慢をしながら暮らしていくのが普通だと思う。
子供がある程度大きくなるまでは母親の存在は不可欠だと思います。その部分を考慮して父親がバックアップ出来る体制が必要だと思います。
職業や作業など男女の違いだけではなく、それぞれの個人の適正、能力があり、いちがいに決めることではないと思う。2人ともが外で働かないと生活して行けない社会が問題。少子化問題も、ばくぜんとした先行き不安があり、そのことが解決されないと、経済・職業・生活は改善できないと思う。
男女関係なく、働ける世の中になると良い。その為には、結婚しても、妊娠しても子育て期も、何の心配もなく働ける世の中になってほしいと思います。具合の悪い時は、気にせず休める仕事場、子育て期は、女性だけが休むのではなく、男性も休める会社である、その様な世の中であってほしい。そうならなければ子供は、育てられない。
保育士の給料を上げ、保育士の確保、または保育士の資格をもっと取得しやすくして増やし、パートなどでも子どもを長い時間、安く、預けられると、もっと自由に働くことができると思います！
昔に比べたら男子の協力が、だんだん増えてますが、もう少し家庭でも職場でも尊重しあえたら、子供も家庭が楽しい場になり、見習う様に自然に成人して職場でも良い方向に向かう様に、尊重し合える様になったらと思います。
世の中もっと夫婦で出産、子育て、家事すべきだし、そのためには勤める会社等が対策すべきだと思います。市や国はもっと子育てしやすい環境を整えるべきです。平成11年、基本法が施行されてからそこま

内容
で変わっていないのでは？と思っています。変えようとして下さっている人がいても変えられない古い人がいる。そんな方々は、早く引退してほしいです。でないと少子化も止まらないと思います。色々がんばってほしいです。よろしくお願いいたします。
育児中の母親にとっては、保育所等の子供を預ける場所が不足していることが、再就職の足枷となっているようです。個人的には保育士賃金の底上げと保育所（こども園）の充実が重要だとかんがえています。
産後も女性が産前に近い状態で働けるよう、病児保育制度などを充実させてほしいです。
子供のいる夫婦が共働きしなくても生活できるようになれば、ゆとりが出来て生活しやすくなるように思います。その際、働くのが夫であれ妻であれ、同程度の収入になるような社会がよいと思います。共働きの場合、時間的な余裕がなく、家事については手を抜かざるを得ない場合がありますが、少なくとも衣食住に関しては、コスパやタイパよりも家庭における丁寧な手仕事の価値が見直される社会になることを期待しています。当然、この手仕事の評価は男女どちらによるものであっても異なってはならないと思います。
女性の社会進出はいいものの仕事が優先になり少子化に繋がっているのではないかと。残業の少ない職場を探して転職したが、現実とは違い妊娠を機に退職しました。職場によるだろうが、育休を取りづらい・時短で帰りづらい・子供の事で休みづらい雰囲気がありまだまだ女性が働きやすい環境とは思えない。男性だけでなく独身女性（ご年配）からの理解が乏しい。
性別を問わず「ケア（育児・介護）」を担いながら働けるよう、労働時間上限規制の徹底や柔軟な働き方の普及を支援してください。

■ アンケートについて

内容
アンケート結果が、今後の政策に反映されることを切に願います。
今まで認識の低かった男女共同参画社会について認識を高められました。
夫が亡くなって1年と少しになりますが、主人が存命の時、若い時（まだ子育ての時）の事を思い出して答えの項目を選びましたが、質問の仕方が答えにくく、わかりにくい事が多いように感じました。
回答したが、単身者にはほぼ関係ないことだと思う。既婚・子育て世代向けの内容なので、氷河期世代は関係ないと思う。今さら就職差別が解消されるわけがないので。
高齢者ですので、余り考えられない事ばかりで回答不能の所が多いです。
高齢の為、アンケートがお役に立てたかどうかわかりませんが、わかる範囲でお答えしました。
こちらのWEB アンケートに対する意見ですが、配偶者パートナーがいないと回答すると問7の設問は表示されず、問7-1だけが表示されてしまい、困惑しました。紙のアンケートを確認すると、配偶者もしくはパートナーなしと回答した場合は飛ばす間だったようでした。WEB のみを見て回答される場合、分かりづらいなと感じたため、念のためお伝えしておきます。
このアンケートがすでに男＝仕事、女＝家庭の考えではないか？女性でも、家庭がすきで仕事をしない人もいるのだから、そこへの配慮は？女性も男性も仕事をしなければならない風潮に疑問がある。
このような意識調査等を、多く行なってもらいたい。
男女共同参画社会づくりはアンコンシャスバイアスの問題でもあるから、変えて行くためには根深く困難性が高いと思うが、一人一人の考え方の問題でもあるので、こうしたアンケートをとるだけでも、まず一

内容
歩なのではない、この取り組みに感謝しています。たくさんの方が考えられ、人として、よりよい社会になることを望みます。社会にどんどんなげかけていくことだと思う。
男女共同参画社会の意味がわかりません。もうちょっと言葉の意味とかわかりやすいアンケートにしてほしいです。
単身世帯により、ほとんどの設問に該当しない。対象者をしぼったデータを集めたほうがよいと思う。
質問、回答選択肢に偏りを感じた。もっとフラットな立場で。
問 11、なぜ女性に関してだけなのか少し疑問を感じたが、そういう社会が現実なのですね。問 13 にも通じます。

■ 女性の参画・登用について

内容
あらゆる制度にクォーター制度を導入すべき！
社会意識の改善には長い時間がかかると思いますが、どうか活動を続けられる中で、女性の立場の向上が見られていきますことを願っております。
世帯主は男性としているところに女性の社会進出を阻害している一因となっていると思う。町内活動で各戸へ参加を依頼するとき、世帯主に依頼するため、男性がほとんど参加される。活発な女性の参加を阻んでいる。
男性だから、女性だからではなく、本人の意思が尊重されることが大切。女性管理職を無理して増やすのではなく、能力や適性が大切。さまざまな制度が整えられているのはわかりますが、単身者や子どもがいない人は、休まず働き続けているし、休む人の分の仕事を引き受けることが多くなることについては、配慮や制度がないように思います。
ビジネスの内容に拘らず、男女が同じ条件で現場に出ることが重要だと思います。組織がそのような機会を与えることで、問題が“見える化”してくると思います。

■ その他

内容
85 才女性です。夫は死別。息子夫婦、孫と同居。男性孫 30 才未婚、孫の気持ちをはかって記入しました。
明るく楽しい生活が送れるように、いい社会になってほしいと願っています。
大津市民が安心・安全な社会でありますように、よろしくお願い致します。
このような無駄な活動に税金を使わないでください。
こんな面倒な調査お断り！忙しいのに煩わせるな。
政策調整部と言う行政は初めてしりました！
年金生活者にとっては生活をするのが一杯で、今回の様なアンケートも必要ですが、高齢者の生活をもっと考えてほしい。滋賀県及び大津市。

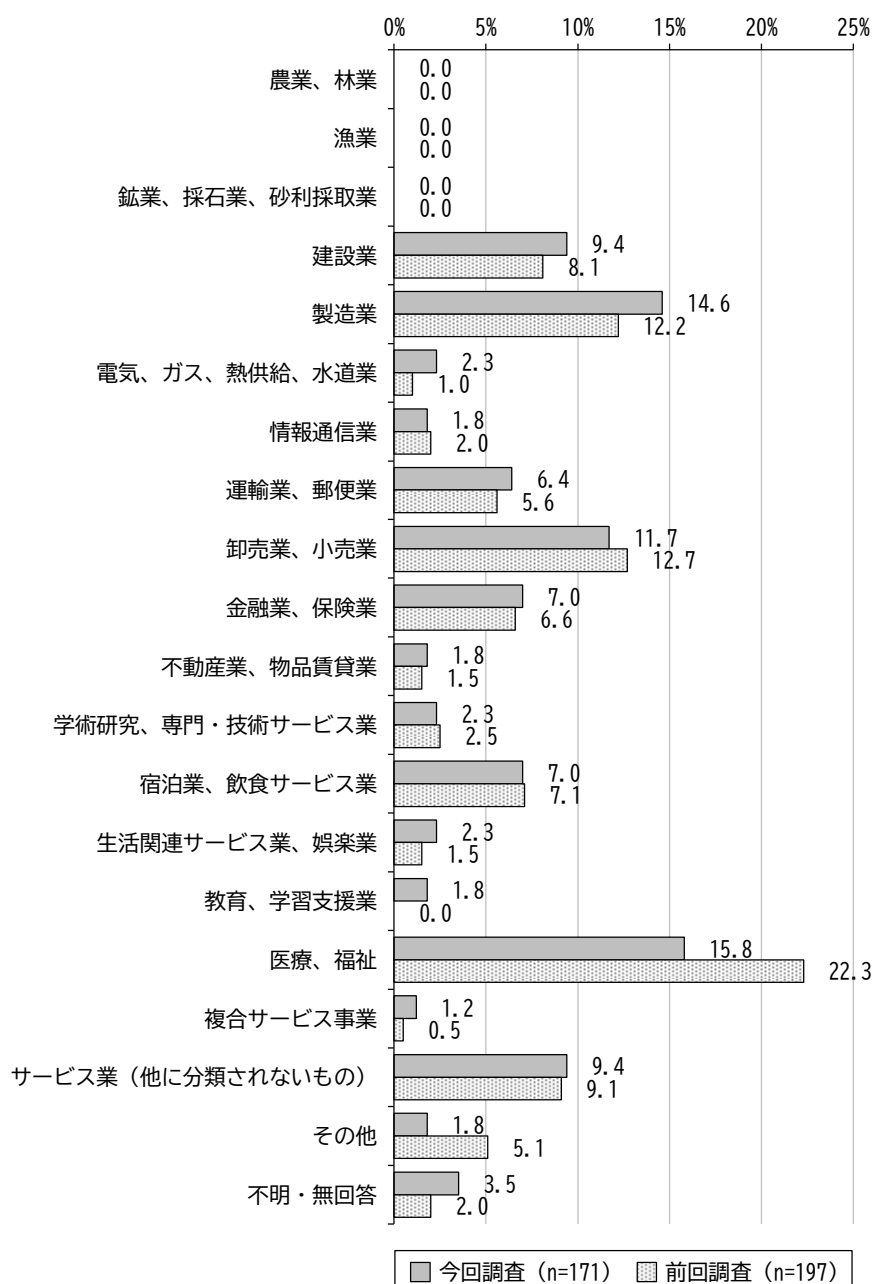
Ⅲ 事業所アンケート調査結果

1 事業所について

問1 貴事業所の主たる業種についてお答えください。(〇は1つ)

「医療、福祉」が15.8%と最も高く、次いで「製造業」が14.6%、「卸売業、小売業」が11.7%となっています。

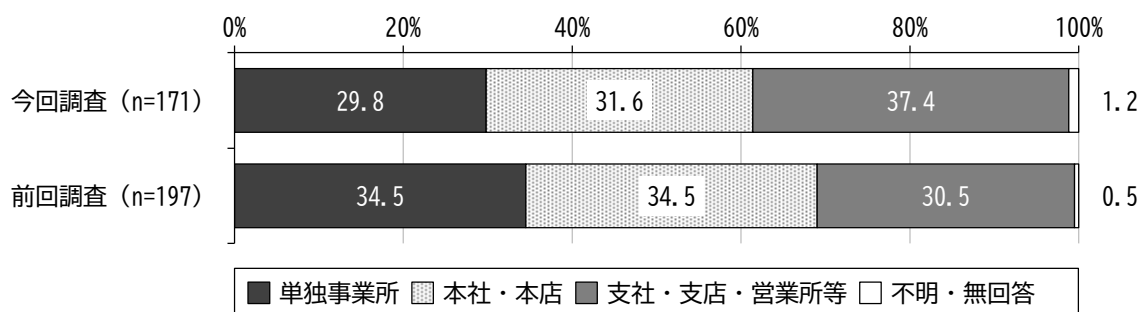
前回調査と比較すると、「医療、福祉」が6.5ポイント減少しています。



問2 事業所区分について、お答えください。(〇は1つ)

「支社・支店・営業所等」が37.4%と最も高く、次いで「本社・本店」が31.6%、「単独事業所」が29.8%となっています。

前回調査と比較すると、「支社・支店・営業所等」が6.9ポイント増加しています。



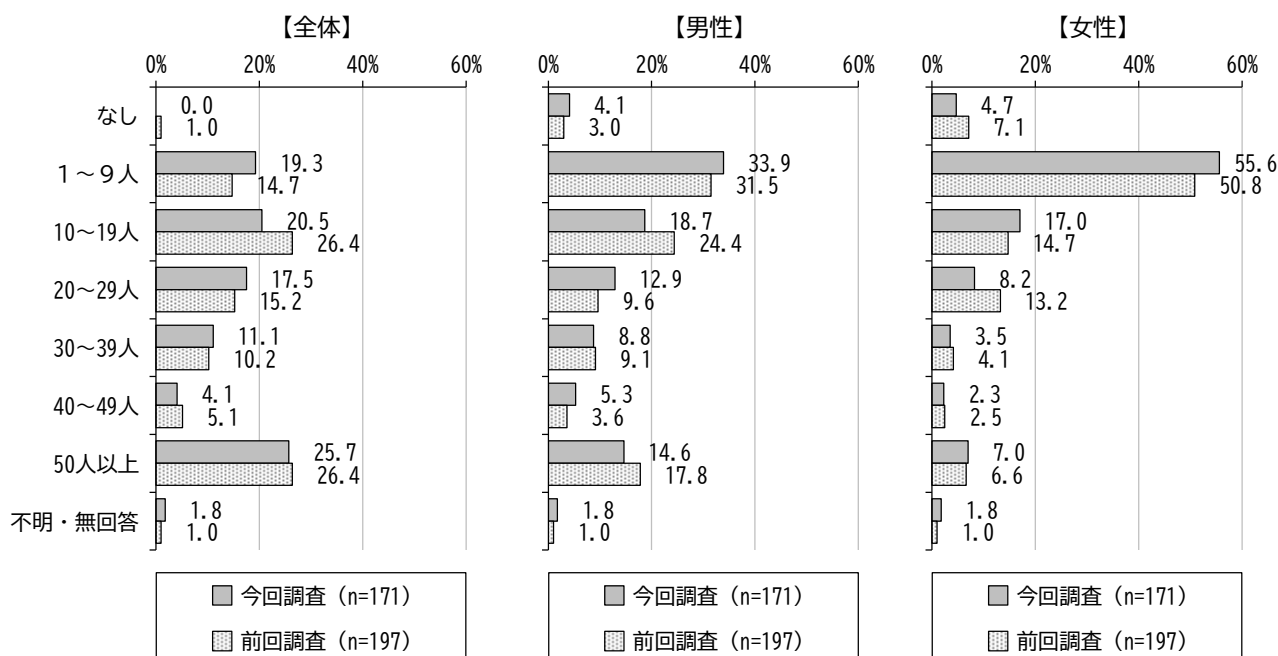
問3 貴事業所の従業員数を雇用形態別にご記入ください。(数字で記入)

■ 正規従業員

全体では「50人以上」が25.7%と最も高く、次いで「10～19人」が20.5%、「1～9人」が19.3%となっています。前回調査と比較すると、「10～19人」が5.9ポイント減少しています。

男性では「1～9人」が33.9%と最も高く、次いで「10～19人」が18.7%、「50人以上」が14.6%となっています。前回調査と比較すると、「10～19人」が5.7ポイント減少しています。

女性では「1～9人」が55.6%と最も高く、次いで「10～19人」が17.0%、「20～29人」が8.2%となっています。前回調査と比較すると、「20～29人」が5.0ポイント減少しています。

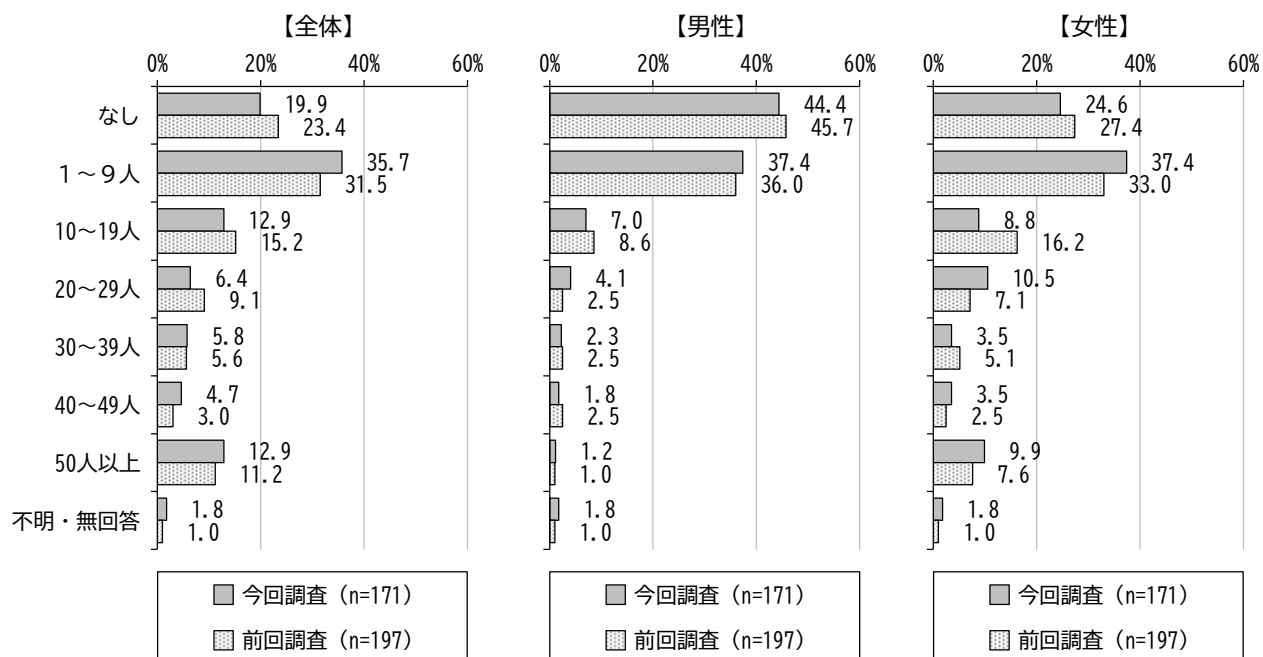


■ パート・アルバイト

全体では「1～9人」が35.7%と最も高く、次いで「なし」が19.9%、「10～19人」「50人以上」が12.9%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

男性では「なし」が44.4%と最も高く、次いで「1～9人」が37.4%、「10～19人」が7.0%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

女性では「1～9人」が37.4%と最も高く、次いで「なし」が24.6%、「20～29人」が10.5%となっています。前回調査と比較すると、「10～19人」が7.4ポイント減少しています。

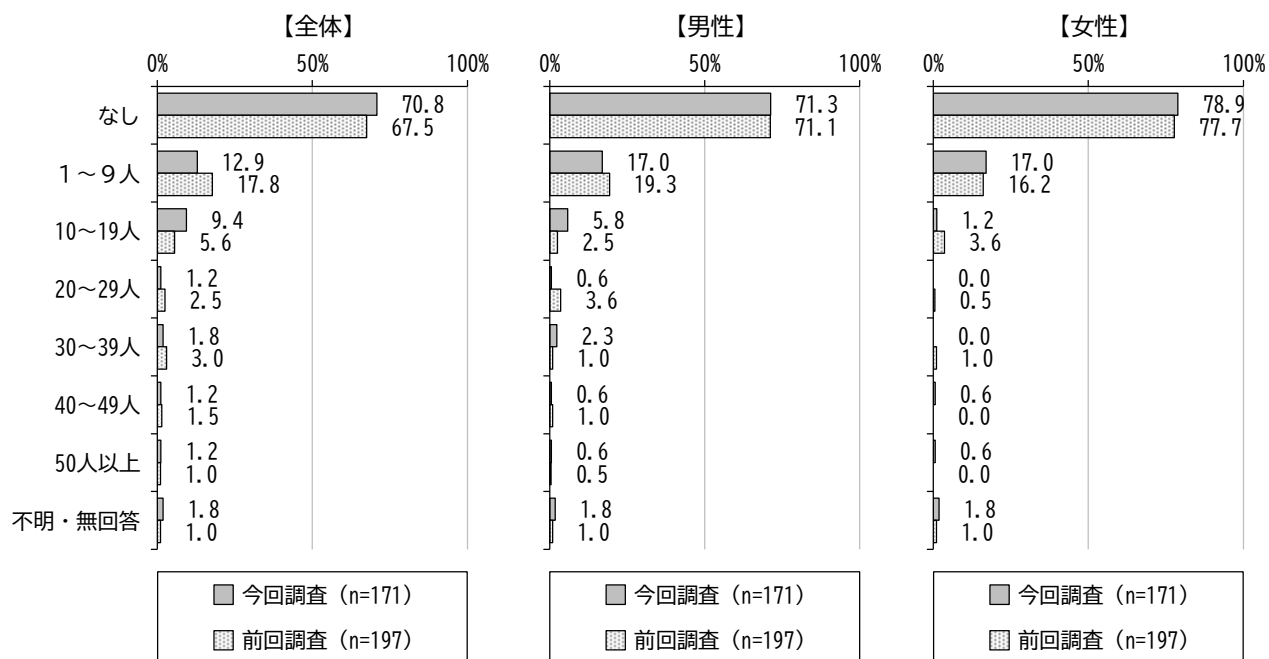


■ その他の非正規従業員

全体では「なし」が70.8%と最も高く、次いで「1～9人」が12.9%、「10～19人」が9.4%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

男性では「なし」が71.3%と最も高く、次いで「1～9人」が17.0%、「10～19人」が5.8%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

女性では「なし」が78.9%と最も高く、次いで「1～9人」が17.0%、「10～19人」が1.2%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

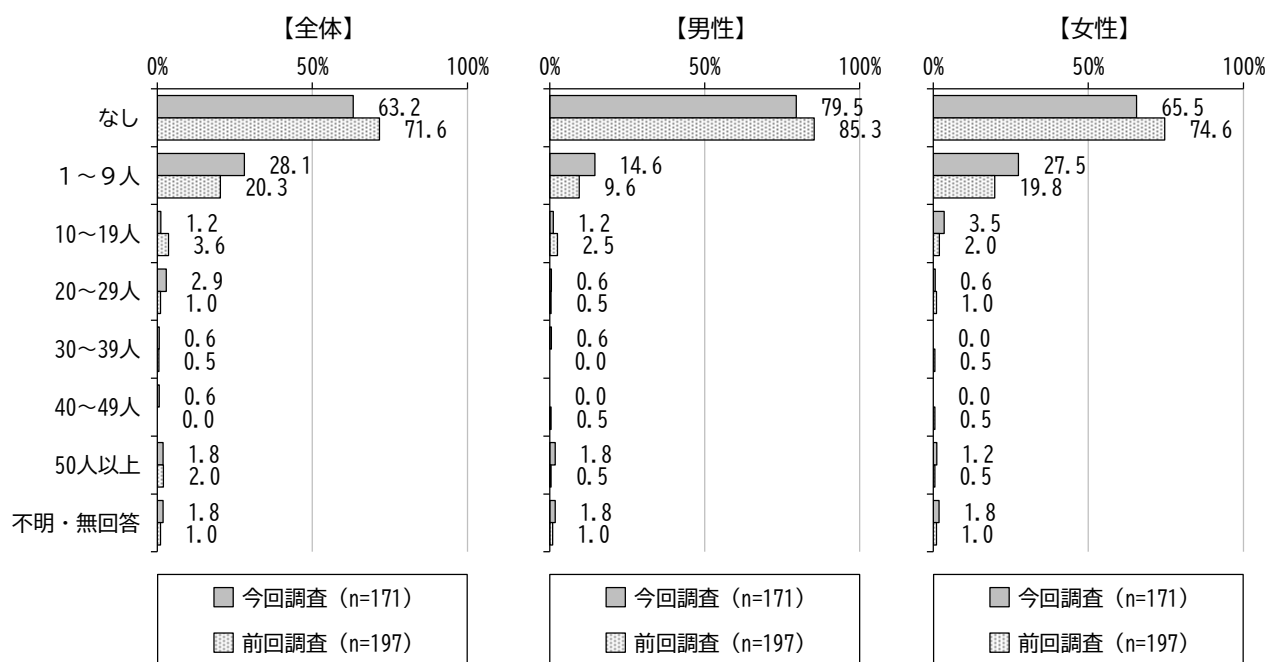


■ 派遣労働者

全体では「なし」が63.2%と最も高く、次いで「1～9人」が28.1%、「20～29人」が2.9%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が8.4ポイント減少し、「1～9人」が7.8ポイント増加しています。

男性では「なし」が79.5%と最も高く、次いで「1～9人」が14.6%、「50人以上」が1.8%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が5.8ポイント減少し、「1～9人」が5.0ポイント増加しています。

女性では「なし」が65.5%と最も高く、次いで「1～9人」が27.5%、「10～19人」が3.5%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が9.1ポイント減少し、「1～9人」が7.7ポイント増加しています。

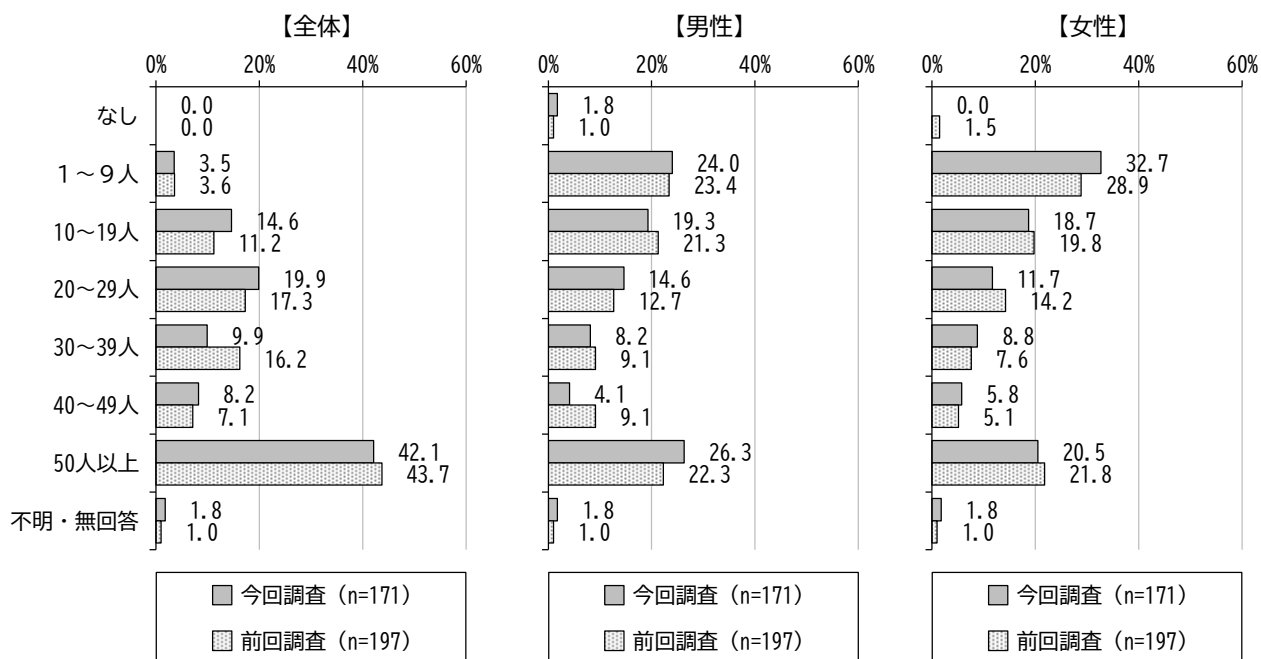


■ 総従業員数

全体では「50人以上」が42.1%と最も高く、次いで「20～29人」が19.9%、「10～19人」が14.6%となっています。前回調査と比較すると、「30～39人」が6.3ポイント減少しています。

男性では「50人以上」が26.3%と最も高く、次いで「1～9人」が24.0%、「10～19人」が19.3%となっています。前回調査と比較すると、「40～49人」が5.0ポイント減少しています。

女性では「1～9人」が32.7%と最も高く、次いで「50人以上」が20.5%、「10～19人」が18.7%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



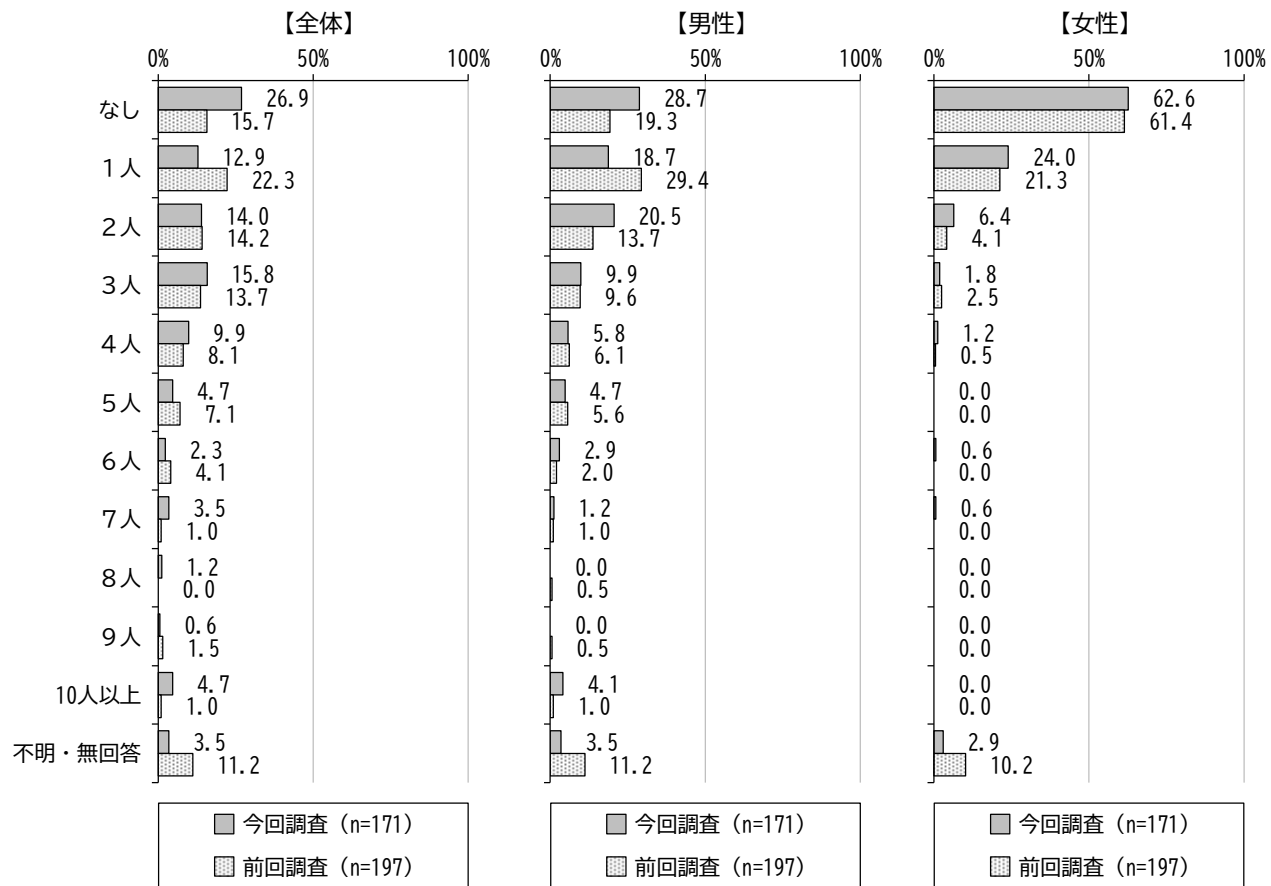
問4 貴事業所における各役職者の人数と、女性役職者の割合を記入してください。(数字で記入)

①役員

全体では「なし」が26.9%と最も高く、次いで「3人」が15.8%、「2人」が14.0%となっています。
前回調査と比較すると、「なし」が11.2ポイント増加し、「1人」が9.4ポイント減少しています。

男性では「なし」が28.7%と最も高く、次いで「2人」が20.5%、「1人」が18.7%となっています。
前回調査と比較すると、「1人」が10.7ポイント減少し、「なし」が9.4ポイント増加しています。

女性では「なし」が62.6%と最も高く、次いで「1人」が24.0%、「2人」が6.4%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

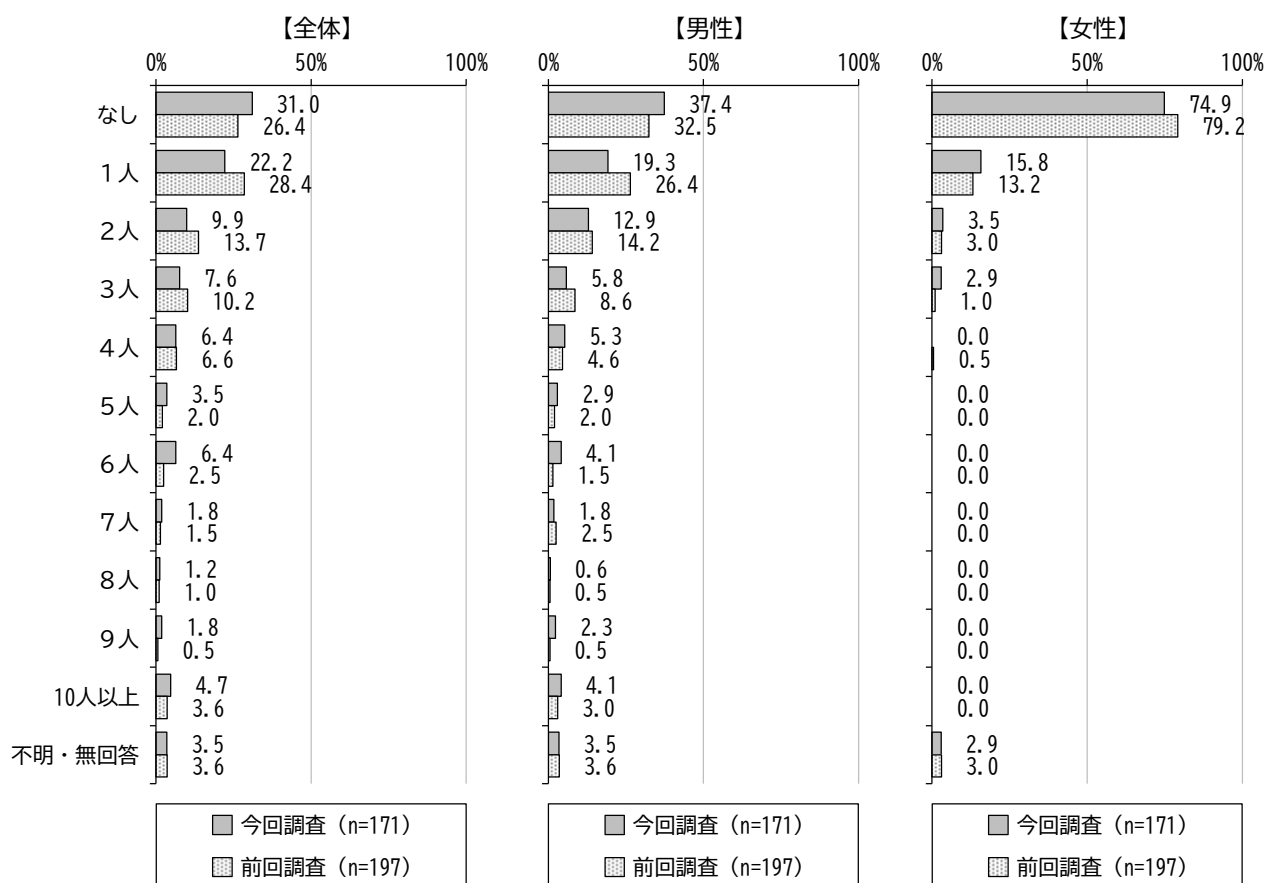


②部長相当職

全体では「なし」が31.0%と最も高く、次いで「1人」が22.2%、「2人」が9.9%となっています。前回調査と比較すると、「1人」が6.2ポイント減少しています。

男性では「なし」が37.4%と最も高く、次いで「1人」が19.3%、「2人」が12.9%となっています。前回調査と比較すると、「1人」が7.1ポイント減少しています。

女性では「なし」が74.9%と最も高く、次いで「1人」が15.8%、「2人」が3.5%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

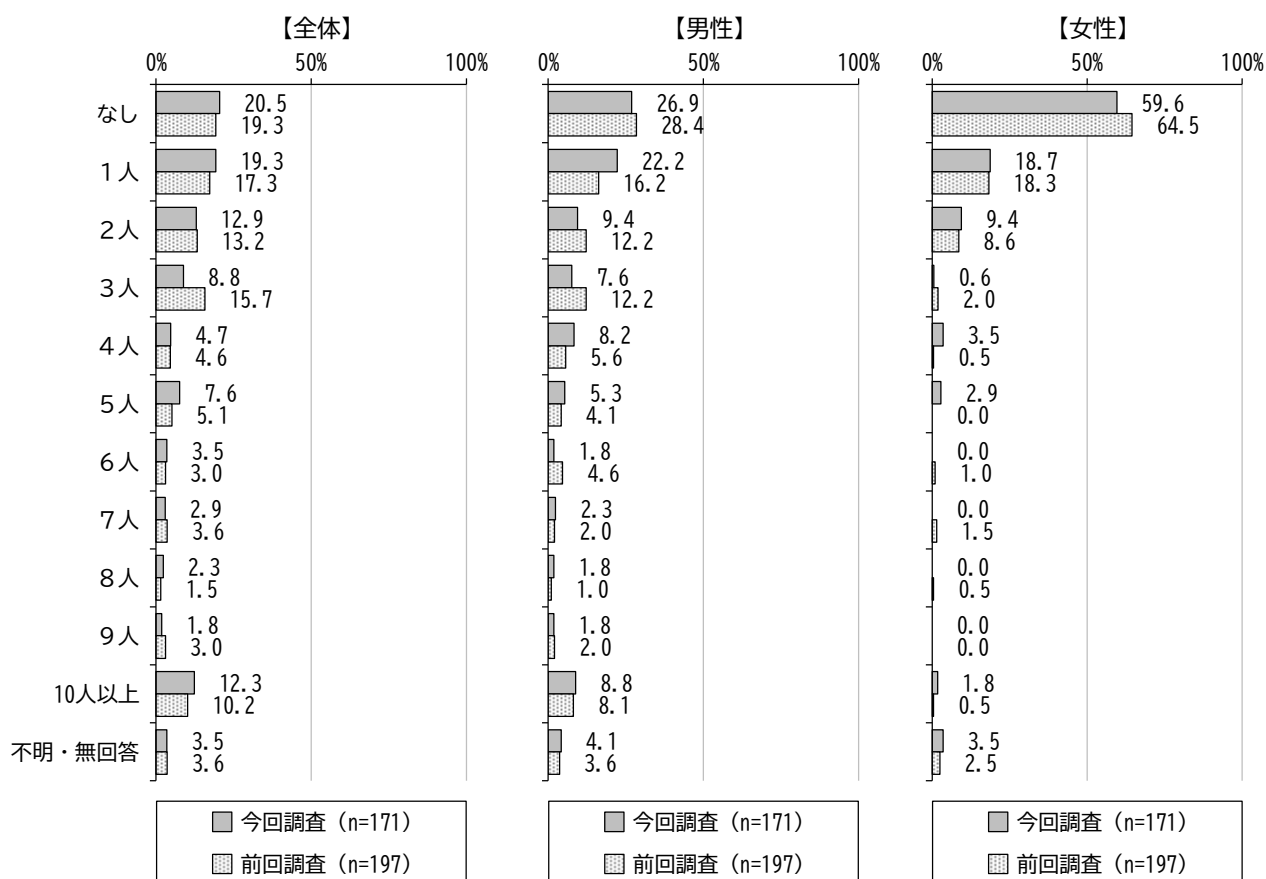


③課長相当職

全体では「なし」が20.5%と最も高く、次いで「1人」が19.3%、「2人」が12.9%となっています。前回調査と比較すると、「3人」が6.9ポイント減少しています。

男性では「なし」が26.9%と最も高く、次いで「1人」が22.2%、「2人」が9.4%となっています。前回調査と比較すると、「1人」が6.0ポイント増加しています。

女性では「なし」が59.6%と最も高く、次いで「1人」が18.7%、「2人」が9.4%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

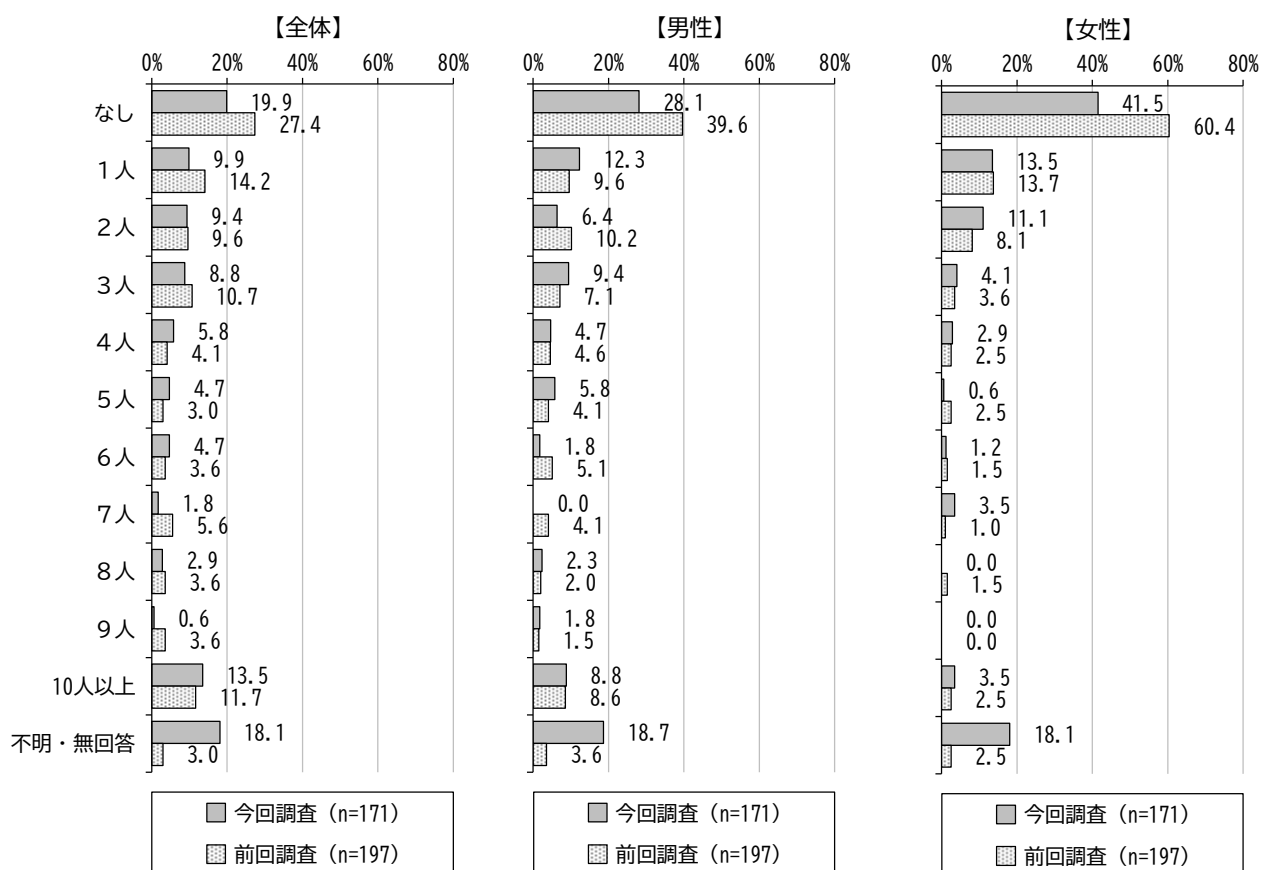


④係長相当職

全体では「なし」が19.9%と最も高く、次いで「10人以上」が13.5%、「1人」が9.9%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が7.5ポイント減少しています。

男性では「なし」が28.1%と最も高く、次いで「1人」が12.3%、「3人」が9.4%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が11.5ポイント減少しています。

女性では「なし」が41.5%と最も高く、次いで「1人」が13.5%、「2人」が11.1%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が18.9ポイント減少しています。



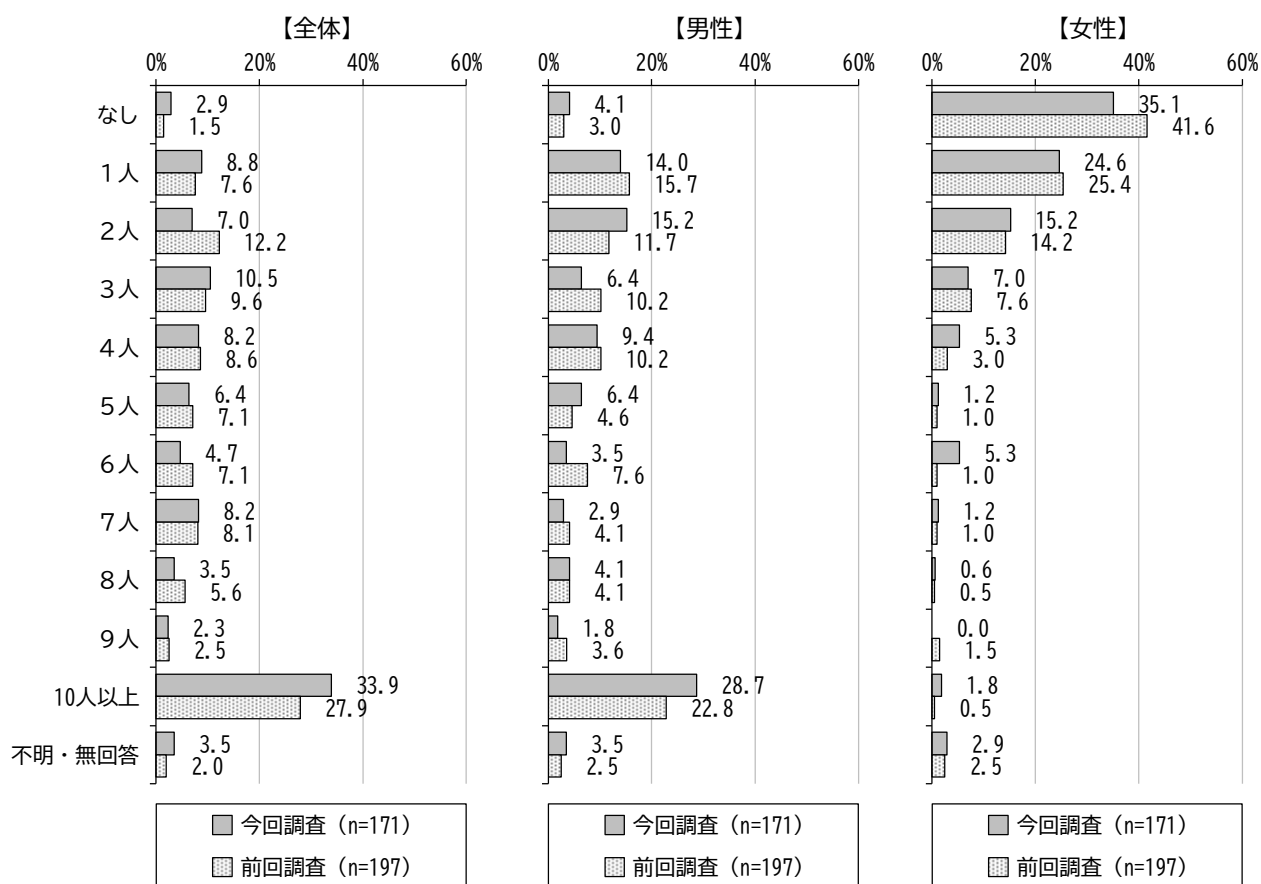
■ 管理職の人数（①～③の合計）

（管理職とは、配下の従業員を指揮・監督する立場にある役職（課長級以上）を指します。）

全体では「10人以上」が33.9%と最も高く、次いで「3人」が10.5%、「1人」が8.8%となっています。前回調査と比較すると、「10人以上」が6.0ポイント増加し、「2人」が5.2ポイント減少しています。

男性では「10人以上」が28.7%と最も高く、次いで「2人」が15.2%、「1人」が14.0%となっています。前回調査と比較すると、「10人以上」が5.9ポイント増加しています。

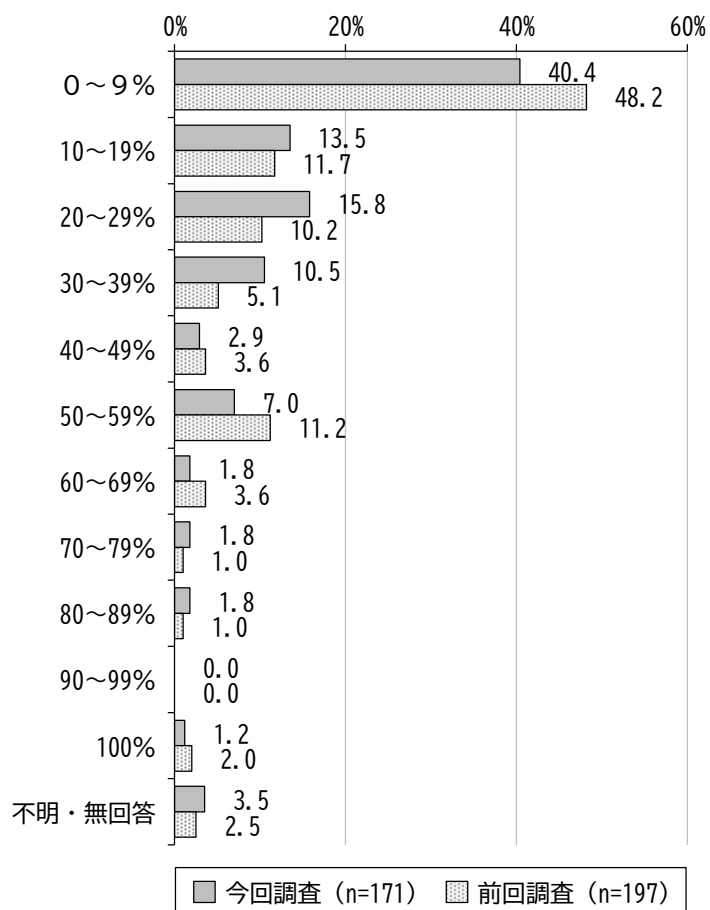
女性では「なし」が35.1%と最も高く、次いで「1人」が24.6%、「2人」が15.2%となっています。前回調査と比較すると、「なし」が6.5ポイント減少しています。



■ 女性管理職の割合

「0～9%」が40.4%と最も高く、次いで「20～29%」が15.8%、「10～19%」が13.5%となっています。

前回調査と比較すると、「0～9%」が7.8ポイント減少し、「20～29%」が5.6ポイント増加しています。

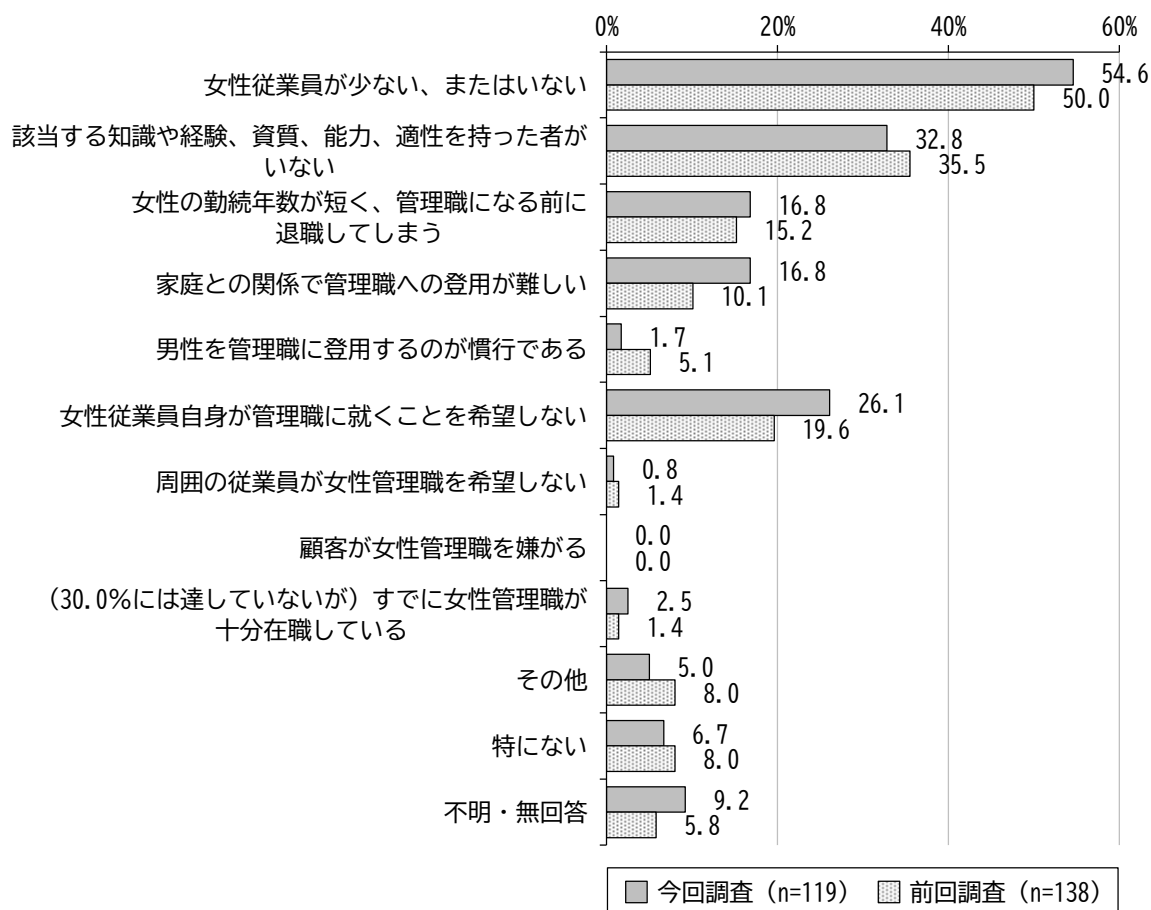


問4で女性管理職の割合が「30.0%未満」の事業所

問5 貴事業所において、女性管理職が少ない（または、いない）のは、どのような理由からですか。（〇はあてはまるものすべて）

「女性従業員が少ない、またはいない」が54.6%と最も高く、次いで「該当する知識や経験、資質、能力、適性を持った者がいない」が32.8%、「女性従業員自身が管理職に就くことを希望しない」が26.1%となっています。

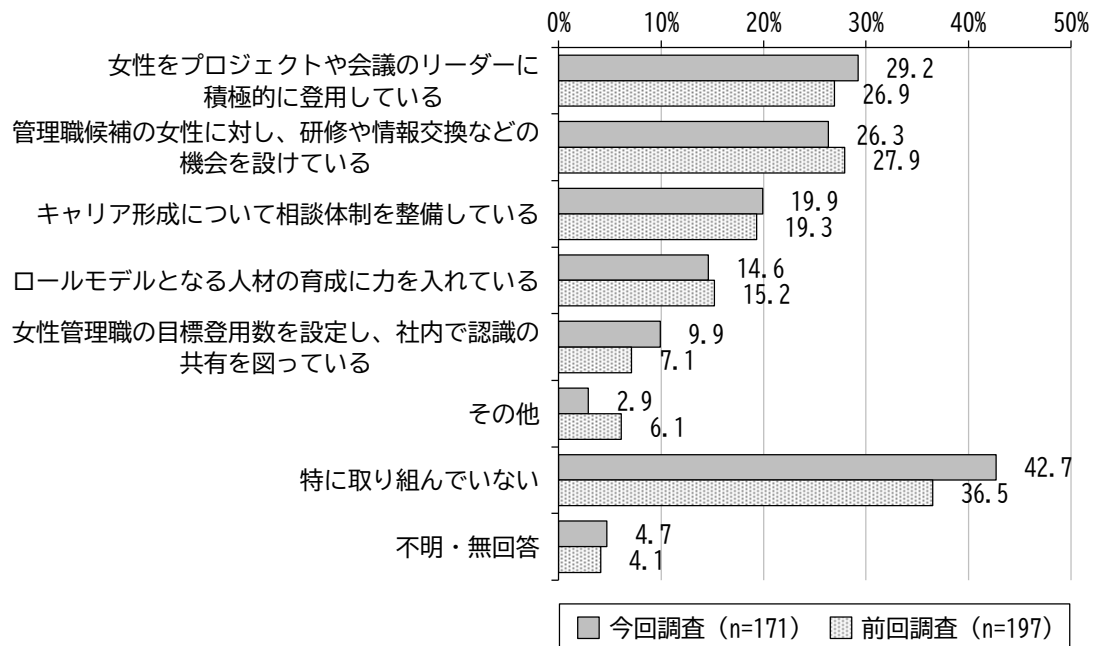
前回調査と比較すると、「家庭との関係で管理職への登用が難しい」が6.7ポイント、「女性従業員自身が管理職に就くことを希望しない」が6.5ポイント増加しています。



問6 貴事業所において、女性の育成や管理職を増やすために行っている取り組みはありますか。
(〇はあてはまるものすべて)

「特に取り組んでいない」が42.7%と最も高く、次いで「女性をプロジェクトや会議のリーダーに積極的に登用している」が29.2%、「管理職候補の女性に対し、研修や情報交換などの機会を設けている」が26.3%となっています。

前回調査と比較すると、「特に取り組んでいない」が6.2ポイント増加しています。



2 育児・介護両立支援、ワーク・ライフ・バランスについて

問7 貴事業所の育児休業・介護休業取得者についてお答えください。

(令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3年間に取得の人数)

育児休業の取得状況についてみると、〔① 配偶者が出産した男性〕では「あり（1人以上）」が67事業所、〔うち育児休業を開始した男性〕では「あり（1人以上）」が52事業所となっています。

〔② 本人が出産した女性〕では「あり（1人以上）」が77事業所、〔うち育児休業を開始した女性〕では「あり（1人以上）」が76事業所となっています。

介護休業の取得状況についてみると、〔① 介護休業を開始した男性〕では「あり（1人以上）」が13事業所、〔② 介護休業を開始した女性〕では「あり（1人以上）」が18事業所となっています。

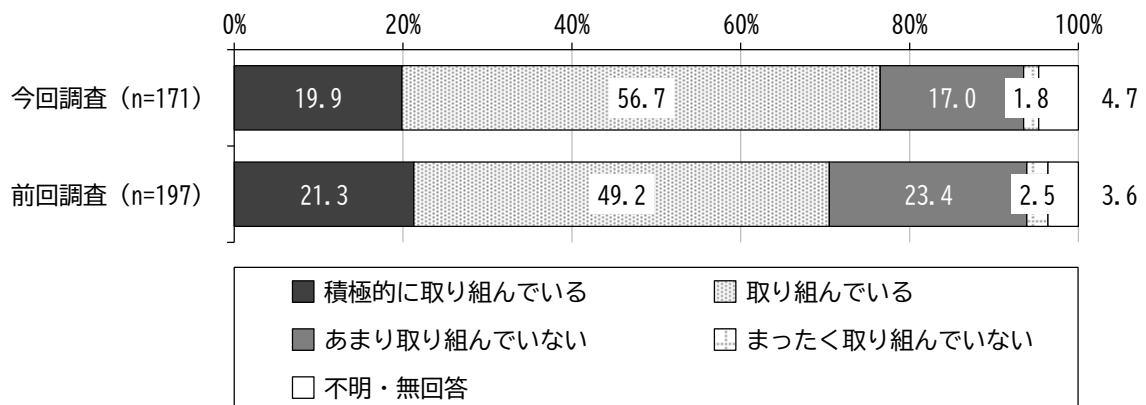
【今回調査】		単位：事業所							
		合計	なし	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明・無回答
育 児	① 配偶者が出産した男性	171	84	18	12	10	7	20	20
	うち育児休業を開始した男性	67	15	19	13	8	3	9	0
	② 本人が出産した女性	171	81	28	24	7	4	14	13
	うち育児休業を開始した女性	77	1	27	23	7	4	14	1
介 護	① 介護休業を開始した男性	171	137	10	1	0	1	1	21
	② 介護休業を開始した女性	171	134	10	2	3	1	2	19

問8 貴事業所では、従業員のワーク・ライフ・バランスについてどの程度取り組んでいますか。

(〇は1つ)

「取り組んでいる」が56.7%と最も高く、次いで「積極的に取り組んでいる」が19.9%、「あまり取り組んでいない」が17.0%となっています。

前回調査と比較すると、「取り組んでいる」が7.5ポイント増加し、「あまり取り組んでいない」が6.4ポイント減少しています。

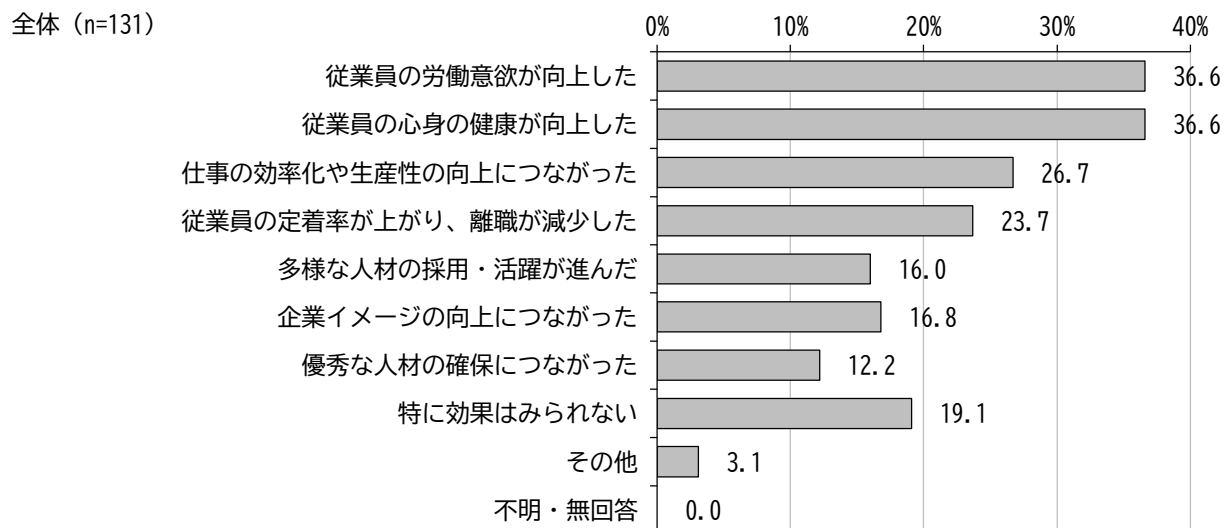


問8で「積極的に取り組んでいる」または「取り組んでいる」と回答された事業所

問8-1 ワーク・ライフ・バランスの取り組みによって、どのような効果があったと感じますか。

(○はあてはまるものすべて)

「従業員の労働意欲が向上した」「従業員の心身の健康が向上した」が36.6%と最も高く、次いで「仕事の効率化や生産性の向上につながった」が26.7%となっています。

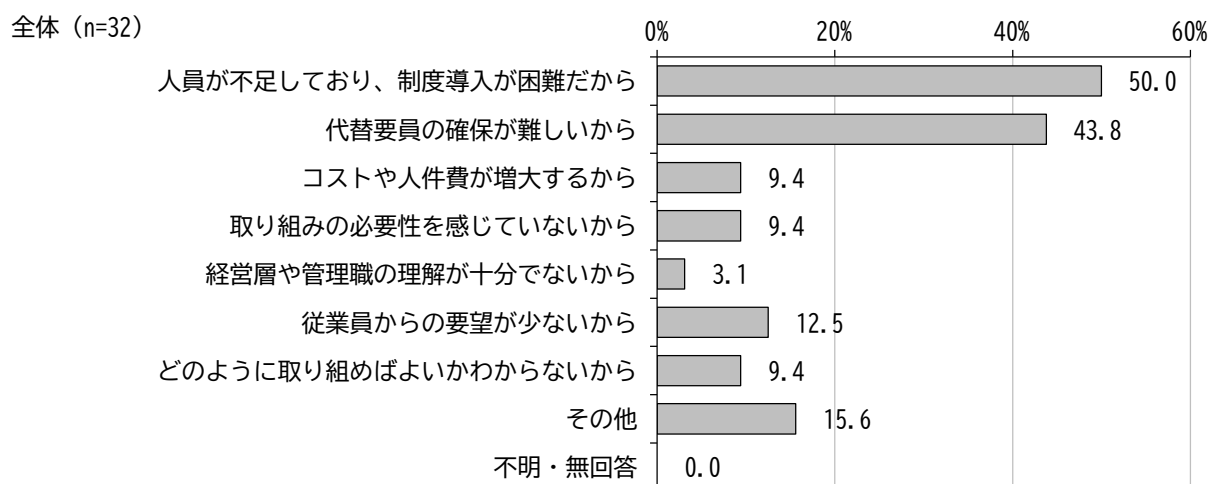


問8で「あまり取り組んでいない」または「まったく取り組んでいない」と回答された事業所

問8-2 ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいない理由は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

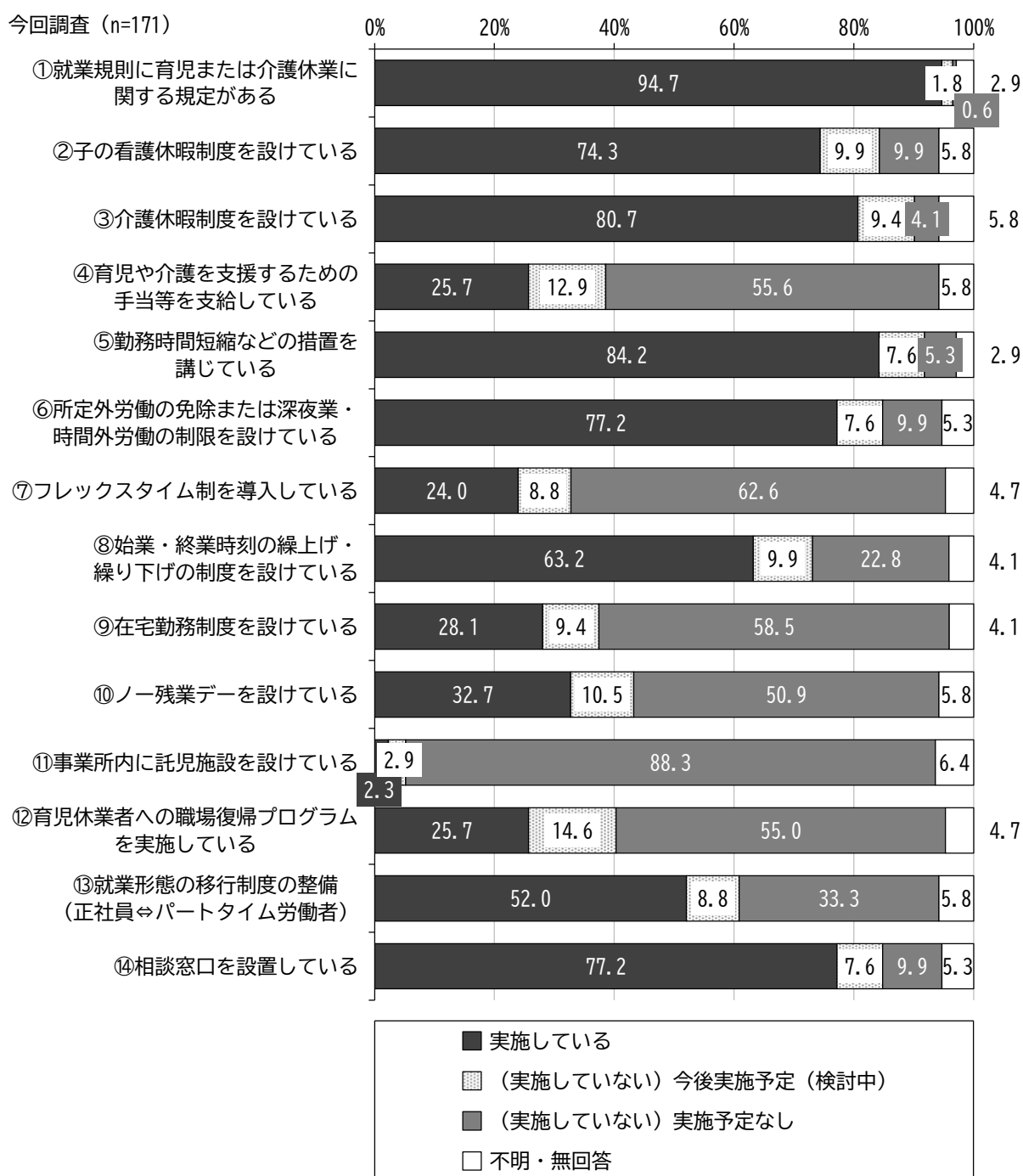
「人員が不足しており、制度導入が困難だから」が50.0%と最も高く、次いで「代替要員の確保が難しいから」が43.8%、「その他」が15.6%となっています。

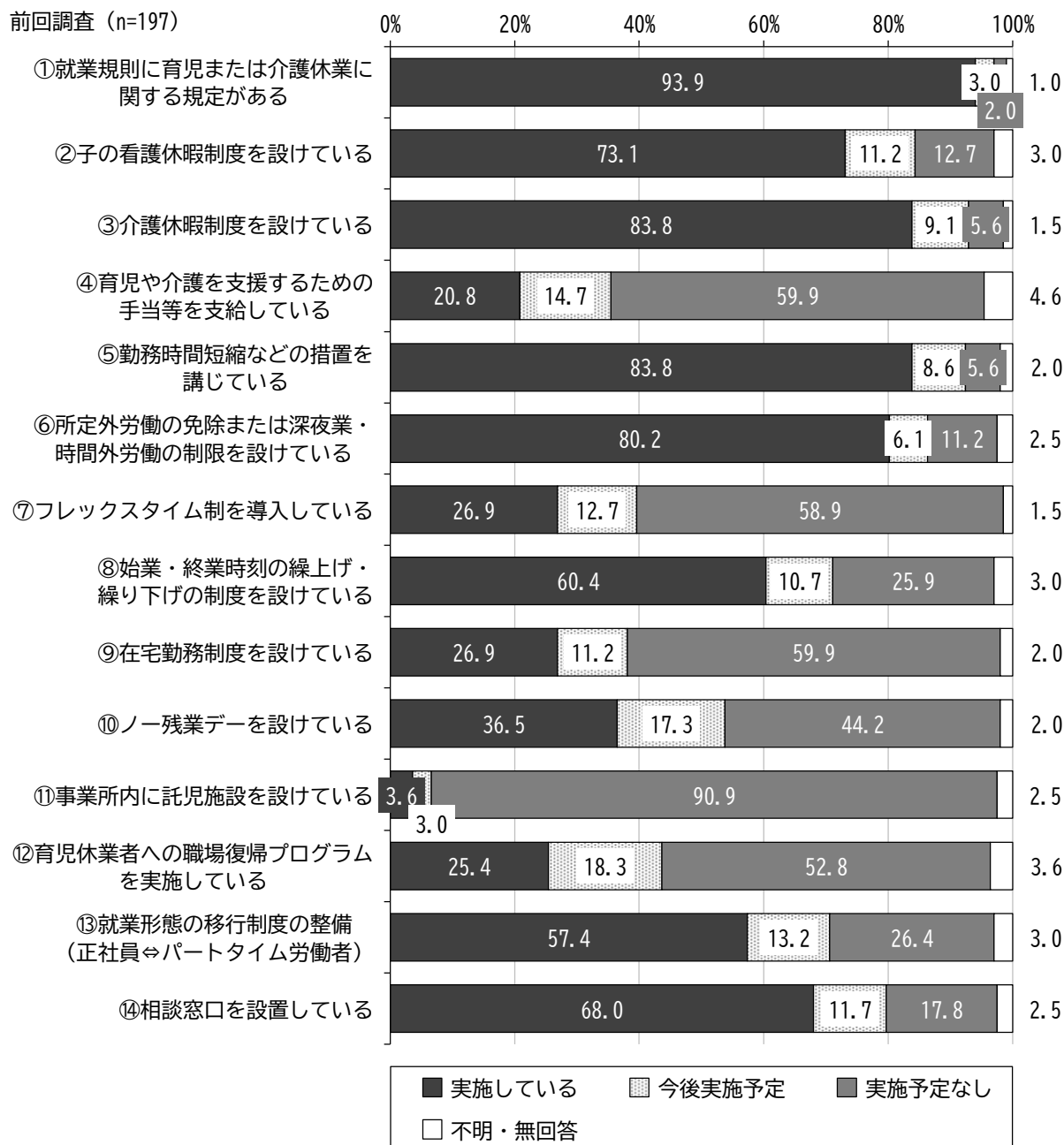


問9 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスの促進や、働きながら育児・介護を行う従業員のために、取り組んでいることはありますか。また、今後実施予定（検討中含む）はありますか。（それぞれ〇は1つ）

〔④育児や介護を支援するための手当等を支給している〕〔⑦フレックスタイム制を導入している〕〔⑨在宅勤務制度を設けている〕〔⑩ノー残業デーを設けている〕〔⑪事業所内に託児施設を設けている〕〔⑫育児休業者への職場復帰プログラムを実施している〕では「（実施していない）実施予定なし」、その他の項目では「実施している」が最も高くなっています。

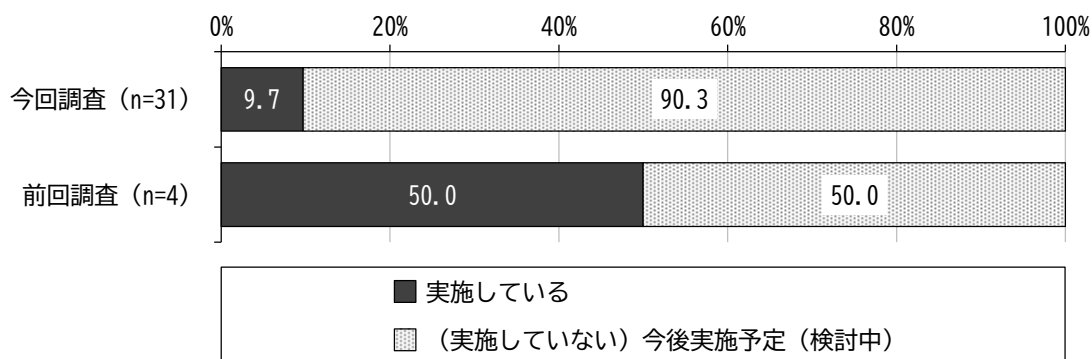
前回調査と比較すると、〔⑭相談窓口を設置している〕で「実施している」が9.2ポイント増加し、「（実施していない）実施予定なし」が7.9ポイント減少しています。





⑮その他

「実施している」が9.7%、「(実施していない) 今後実施予定 (検討中)」が90.3%となっています。



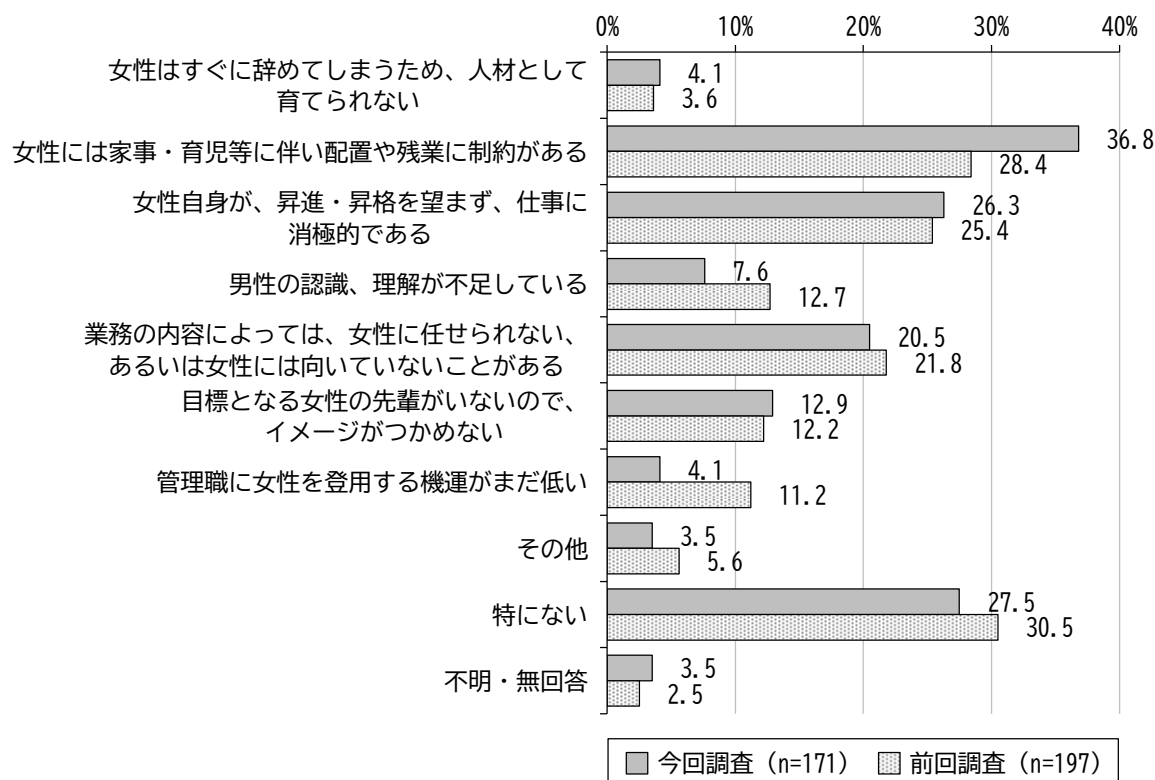
※「不明・無回答」を除いています。

3 多様な人材の活躍について

問 10 貴事業所において、女性も男性も同じような環境で働いていくために、特に女性にとって課題となっていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

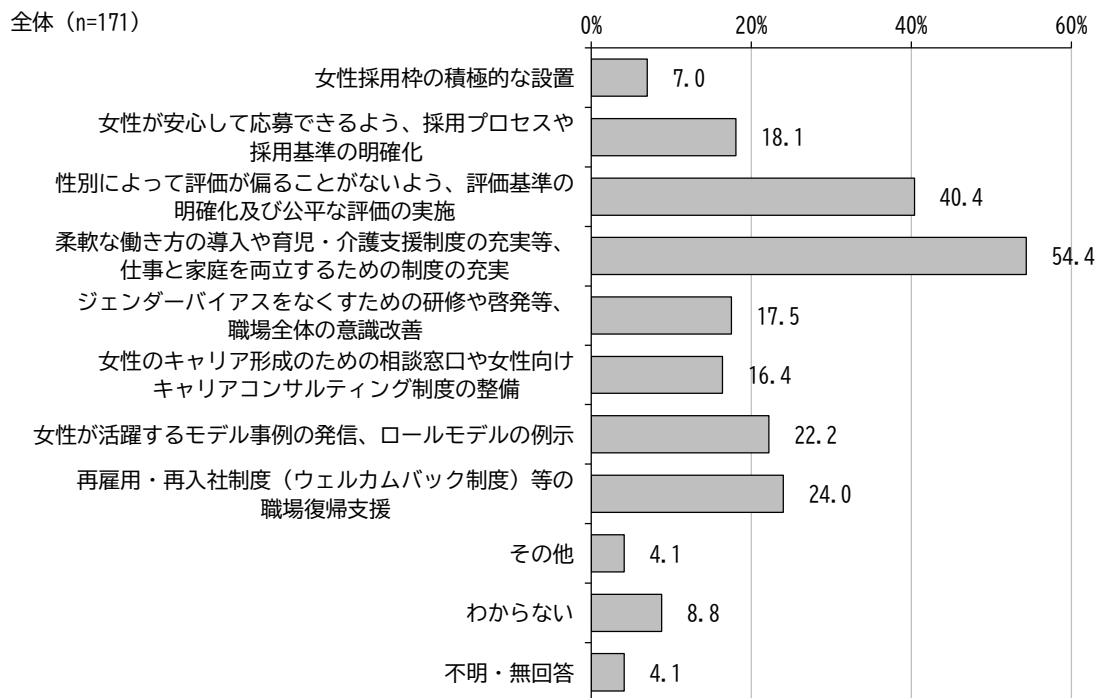
「女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある」が 36.8%と最も高く、次いで「特にない」が 27.5%、「女性自身が、昇進・昇格を望まず、仕事に消極的である」が 26.3%となっています。

前回調査と比較すると、「女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある」が 8.4 ポイント増加し、「管理職に女性を登用する機運がまだ低い」が 7.1 ポイント減少しています。



問 11 女性に選ばれ、女性が活躍できる地域づくりのために、女性を積極的に採用する事業所の取り組みとして何が重要だと考えますか。(〇はあてはまるものすべて)

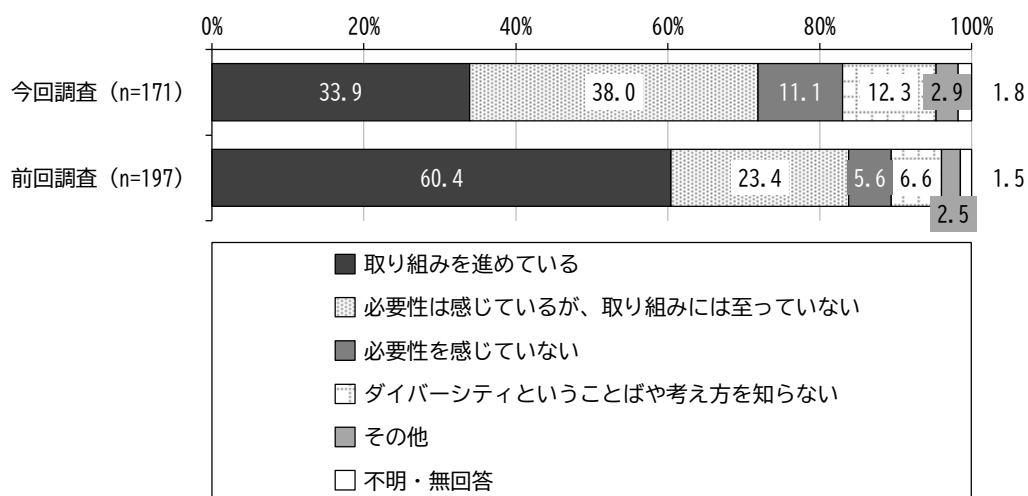
「柔軟な働き方の導入や育児・介護支援制度の充実等、仕事と家庭を両立するための制度の充実」が 54.4%と最も高く、次いで「性別によって評価が偏ることがないように、評価基準の明確化及び公平な評価の実施」が 40.4%、「再雇用・再入社制度（ウェルカムバック制度）等の職場復帰支援」が 24.0%となっています。



問 12 貴事業所では、ダイバーシティについて取り組みを進めていますか。(〇は 1 つ)

「必要性は感じているが、取り組みには至っていない」が 38.0%と最も高く、次いで「取り組みを進めている」が 33.9%、「ダイバーシティということばや考え方を知らない」が 12.3%となっています。

前回調査と比較すると、「取り組みを進めている」が 26.5 ポイント減少し、「必要性は感じているが、取り組みには至っていない」が 14.6 ポイント増加しています。

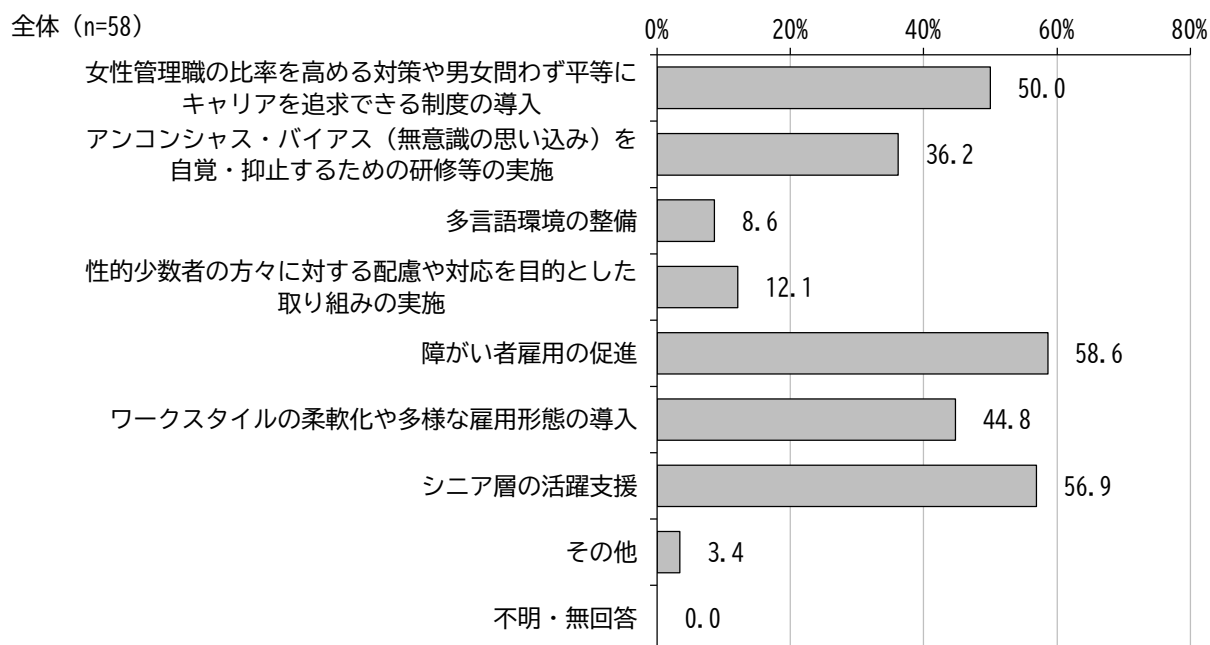


※ 選択肢「取り組みを進めている」は、前回調査では「多様な人材の採用・活用に努めている」。

問 12 で「取り組みを進めている」と回答された事業所

問 12-1 貴事業所では、どのような取り組みを行っていますか。(〇はあてはまるものすべて)

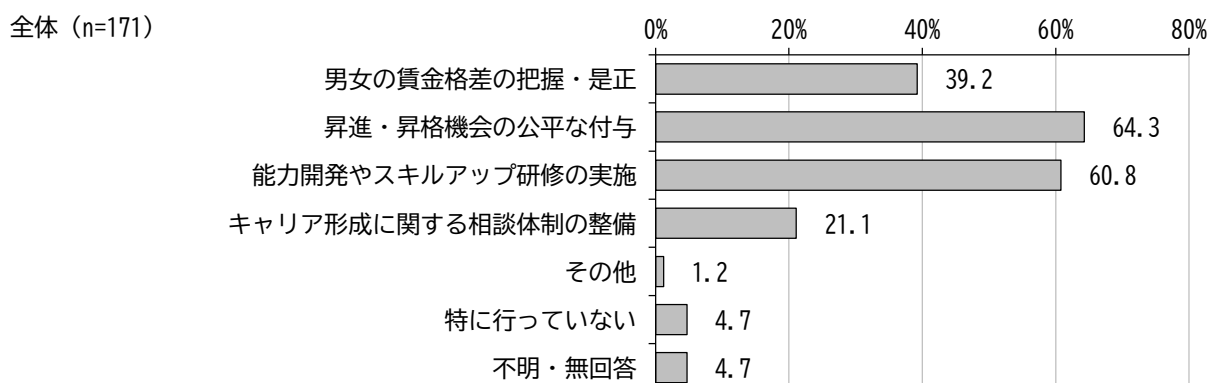
「障がい者雇用の促進」が 58.6%と最も高く、次いで「シニア層の活躍支援」が 56.9%、「女性管理職の比率を高める対策や男女問わず平等にキャリアを追求できる制度の導入」が 50.0%となっています。



問 13 従業員のやりがいや経済的自立を支えるため、どのような取り組みを行っていますか。

(〇はあてはまるものすべて)

「昇進・昇格機会の公平な付与」が 64.3%と最も高く、次いで「能力開発やスキルアップ研修の実施」が 60.8%、「男女の賃金格差の把握・是正」が 39.2%となっています。



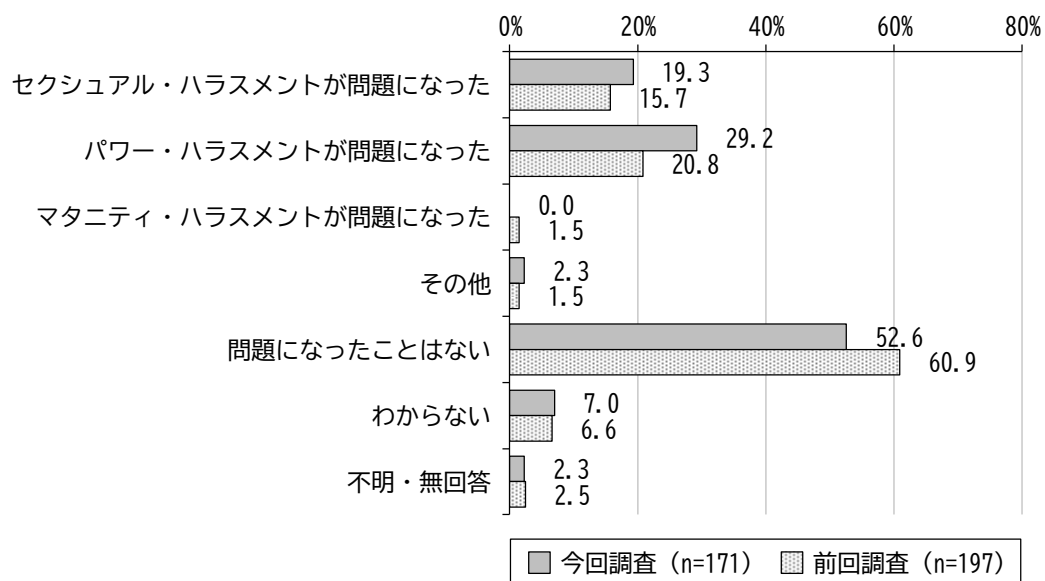
4 ハラスメントについて

問 14 貴事業所において、ハラスメントが問題になったことはありますか。

(〇はあてはまるものすべて)

「問題になったことはない」が 52.6%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメントが問題になった」が 29.2%、「セクシュアル・ハラスメントが問題になった」が 19.3%となっています。

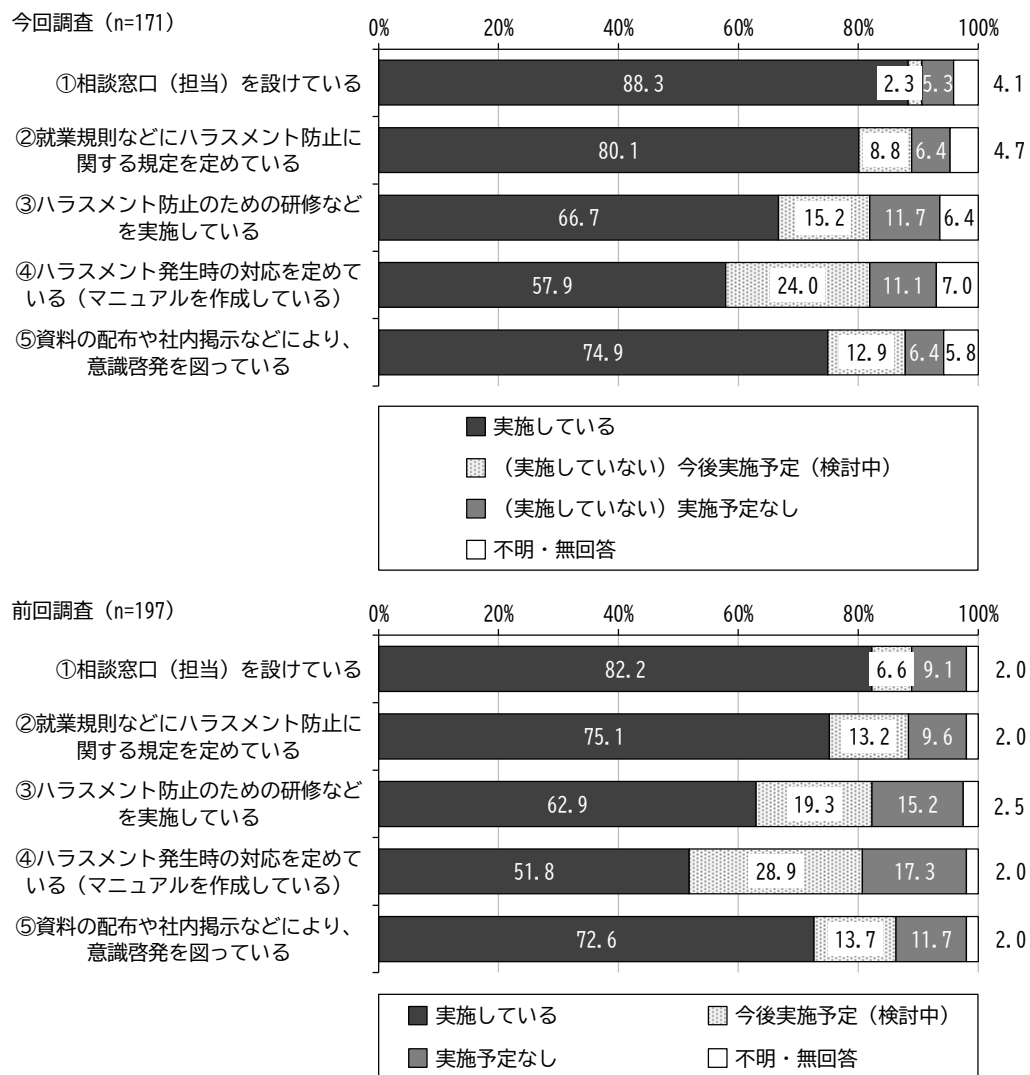
前回調査と比較すると、「パワー・ハラスメントが問題になった」が 8.4 ポイント増加し、「問題になったことはない」が 8.3 ポイント減少しています。



問 15 貴事業所では、ハラスメント防止に関して取り組んでいることはありますか。また、今後実施予定（検討中含む）はありますか。（それぞれ○は1つ）

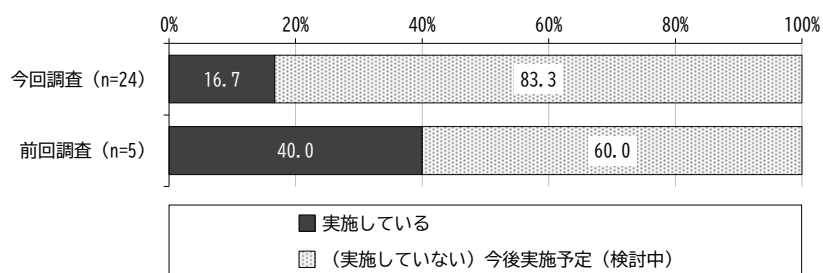
すべての項目で「実施している」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、〔④ハラスメント発生時の対応を定めている（マニュアルを作成している）〕で「（実施していない）実施予定なし」が6.2ポイント減少し、〔①相談窓口（担当）を設けている〕〔④ハラスメント発生時の対応を定めている（マニュアルを作成している）〕で「実施している」が6.1ポイント増加しています。



⑥その他

「実施している」が16.7%、「（実施していない）今後実施予定（検討中）」が83.3%となっています。



※「不明・無回答」を除いています。

5 男女共同参画全般について

問 16 貴事業所における男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの実現のために、特に行政に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

内容
職種によって働き方が違いますので、何でもかんでも一律に提唱されるのはいかがかと思うことがあります。日本の伝統的な職人技術は労働という観念のもとでは身につけにくく、技術の継承がうまくいくのかな？と思います。
中小企業への助成。
育児休業や介護休業を取得した社員本人に対する経済的支援はもとより、それにより不足した要員を埋めるために新たに雇用した社員を引き続き雇用できるような資金面での恒久的な補助が必要。社員が休業中も、復帰後を考慮して要員枠を空けておかなければならず、またその間を穴埋めする社員を補充をしたいと思っても休業者復帰後は過員となってしまうため、新たな雇用がしづらい。
福祉、介護の現場は常に人材不足と、人員配置ゆえの「休みにくさ」があります。残業が少なく定時に帰れるよう、ゆっくり休憩が取れるよう、有給休暇が取れるよう、業務の工夫に必死になっています。多様化、働き方という考えや、世間の風潮は素晴らしいものと理解していますが、リモートで出来る仕事ではない介護や例えば病院もそうですが、穴をあけることが出来ない事業に対して、同じルールで働き方改革を進めていくにはそろそろ限界を感じます。
保育施設の拡充。
介護業界、特に訪問介護の人員不足の解消をおねがいしたい。人員がたりないため、休みが自由にとれず、ワークライフバランスなど言っている場合ではない。賃金を上げられるような状態ではないため、離職にはどめがかからない。
当社の現状では間違った法律であると考えています。社員意識バランスは遊び方バランスと捉えています。
ワークもライフも両方楽しくないと人生しんどい。ワークライフバランスという考え方には賛同できません。
延長保育や夜間保育、休日保育のさらなる拡充。病児保育の受け皿拡大、突発的な事態でも従業員が仕事の責任を果たせるようなバックアップ体制を強化して欲しい。
土日祝を使った研修、平日午前を使った研修。
優秀な女性が多い中、女性の管理職が増えない背景に関しては女性は使える時間があまりにも有限である点だと考えます。そのボトルネックを取り除かない限りは中々進まない内容だと存じますので行政には大きな枠組みでの改革を期待したい。
介護や出産、保育はまだ女性が担うことが多く、経営に余裕がなければ雇用時に休みが多くなると予想される人は採用が難しくなる。休業をとった職員が発生した場合の手当があるとよいのではないと思う。
職員を募集しても応募がない状況であり、啓発をお願いしたい。
介護では女性は重要な人材です。労働市場に出回っていない潜在人材を発掘する政策を期待しています。

※設問の趣旨と異なる回答については、掲載を省略しています。

○最後に、男女共同参画に関してご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

内容
何でも平等という考えから一歩進んで、得意不得意をおぎない合って支えあうという視点が大事なかなと思います。あくまで私見です。
このようなアンケート回答には謝礼をつけるべきだと思います。謝礼を払わずアンケートの回答を求めることが失礼である（時間をさいている→その間も給与は事業所が払っている）。
男女共同参画につきましては弊社本社にて対応しております。
門戸は開いているが、女性の参画率は女性社員自身が望まなければ向上しない。また、性差を考慮しない無理矢理な推進は整備を整えるために企業の負担を増やすだけで、その経済的・労力的なしわ寄せは男女問わずすべての社員に押し寄せることになり、休業等の取得を促しても会社や仲間を思う社員ほど戸惑うことが多く、精神的な格差が生じている。
男女問わず、ですが「ワークライフバランス」という言葉、イメージが「仕事より家庭、自分」という意識の若者が多くなったように感じます。ワークとライフのバランスは人それぞれ、そして「ワーク」の時間はめいいっぱい仕事に集中する、仕事を楽しく感じる、そういう発信もしていただきたいです。今の風潮は正直かたよりすぎでバランスというよりはかたよっていると思います。楽に働くのがいい、仕事は出来るだけしたくない、では、エッセンシャルワーカーは育ちません。なりたい人もいなくなってしまう。そこに行政の支援を入れていただきたいです。
性別も全て個性、持ち味だと思うので、1人1人が持ち味を発揮してイキイキ輝ける世界が良いなと考えます。そんな社会を、場を、微力ながら目指してつくっていきます！
福祉は女性が多い職種であるため、もっと男性も入りやすいようなことができればありがたい。
男女は平等ではありません。対等です。お互いに助け合って補わなければなりません。法律は女性の保護が優先されています。
まだまだ男性中心の会社です。女性が集まる会社になりたいですね。
会社として男女共同参画を推進する以前に、1歳時点で保育所に入所できず復帰が遅れる現状が、本人のキャリア形成および企業の計画的な人員登用において最大の障害となっている。このタイムロスが、結果として昇進や賃金の差異を生んでいる事実を行政としても真摯に受け止め、希望時期に100%入所できる環境を最優先で整備していただきたい。
そもそも弊社は年齢や性別による違いや格差はなく、技術力によって優劣をつけています。故にフォーカスが合っていないと感じた。

大津市
男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書

発行：大津市 政策調整部 人権・男女共同参画課
TEL：077-528-2791
FAX：077-527-6288

発行年月：令和8年3月